
四万十市 人権に関する市民意識調査

－ 報告書 －

平成26年9月
高知県 四万十市

～ 目 次 ～

I 調査の概要	1
II 回答者の属性	3
1. 性別構成	3
2. 年齢別構成	3
3. 職業構成	4
4. 未既婚	5
5. 家族構成	6
6. 同居の子どもの有無	7
III 調査結果	8
【1】人権意識全般について	8
1. 基本的人権が尊重されている社会について	8
2. 人権に対する意識	10
3. 人権侵害や差別の変化	11
4. 人権についての関心	12
5. 自身の人権侵害について	15
6. 人権侵害の内容	16
7. 人権侵害についての相談先	19
【2】子どもの人権について	22
1. 子どもの人権で問題と感ずること	22
2. 子どもの人権の尊重についての変化	25
3. 子どもの人権を守るため必要と思うこと	26
4. 虐待の通報等について	29
【3】女性の人権について	31
1. 女性の人権で問題と感ずること	31
2. 女性の人権の尊重についての変化	34
3. 女性の人権を守るため必要と思うこと	35
【4】高齢者の人権について	38
1. 高齢者の人権で問題と感ずること	38
2. 高齢者の人権の尊重についての変化	41
3. 高齢者の人権を守るため必要と思うこと	42
【5】障害者の人権について	45
1. 障害者の地域生活で問題と感ずること	45
2. 障害者の人権の尊重についての変化	48
3. 障害のある人の人権を守るため必要と思うこと	49

【6】 HIV感染者等の人権について	52
1. HIV感染者等について人権上問題と感ずること	52
2. HIV感染者等の人権の尊重についての変化	55
3. HIV感染者等の人権を守るため必要と感ずること	56
【7】 同和問題について	59
1. 同和問題についての認識	59
2. 同和問題について知った時期	60
3. 同和問題について知ったきっかけ	62
4. 同和問題に対する意識	65
5. 同和問題で人権上問題と感ずること	68
6. 同和地区の人の人権の尊重についての変化	71
7. 同和問題を解決するため必要と感ずること	72
【8】 外国人の人権について	75
1. 外国人の地域生活で問題と感ずること	75
2. 外国人の人権の尊重についての変化	78
3. 外国人の人権を守るため必要と感ずること	79
【9】 インターネットに関する人権問題について	82
1. インターネットの利用状況	82
2. インターネットによる人権への弊害について	83
3. インターネットに関することで人権上問題と感ずること	84
4. インターネットによる人権侵害を防ぐため必要と感ずること	86
【10】 犯罪被害者やその家族の人権について	89
1. 犯罪被害者やその家族の人権で問題と感ずること	89
【11】 刑を終えて出所した人の人権について	91
1. 刑を終えて出所した人の人権で問題と感ずること	91
【12】 被災者の人権について	94
1. 被災者の人権で問題と感ずること	94
【13】 人権尊重社会の実現について	96
1. 人権教育について	96
2. 研修会・講演会参加状況	99
3. 今後必要と感ずる取り組み	101
資料／調査票	104

I 調査の概要

【調査の目的】

市民の人権問題に関する意識や意見等を把握し、今後の人権施策を推進するうえでの基礎資料を得ることを目的として実施しました。

【調査対象】

市内に居住する 20 歳以上の市民

【抽出方法】

住民基本台帳より無作為抽出

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査時期】

平成 26 年（2014 年）7 月

【回収結果】

配布数 ----- 2,000 人

有効回収数 ----- 719 人

有効回収率 ----- 36.0%

【報告書の見方について】

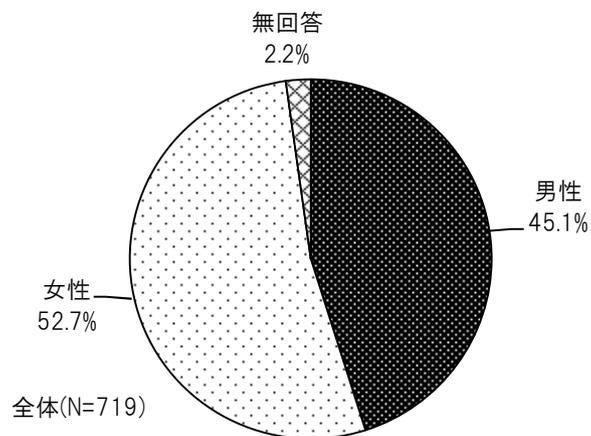
- (1) 集計は小数点以下第2位を四捨五入しています。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- (2) 複数回答質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合があります。
- (3) 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）です。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数*を「n」で表記しています。
- (4) 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合があります。
- (5) 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合があります。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合があります。
- (6) 一部の設問については、平成22年度実施の前回調査の結果、平成24年度実施の高知県の調査結果（「人権に関する県民意識調査報告書」）と比較しています。なお、図表中の「－」は同一の選択肢がない場合を表しています。
- (7) 本報告書では「ハンセン病元患者等・H I V感染症患者等」を「H I V感染者等」と表記しています（質問文や選択肢の表記を除く）。
- (8) この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載しています。

※(例)問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における各属性(「男性」や「30歳代」…)など、限定された回答者数

Ⅱ 回答者の属性

1. 性別構成

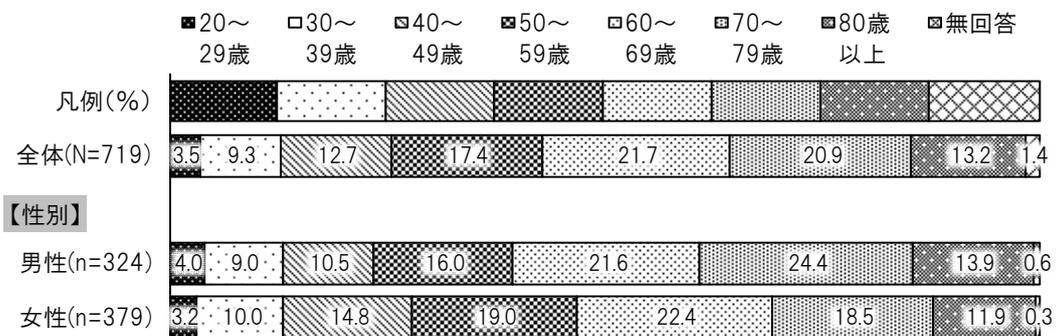
回答者の性別構成は、女性 52.7%、男性 45.1%となっています。



2. 年齢別構成

年齢別構成は、「60歳～69歳」が21.7%と最も高く、次いで「70歳～79歳」(20.9%)、「50歳～59歳」(17.4%)、「80歳以上」(13.2%)、「40～49歳」(12.7%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「70歳～79歳」の割合が高くなっています。



◆参考／性・年齢別有効回収率◆

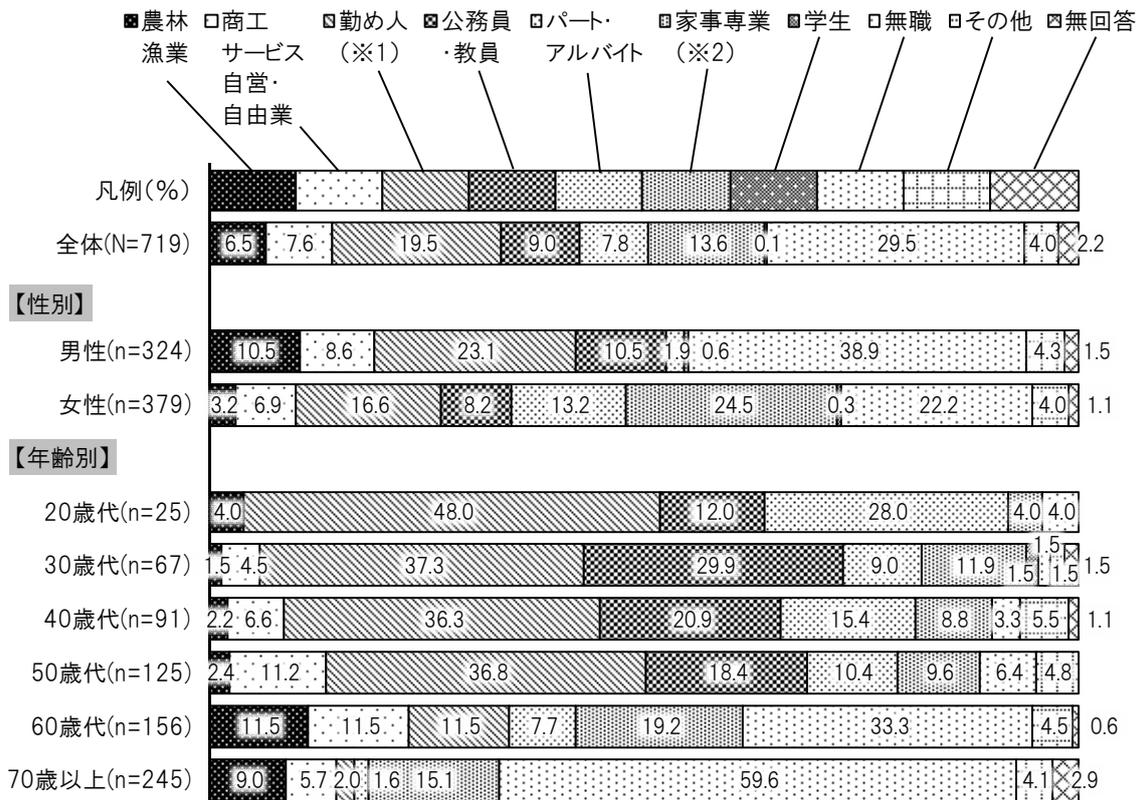
		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
男性	配布数	92	144	162	147	200	137	118
	有効回収数	13	29	34	52	70	79	45
	有効回収率(%)	14.1	20.1	21.0	35.4	35.0	57.7	38.1
女性	配布数	68	114	137	158	188	148	187
	有効回収数	12	38	56	72	85	70	45
	有効回収率(%)	17.6	33.3	40.9	45.6	45.2	47.3	24.1
合計	配布数	160	258	299	305	388	285	305
	有効回収数	25	67	90	124	155	149	90
	有効回収率(%)	15.6	26.0	30.1	40.7	39.9	52.3	29.5

3. 職業構成

職業構成は、「無職」が 29.5%と最も高く、次いで「勤め人（会社や団体に勤めている方）」（19.5%）、「家事専業（主婦・主夫）」（13.6%）の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「勤め人（会社や団体に勤めている方）」「無職」、男性よりも女性で「家事専業（主婦・主夫）」、「無職」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別では、若い年齢層ほど「勤め人（会社や団体に勤めている方）」の割合も高くなる傾向にあります。一方、70歳以上の約6割が「無職」と回答しています。



※1 会社や団体に勤めている方

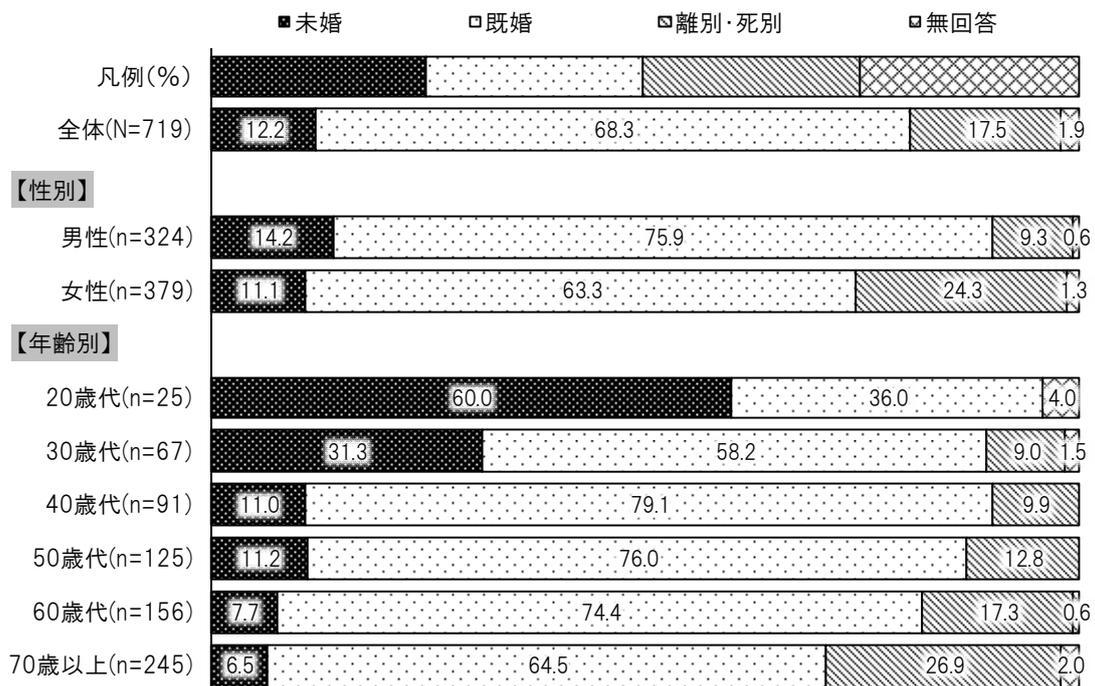
※2 主婦・主夫

4. 未既婚

未既婚については、「既婚」が68.3%と最も高く、次いで「離別・死別」(17.5%)、「未婚」(12.2%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「既婚」、男性よりも女性で「離別・死別」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別では、20歳代で「未婚」の割合が6割を占めており、年齢が上がるほど「離別・死別」の割合が高くなる傾向にあります。

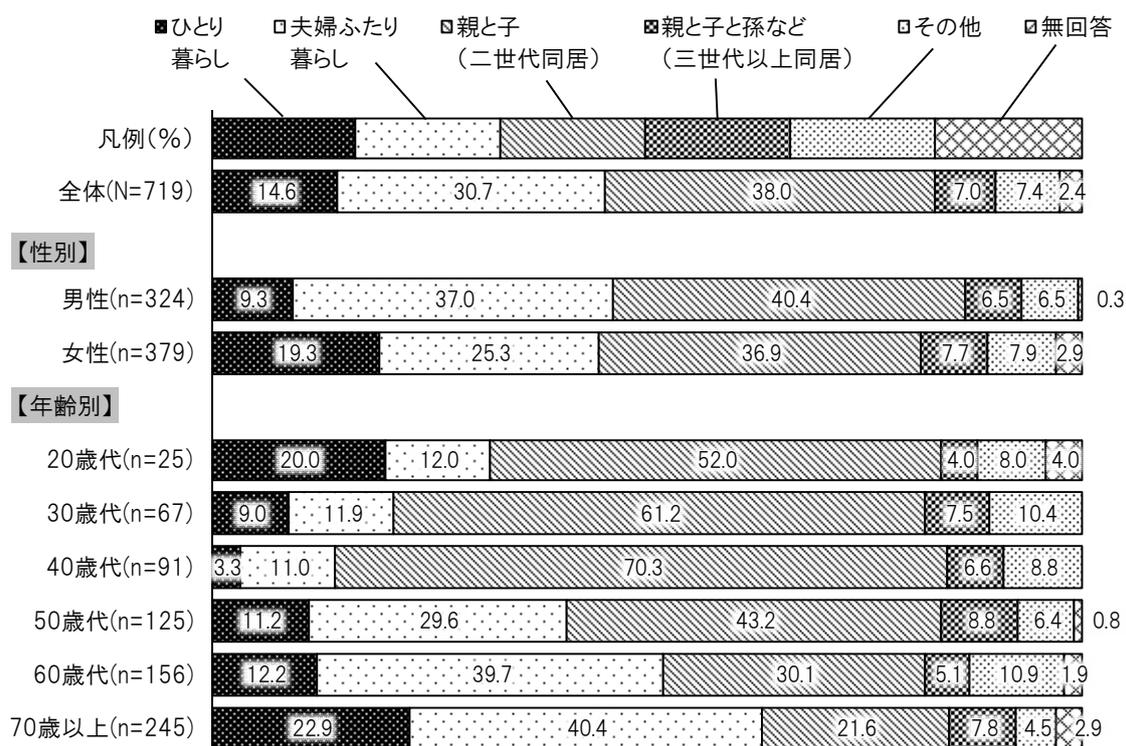


5. 家族構成

同居者構成は、「親と子（二世世代同居）」が38.0%と最も高く、次いで「夫婦ふたり暮らし」（30.7%）、「ひとり暮らし」（14.6%）の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「夫婦ふたり暮らし」「親と子（二世世代同居）」、男性よりも女性で「ひとり暮らし」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別では、40歳代で「親と子（二世世代同居）」の割合が他の年齢層に比べて高く、年齢が上がるほど「夫婦ふたり暮らし」の割合もおおむね高くなる傾向がみられます。

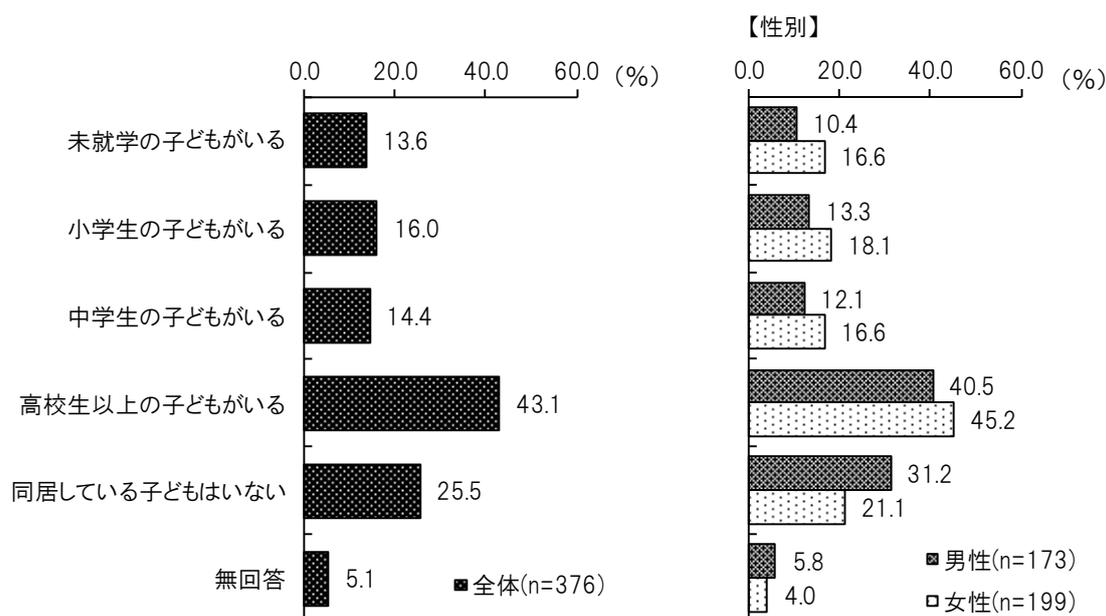


6. 同居の子どもの有無

同居の子どもの有無については、「高校生以上の子どもがいる」が43.1%と最も高くなっています。一方、「同居している子どもはいない」割合は4人に1人となっています。

性別では、女性よりも男性で「同居している子どもはいない」の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代で「同居している子どもはいない」割合が高い一方で、20～30歳代で「未就学の子どもがいる」割合が他の年齢層に比べて高くなっています。また、60歳代で「同居している子どもはいない」の割合が高くなるものの、年齢が上がるにつれて、同居している子どもの年齢層も高くなる傾向にあります。



単位(%)	が未 い就 る学 の 子 ど も	が小 い学 る生 の 子 ど も	が中 い学 る生 の 子 ど も	ど高 も校 が生 い以 る上 の 子	ど同 も居 はし いて ない る 子
全体(n=376)	13.6	16.0	14.4	43.1	25.5
年齢別					
20歳代(n=16)	37.5	6.3	6.3	0.0	56.3
30歳代(n=53)	49.1	34.0	3.8	1.9	28.3
40歳代(n=78)	11.5	32.1	42.3	43.6	12.8
50歳代(n=73)	4.1	4.1	13.7	60.3	23.3
60歳代(n=72)	2.8	6.9	4.2	45.8	40.3
70歳以上(n=83)	6.0	9.6	6.0	59.0	19.3

注：表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示しています。
 (例/性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、最も割合が高い年齢層に網掛け。)
 但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていません。
 また「無回答」は表記から除外しています。
 本報告書においては、以下同様とします。

Ⅲ 調査結果

【1】人権意識全般について

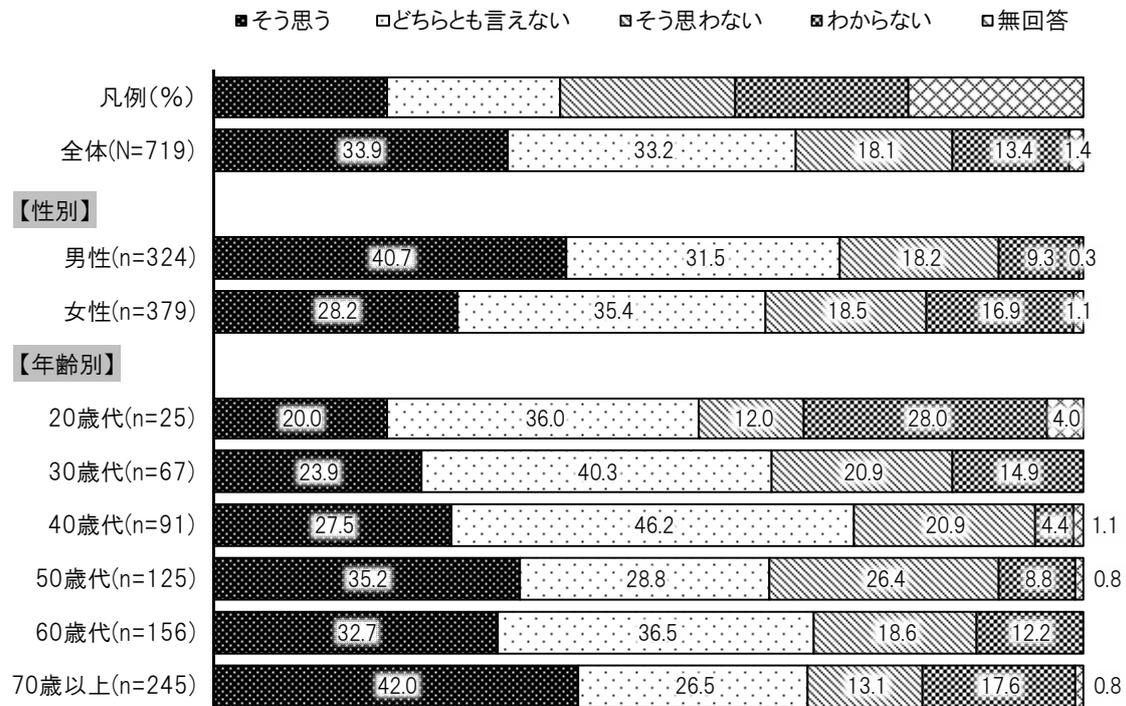
1. 基本的人権が尊重されている社会について

問7. あなたは、今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。(○印1つ)

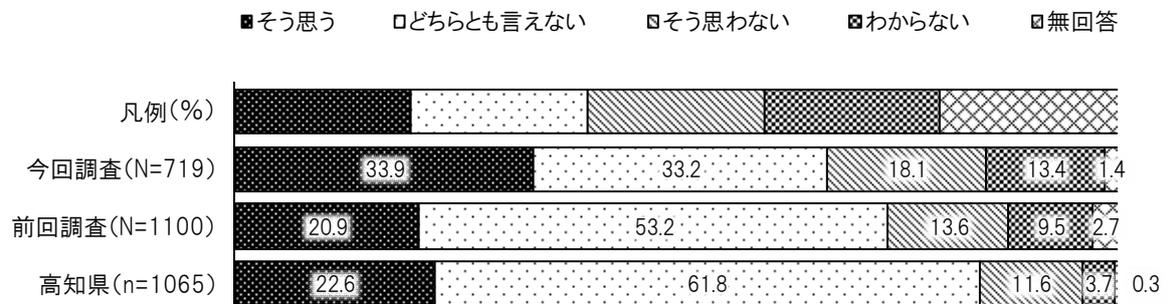
今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うかについては、「そう思う」が33.9%と最も高く、ほぼ並んで「どちらとも言えない」(33.2%)が続き、次いで「そう思わない」は18.1%となっています。

性別では、女性よりも男性で「そう思う」の割合が高く、女性では「わからない」と回答した割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「そう思う」の割合もおおむね高くなる傾向にあります。



前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「そう思う」の割合が高くなっていますが、「そう思わない」の割合も前回の13.6%から18.1%へと、やや増加しています。



2. 人権に対する意識

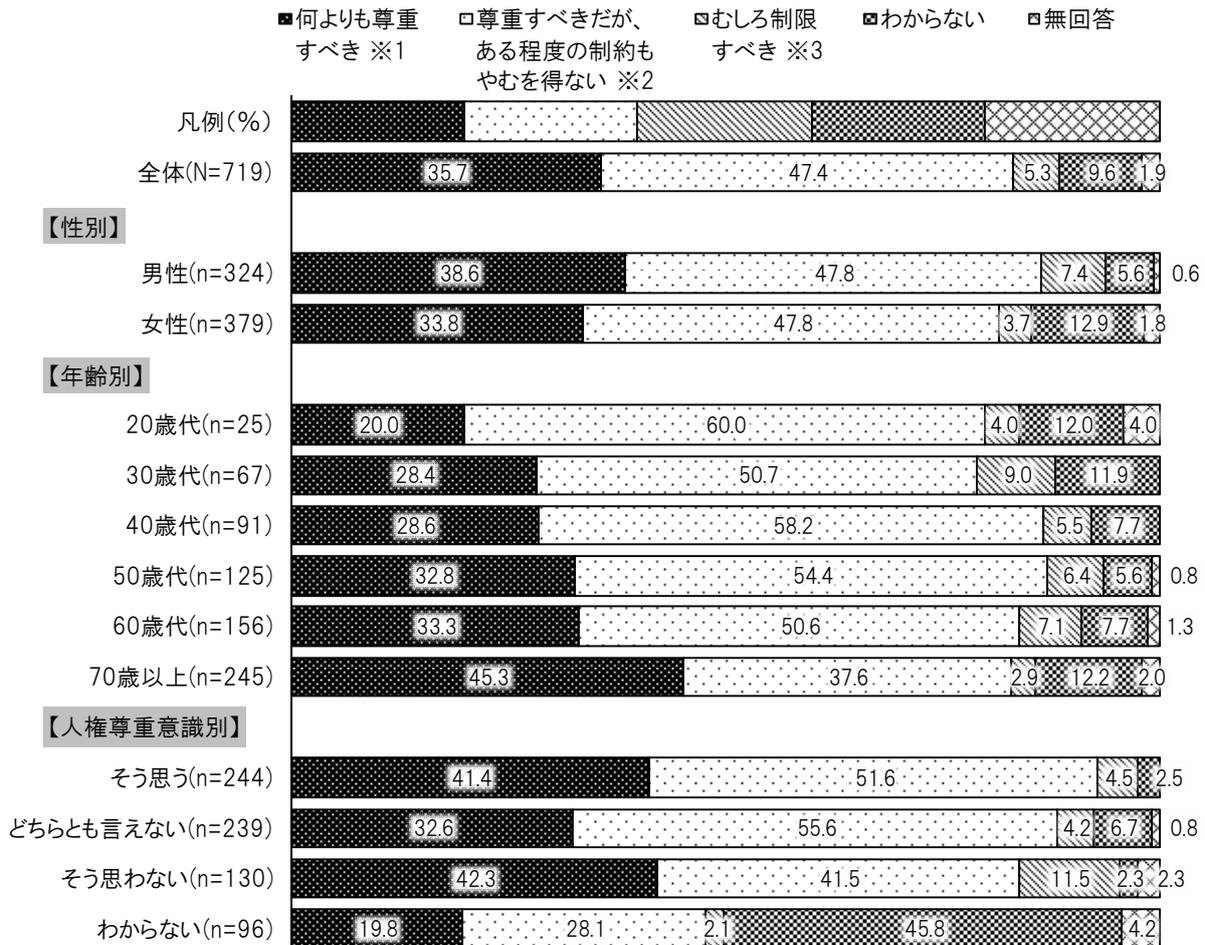
問8. あなたは、人権について、どのようにお考えですか。(○印1つ)

人権に対する意識については、「人権は尊重されるべきだが、社会生活においては、ある程度の制約もやむを得ない」が47.4%と最も高く、次いで「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」(35.7%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」の割合が高く、女性では「わかからない」と回答した割合がやや高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」の割合も高くなる傾向にあります。また、20歳代、40歳代で「人権は尊重されるべきだが、社会生活においては、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

人権尊重意識別では、どちらとも言えない層で「人権は尊重されるべきだが、社会生活においては、ある程度の制約もやむを得ない」の割合が高く、そう思わない層で「一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない」の割合も高い一方、「人権という名のもとに、権利の濫用がみられるので、むしろ制限すべきである」の割合もやや高くなっています。



※1 一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない

※2 人権は尊重されるべきだが、社会生活においては、ある程度の制約もやむを得ない

※3 人権という名のもとに、権利の濫用がみられるので、むしろ制限すべきである

3. 人権侵害や差別の変化

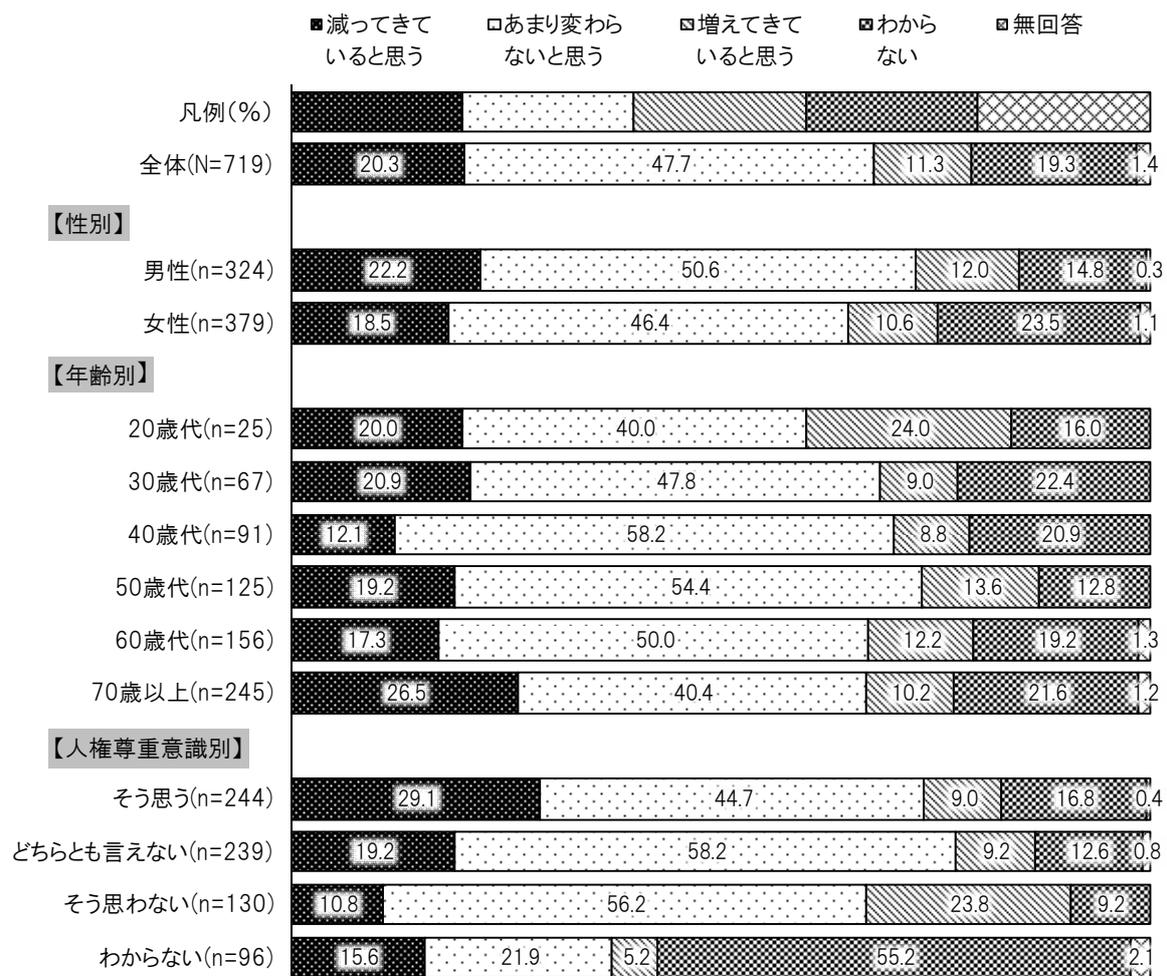
問9. 日本社会における人権侵害や差別は、4～5年前に比べて減ってきていると思いますか。それとも増えていると思いますか。(○印1つ)

人権侵害や差別の変化については、「あまり変わらないと思う」が47.7%と最も高く、次いで「減ってきていると思う」が20.3%、「増えてきていると思う」が11.3%となっています。

性別では、女性よりも男性で「あまり変わらないと思う」の割合が高く、女性では「わからない」と回答した割合が高くなっています。

年齢別では、40歳代で「あまり変わらないと思う」が高い一方で、70歳以上で「減ってきていると思う」の割合が高くなっています。また、20歳代の約4人に1人が「わからない」と回答しています。

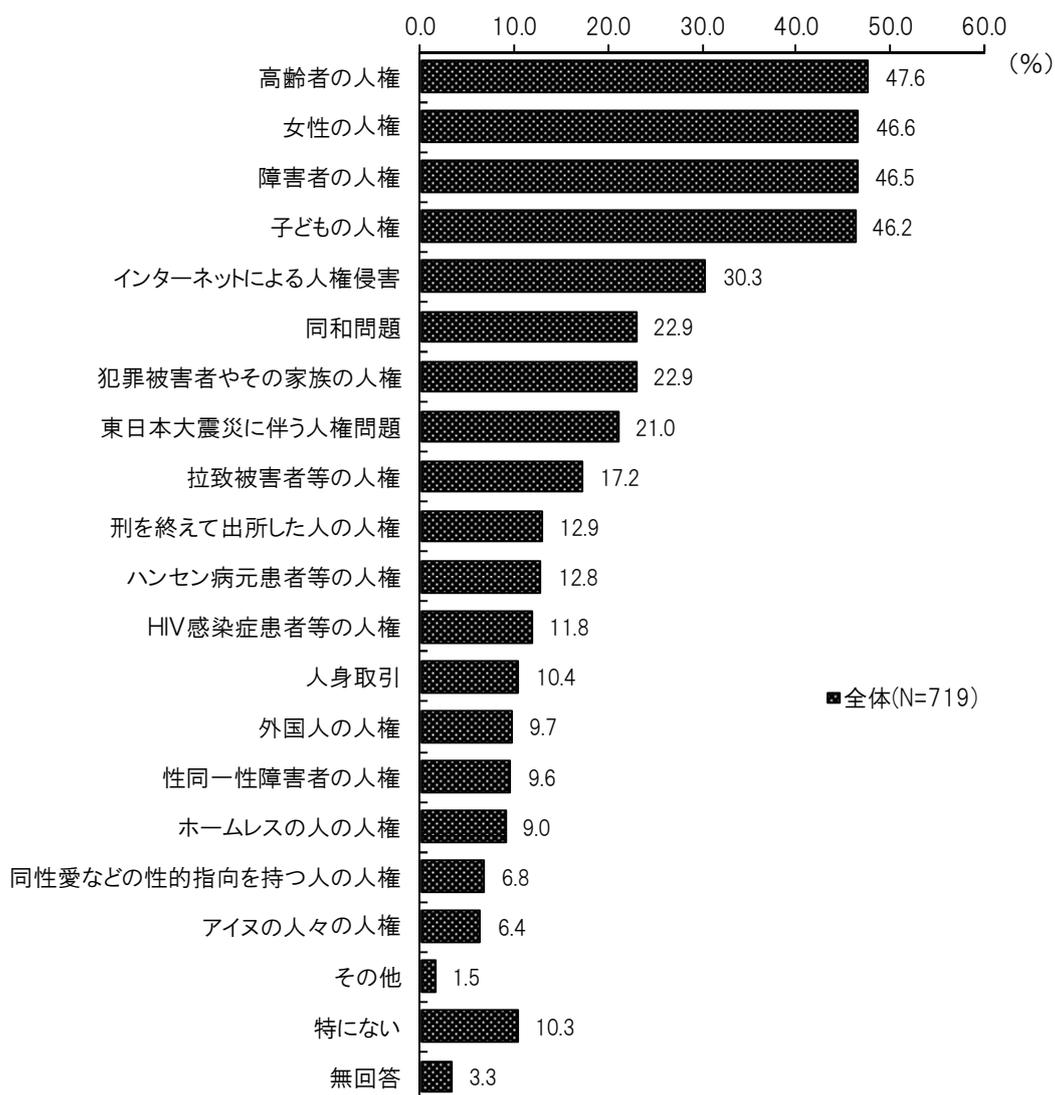
人権尊重意識別では、人権尊重を感じている層ほど「減ってきていると思う」の割合が高くなり、人権尊重を感じていない層ほど「増えてきていると思う」の割合が高くなる傾向がみられます。



4. 人権についての関心

問 10. 次にあげる人権に関する事柄について、あなたが関心のあるものはどれですか。
(○印いくつでも)

人権についての関心については、「高齢者の人権」が47.6%と最も高く、ほぼ並んで「女性の人権」(46.6%)、「障害者の人権」(46.5%)、「子どもの人権」(46.2%)の順となっています。



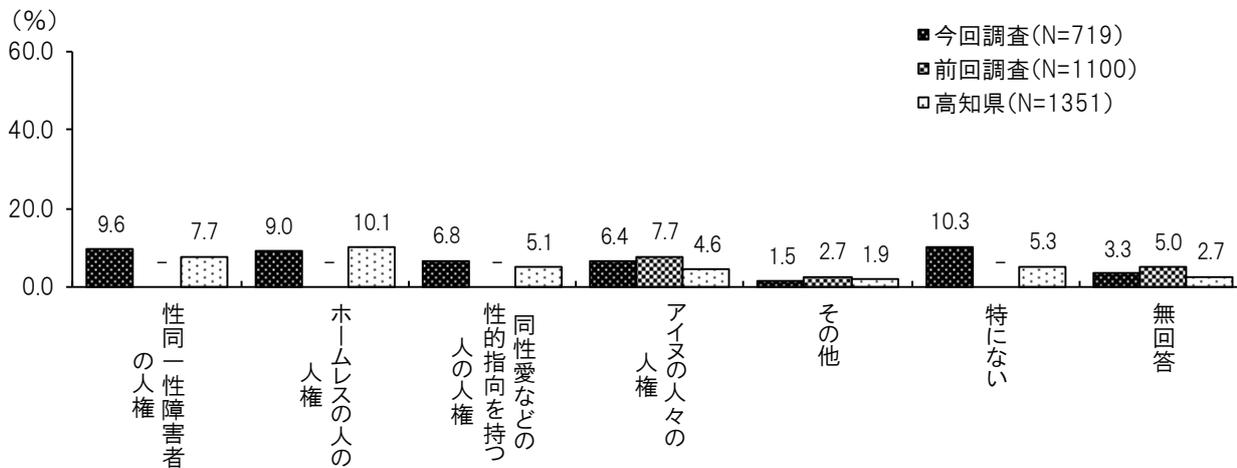
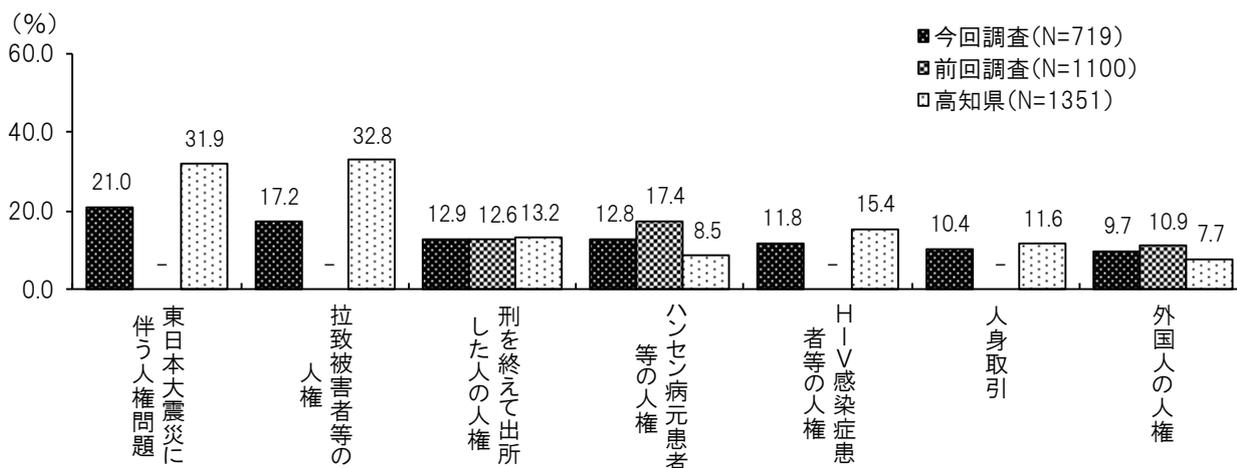
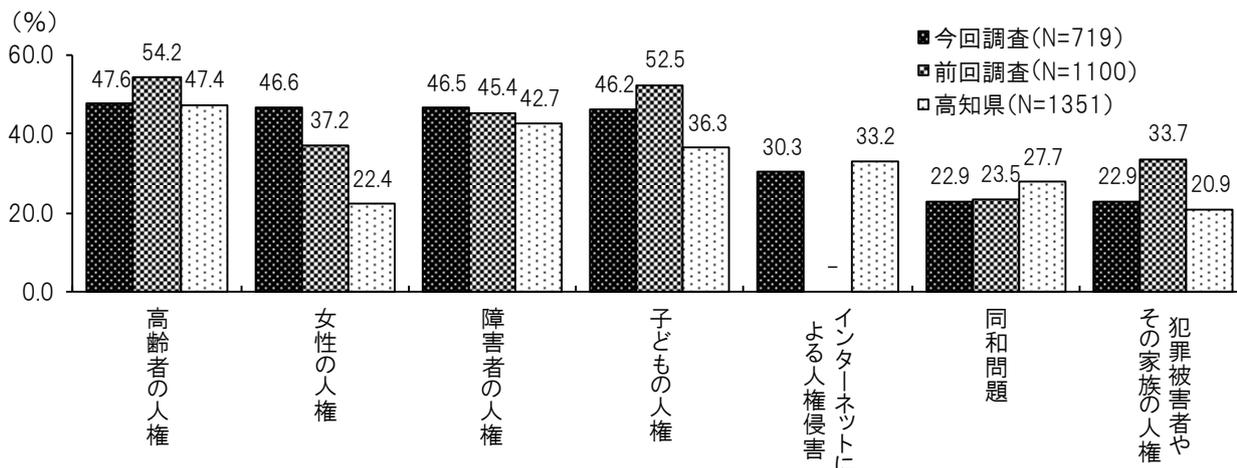
性別では、女性よりも男性で「高齢者の人権」、男性よりも女性で「女性の人権」「インターネットによる人権侵害」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別では、70歳以上で「高齢者の人権」、40歳代で「子どもの人権」、50歳代で「犯罪被害者やその家族の人権」、30歳代で「性同一性障害者の人権」の割合が他の年齢層に比べて高く、また、40～50歳代では「インターネットによる人権侵害」の割合も高くなっています。

単位(%)		高齢者の人権	女性の人権	障害者の人権	子どもの人権	インターネットによる人権侵害	同和問題	家族被害者やその	東日本震災に伴う人権問題	拉致被害者等の	刑を終えて出所した人
全体(N=719)		47.6	46.6	46.5	46.2	30.3	22.9	22.9	21.0	17.2	12.9
性別	男性(n=324)	51.9	43.5	48.8	48.8	27.8	25.0	21.6	22.8	17.0	15.1
	女性(n=379)	44.3	50.4	45.4	44.9	33.0	21.9	24.0	19.8	17.7	11.1
年齢別	20歳代(n=25)	36.0	36.0	32.0	44.0	40.0	8.0	16.0	24.0	4.0	16.0
	30歳代(n=67)	26.9	46.3	41.8	46.3	38.8	25.4	28.4	22.4	11.9	11.9
	40歳代(n=91)	29.7	52.7	46.2	54.9	44.0	19.8	22.0	22.0	15.4	6.6
	50歳代(n=125)	40.0	45.6	48.8	45.6	44.8	25.6	34.4	19.2	13.6	12.8
	60歳代(n=156)	50.0	46.8	48.1	45.5	26.3	19.9	20.5	19.2	20.5	12.2
	70歳以上(n=245)	63.7	47.3	47.8	44.9	18.0	25.7	19.2	22.9	21.2	16.3

単位(%)		ハンセン病元患者	HIV感染者	人身取引	外国人の人権	性同一性障害者の人権	ホームレスの人権	同性愛など的人権	アイヌの人々	その他	特になし
全体(N=719)		12.8	11.8	10.4	9.7	9.6	9.0	6.8	6.4	1.5	10.3
性別	男性(n=324)	14.2	13.9	11.7	11.7	9.0	9.3	7.1	7.7	1.9	11.4
	女性(n=379)	11.6	10.3	9.5	7.9	10.6	8.7	6.9	5.0	1.3	9.0
年齢別	20歳代(n=25)	4.0	8.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	0.0	0.0	4.0
	30歳代(n=67)	9.0	11.9	11.9	10.4	20.9	9.0	13.4	3.0	3.0	9.0
	40歳代(n=91)	11.0	13.2	13.2	9.9	15.4	5.5	11.0	6.6	0.0	9.9
	50歳代(n=125)	16.0	16.0	7.2	13.6	12.0	6.4	7.2	5.6	0.8	9.6
	60歳代(n=156)	9.6	9.0	10.9	8.3	7.7	10.9	7.7	7.1	0.6	16.0
	70歳以上(n=245)	16.3	11.8	11.4	9.4	5.7	11.4	3.3	8.2	2.9	8.2

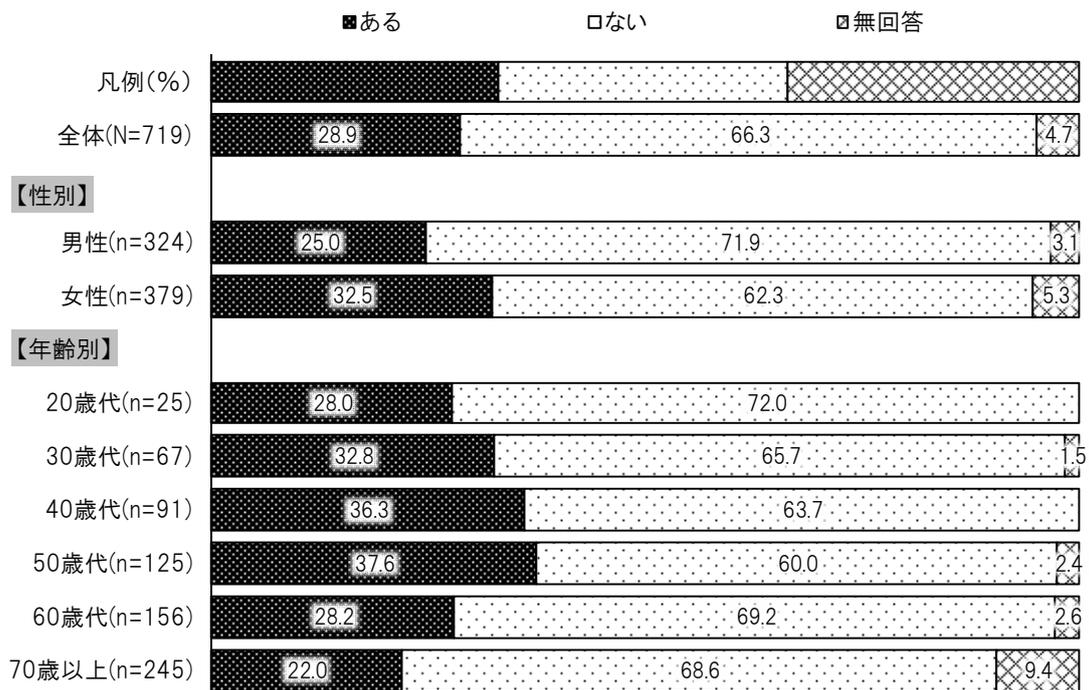
前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「女性の人権」の割合が高くなっており、前回調査よりも「高齢者の人権」「子どもの人権」「犯罪被害者やその家族の人権」の割合が低くなっています。



5. 自身の人権侵害について

問 11. あなたはこれまでに、ご自身の人権が侵害されたと思ったことがありますか。(○印1つ)

自身の人権侵害の経験については、「ない」が66.3%、「ある」が28.9%となっています。
性別では、男性に比べて女性で「ある」と回答した割合が高く、年齢別では、50歳代までは「ある」と回答した割合は年齢が上がるほど高い傾向にありますが、60歳以上では、年齢が上がるほど減少する傾向にあります。

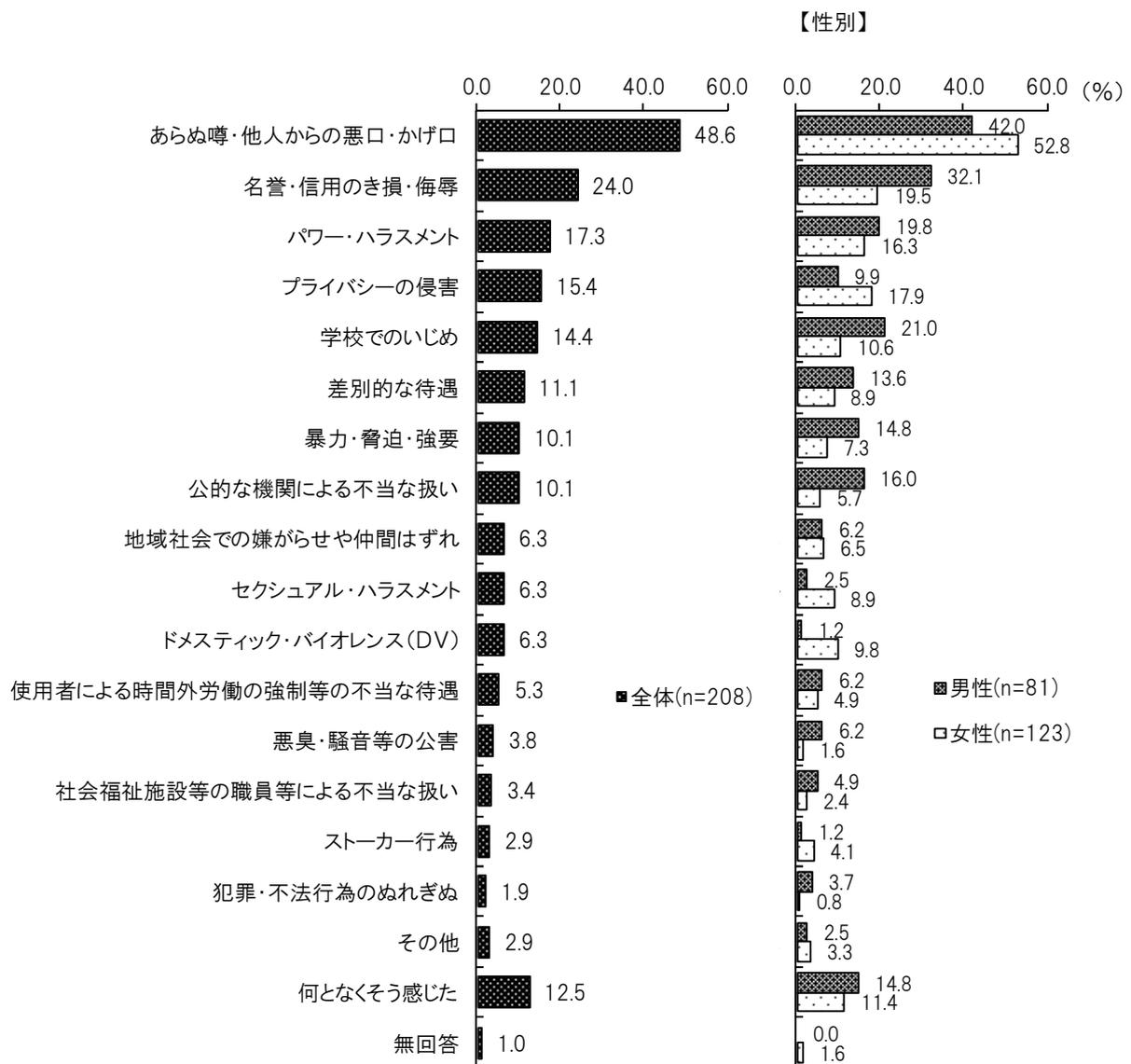


6. 人権侵害の内容

問 12(問 11 で1と回答した方にご自身の人権が侵害されたと思ったのは、どのような内容ですか。(〇印3つまで)

今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思うかについては、「あらぬ噂・他人からの悪口・かげ口」が 48.6%と最も高く、次いで「名誉・信用のき損・侮辱」(24.0%)、「パワー・ハラスメント」(17.3%)、「プライバシーの侵害」(15.4%)、「学校でのいじめ」(14.4%) の順となっています。

性別では、男性よりも女性で「あらぬ噂・他人からの悪口・かげ口」「プライバシーの侵害」「セクシュアル・ハラスメント」「ドメスティック・バイオレンス(DV)」、女性よりも男性で「名誉・信用のき損・侮辱」「学校でのいじめ」「暴力・脅迫・強要」「公的な機関による不当な扱い」の割合がそれぞれ高くなっています。



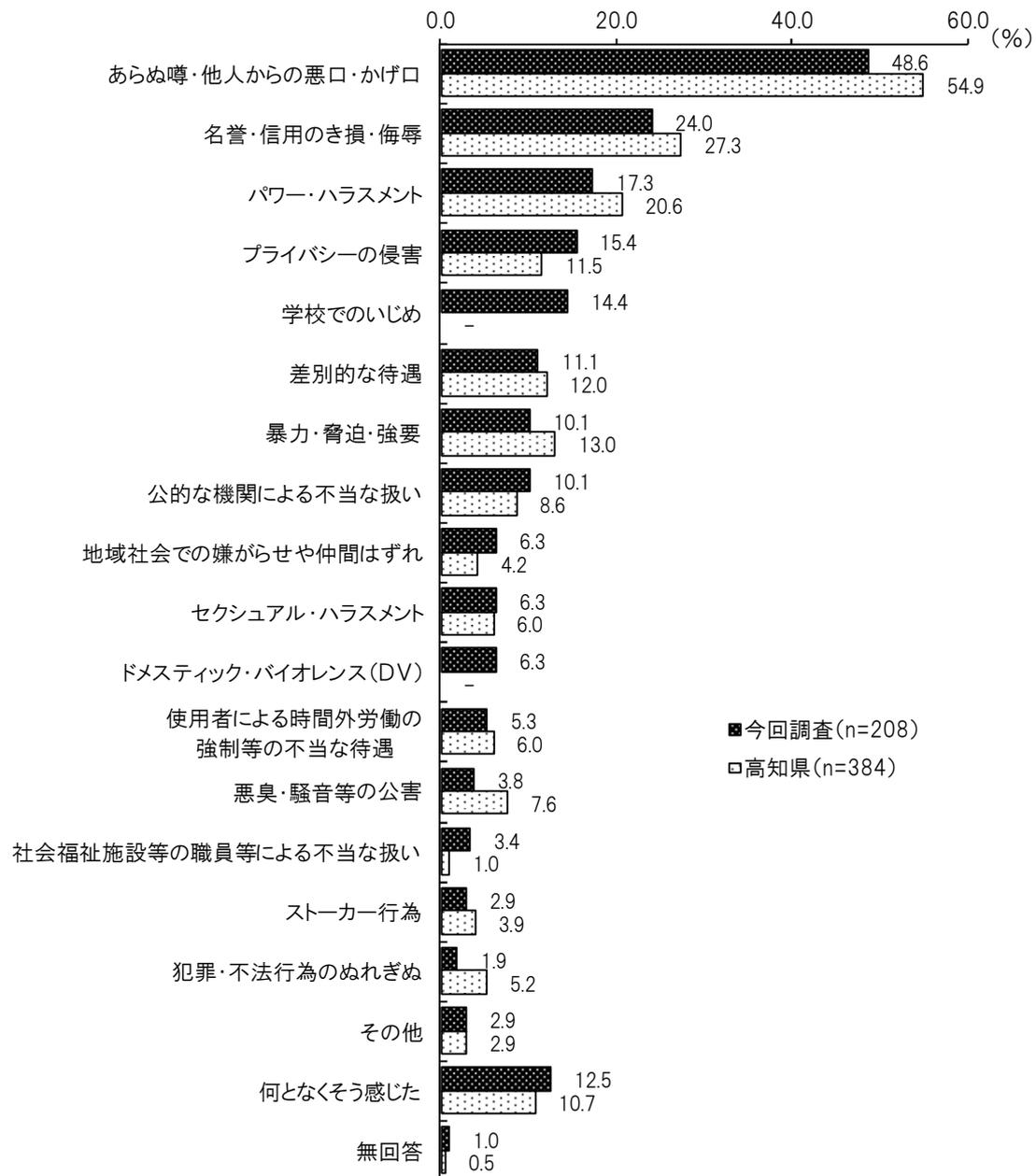
年齢別では、40歳代で「パワー・ハラスメント」、30歳代で「学校でのいじめ」の割合が他の年齢層に比べてやや高くなっています。

単位(%)		悪あ らぬ 噂・ かげ 口	辱 名 誉・ 信用 の き 損・ 侮	パ ワ ー・ ハラ スマ ント	プ ライ バ シー の 侵 害	学 校 で の い じ め	差 別 的 な 待 遇	暴 力・ 脅 迫・ 強 要	公 的 な 機 関 に よ る 不 当 な 扱 い	地 域 社 会 で の 嫌 が ら せ や 仲 間 は ず れ	セ ク シ ユ ア ル ・ ハラ ス メ ン ト
全体(n=208)		48.6	24.0	17.3	15.4	14.4	11.1	10.1	10.1	6.3	6.3
年 齢 別	20歳代(n=7)	71.4	14.3	14.3	28.6	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=22)	50.0	31.8	27.3	18.2	31.8	13.6	13.6	18.2	0.0	13.6
	40歳代(n=33)	54.5	30.3	33.3	18.2	21.2	9.1	18.2	0.0	9.1	12.1
	50歳代(n=47)	46.8	17.0	25.5	12.8	12.8	12.8	8.5	6.4	4.3	4.3
	60歳代(n=44)	40.9	27.3	11.4	18.2	4.5	11.4	9.1	11.4	11.4	6.8
	70歳以上(n=54)	50.0	22.2	1.9	11.1	11.1	9.3	7.4	16.7	5.6	1.9

単位(%)		オ ド メ ン ス テ ィ ク ・ バ イ	使 用 者 に よ る 不 当 な 外 待 遇 の 強 制 等	悪 臭 ・ 騒 音 等 の 公 害	社 会 福 祉 施 設 等 の 職 員 に よ る 不 当 な 扱 い	ス ト ー カ ー 行 為	犯 罪 ・ 不 法 行 為 の ぬ れ ぎ ぬ	そ の 他	何 と な く そ う 感 じ た
全体(n=208)		6.3	5.3	3.8	3.4	2.9	1.9	2.9	12.5
年 齢 別	20歳代(n=7)	14.3	14.3	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=22)	4.5	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	4.5	13.6
	40歳代(n=33)	6.1	9.1	6.1	6.1	9.1	3.0	0.0	3.0
	50歳代(n=47)	10.6	2.1	0.0	4.3	0.0	2.1	2.1	10.6
	60歳代(n=44)	9.1	4.5	4.5	0.0	0.0	4.5	2.3	13.6
	70歳以上(n=54)	0.0	5.6	7.4	5.6	0.0	0.0	5.6	20.4

注：年齢別の「20歳代」は該当数(n=)が少ないため、参考値として参照。

高知県の調査と比較すると、今回調査では「あらぬ噂・他人からの悪口・かげ口」「名誉・信用のき損・侮辱」「パワー・ハラスメント」の割合が低く、「プライバシーの侵害」の割合がやや高くなっています。

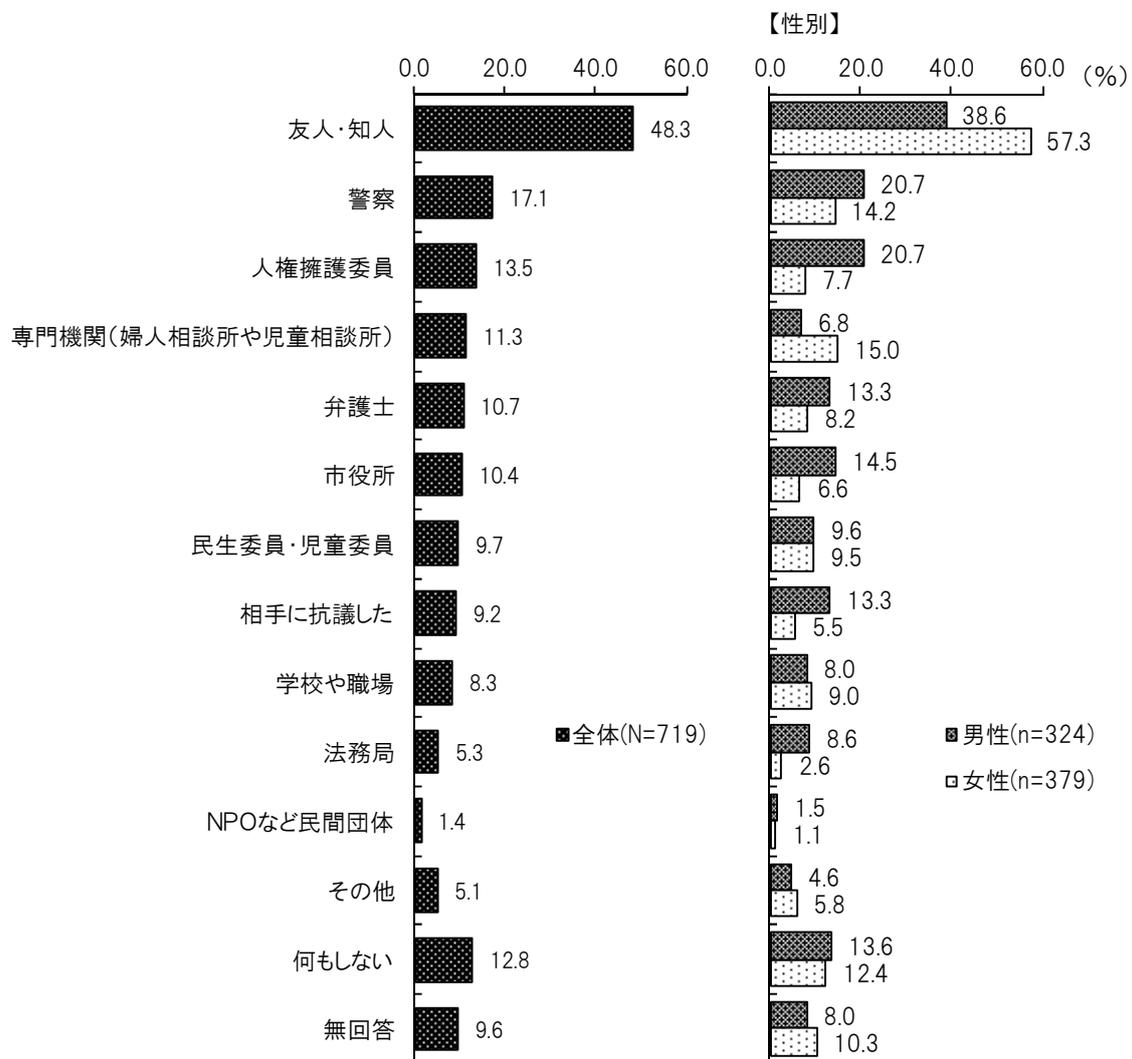


7. 人権侵害についての相談先

問 13. あなたは、人権が侵害されたとき、どこに相談しますか(相談しましたか)。
(○印いくつでも)

人権侵害についての相談先については、「友人・知人」が48.3%と最も高く、次いで「警察」(17.1%)、「人権擁護委員」(13.5%)、「専門機関(婦人相談所や児童相談所)」(11.3%)、「弁護士」(10.7%)、「市役所」(10.4%)の順となっています。

性別では、男性よりも女性で「友人・知人」「専門機関(婦人相談所や児童相談所)」、女性よりも男性で「人権擁護委員」「市役所」「相手に抗議した」の割合がそれぞれ高くなっています。

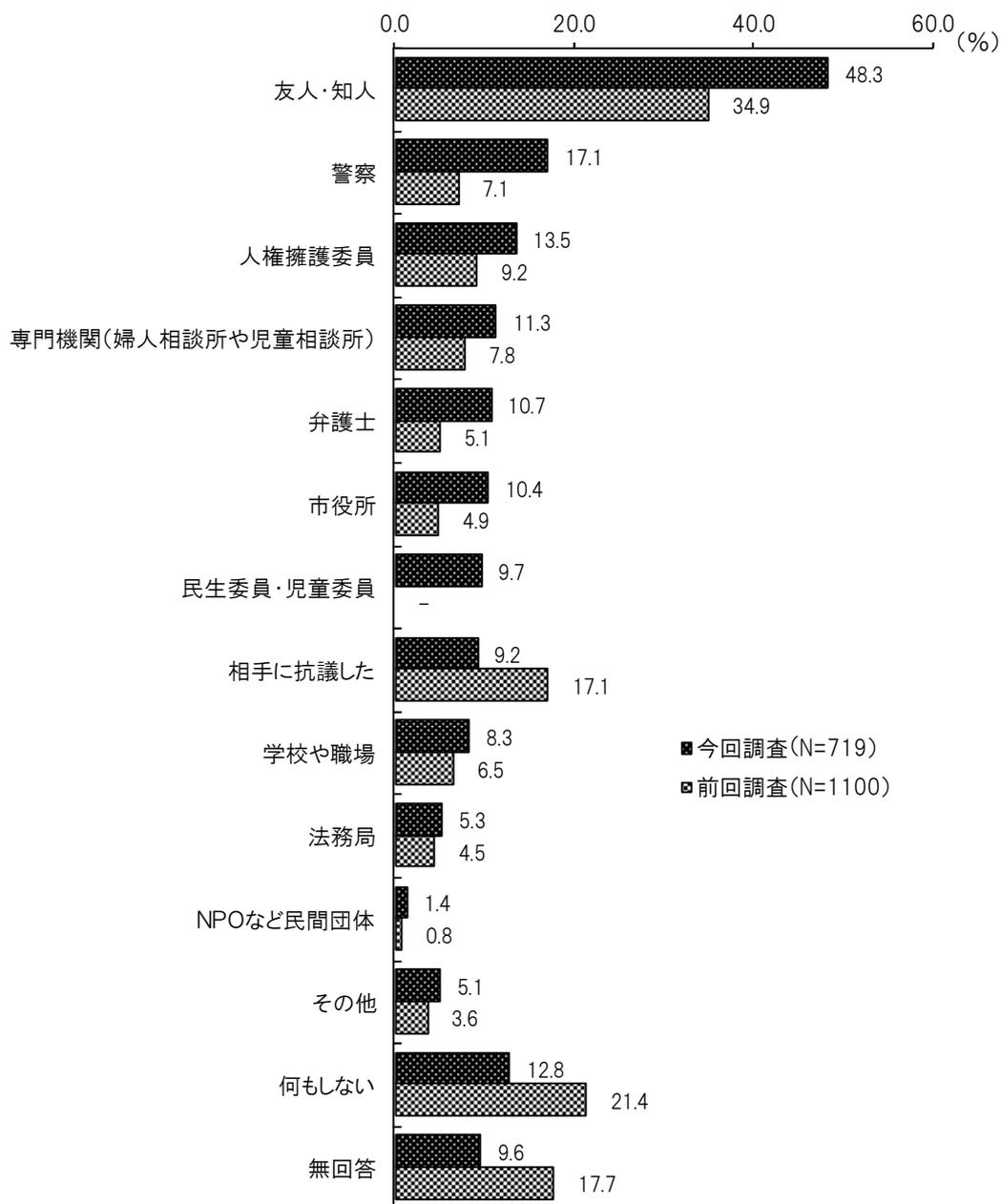


年齢別では、20歳代で「友人・知人」の割合が他の年齢層に比べて高く、年齢が上がるほど「人権擁護委員」の割合が高くなる傾向にあります。また、「学校や職場」は20歳代と40歳代の割合が高くなっています。

単位(%)		友人・知人	警察	人権擁護委員	専門機関(婦人相談所や児童相談所)	弁護士	市役所	民生委員・児童委員	相手に抗議した	学校や職場	法務局
全体(N=719)		48.3	17.1	13.5	11.3	10.7	10.4	9.7	9.2	8.3	5.3
年齢別	20歳代(n=25)	80.0	4.0	0.0	8.0	0.0	12.0	0.0	16.0	24.0	0.0
	30歳代(n=67)	53.7	16.4	1.5	16.4	11.9	1.5	1.5	4.5	9.0	0.0
	40歳代(n=91)	60.4	13.2	4.4	7.7	8.8	3.3	3.3	11.0	24.2	2.2
	50歳代(n=125)	55.2	20.8	11.2	16.8	13.6	5.6	3.2	10.4	16.0	3.2
	60歳代(n=156)	46.2	16.0	16.0	12.2	8.3	12.8	12.2	7.7	1.9	5.8
	70歳以上(n=245)	38.0	19.2	21.6	8.6	12.2	16.3	16.7	9.8	0.8	9.0

単位(%)		NPOなど民間団体	その他	何もしない
全体(N=719)		1.4	5.1	12.8
年齢別	20歳代(n=25)	0.0	4.0	12.0
	30歳代(n=67)	1.5	6.0	20.9
	40歳代(n=91)	2.2	5.5	14.3
	50歳代(n=125)	0.8	9.6	8.8
	60歳代(n=156)	1.3	5.1	13.5
	70歳以上(n=245)	1.6	2.9	11.8

前回調査と比較すると、今回調査では「友人・知人」「警察」等の割合が高い一方で、「相手に抗議した」の割合が低くなっています。また「何もしない」の割合も低下しています。



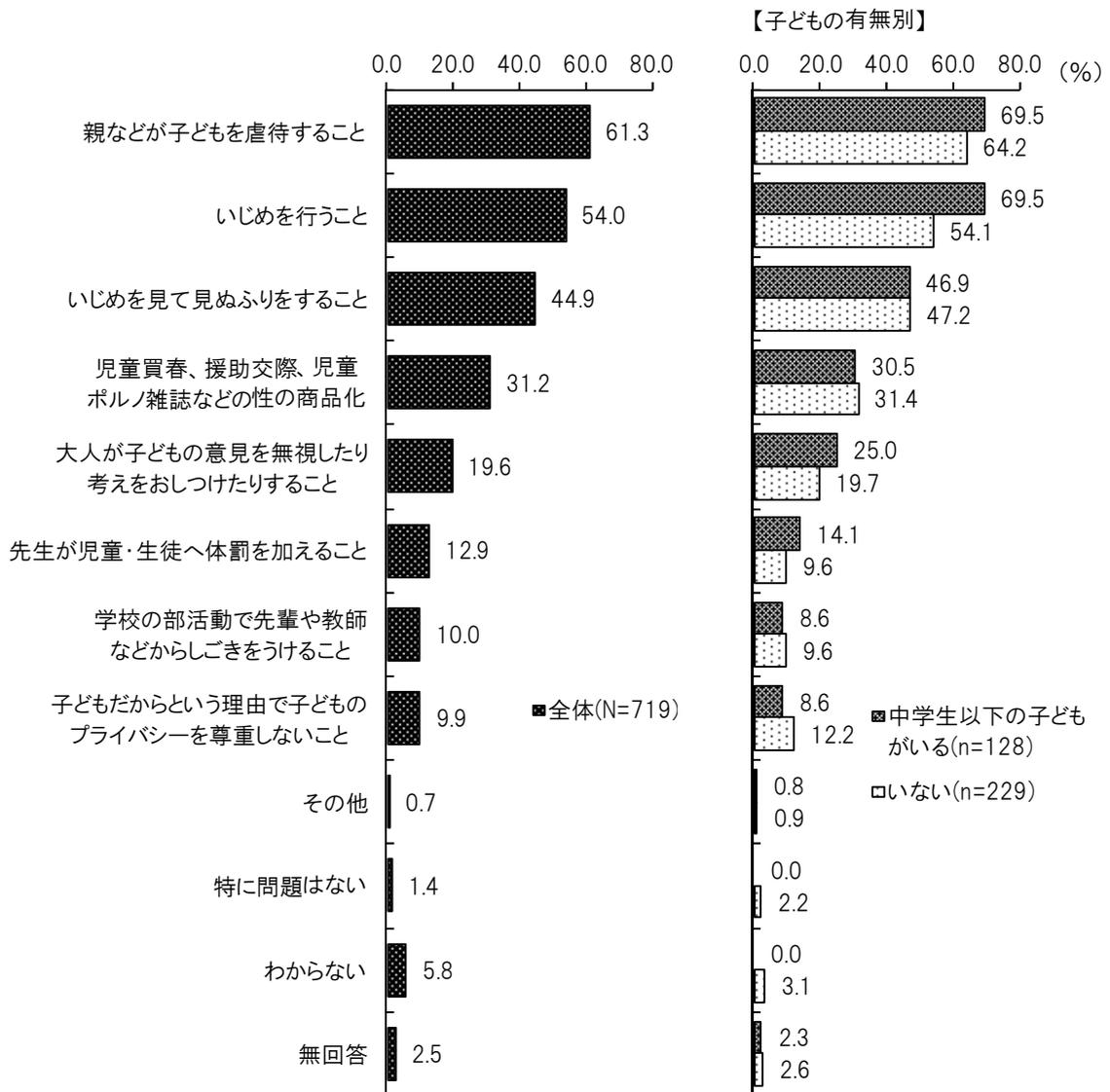
【2】子どもの人権について

1. 子どもの人権で問題と感ずること

問 14. 子どもに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(○印3つまで)

子どもの人権で問題と感ずることについては、「親などが子どもを虐待すること」が61.3%と最も高く、次いで「いじめを行うこと」(54.0%)、「いじめを見て見ぬふりをする事」(44.9%)、「児童買春、援助交際、児童ポルノ雑誌などの性の商品化」(31.2%)の順となっています。

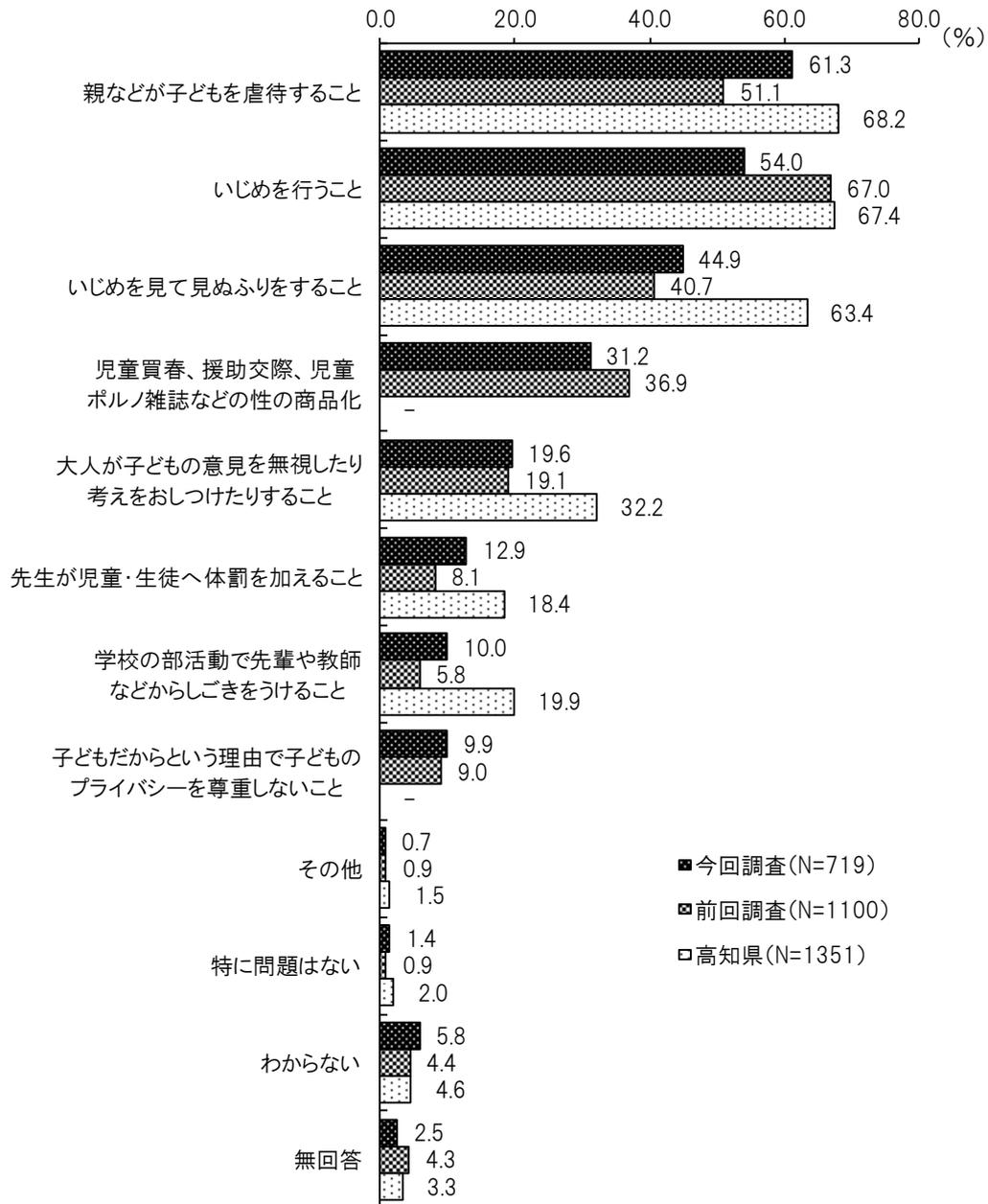
子どもの有無別では、中学生以下の子どもがいる層で「いじめを行うこと」の割合が「いない」層に比べて高いことが目立っています。



性別では、女性よりも男性で「いじめを見て見ぬふりをする事」の割合が高く、年齢別では、30歳代で「親などが子どもを虐待すること」「先生が児童・生徒へ体罰を加えること」、20歳代で「いじめを行うこと」「大人が子どもの意見を無視したり考えをおしついたりすること」の割合が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		親などが子どもを虐待	いじめを行うこと	いじめを見て見ぬふり	児童ポルノ、児童買春、児童虐待、児童労働、児童乞食、児童婚、児童労働、児童労働、児童労働	無視したり考えをおしついたりすること	大人が子どもの意見を無視したり考えをおしついたりすること	先生が児童・生徒へ体罰を加えること	教師などからしごきをうけること	学校の部活動で先輩やシスターを尊重しないこと	子どもだからという理由で子どもを尊重しないこと	その他	特に問題はない	わからない
全体(N=719)		61.3	54.0	44.9	31.2	19.6	12.9	10.0	9.9	0.7	1.4	5.8		
性別	男性(n=324)	62.3	55.6	48.5	31.2	18.5	11.7	10.2	8.6	0.6	1.2	4.6		
	女性(n=379)	61.2	53.3	42.2	30.9	21.1	14.0	10.0	10.3	0.8	0.8	7.1		
年齢別	20歳代(n=25)	68.0	80.0	40.0	20.0	32.0	8.0	8.0	4.0	8.0	0.0	0.0		
	30歳代(n=67)	76.1	62.7	35.8	23.9	20.9	23.9	11.9	13.4	1.5	1.5	3.0		
	40歳代(n=91)	69.2	67.0	49.5	33.0	27.5	5.5	6.6	11.0	0.0	1.1	1.1		
	50歳代(n=125)	64.8	64.8	50.4	33.6	17.6	7.2	4.8	8.0	0.0	0.0	1.6		
	60歳代(n=156)	64.7	48.7	48.7	34.0	21.8	14.1	12.8	10.3	0.6	0.6	5.8		
	70歳以上(n=245)	51.0	43.3	42.0	31.0	15.1	15.1	11.8	9.4	0.4	2.0	11.0		

前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「いじめを行うこと」の割合が低くなっています。一方で、前回調査よりも「親などが子どもを虐待すること」の割合が高くなっています。



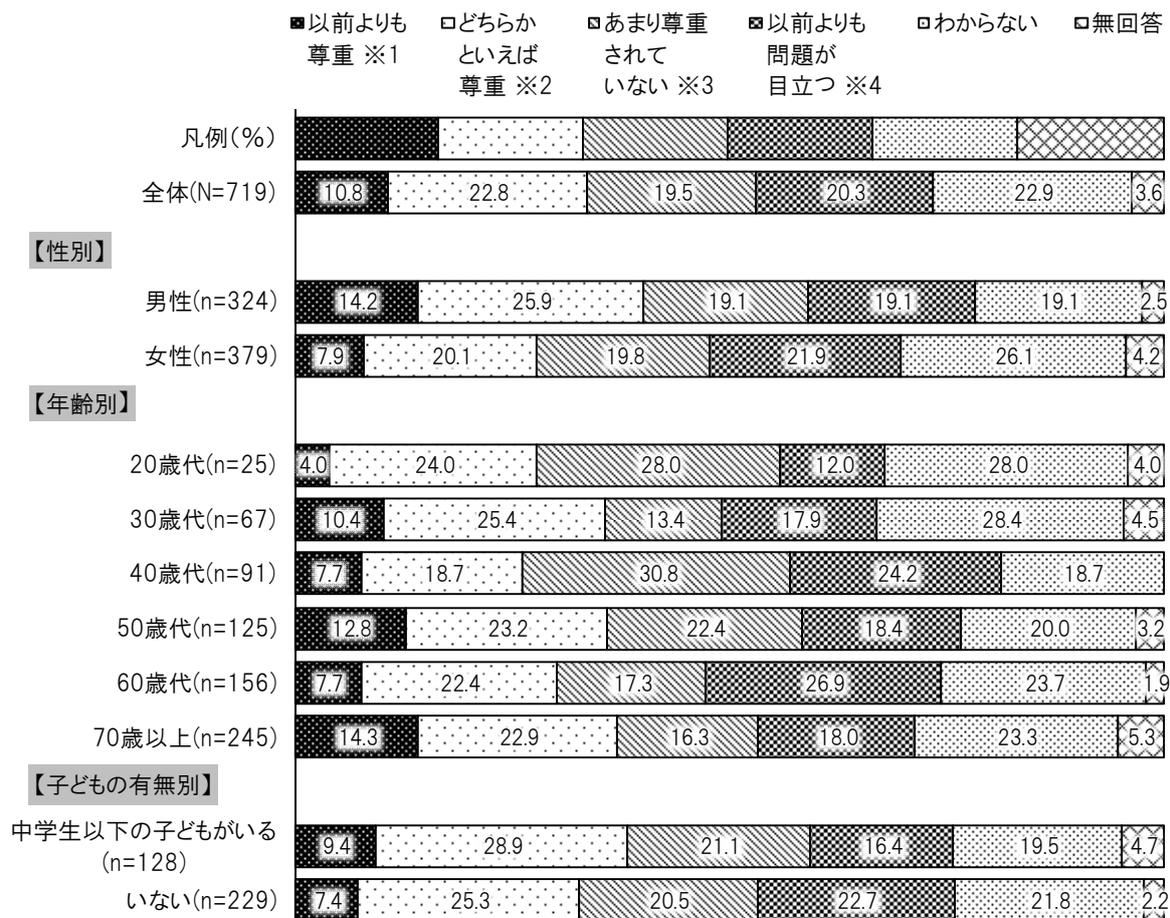
2. 子どもの人権の尊重についての変化

問 15. 4～5年前に比べて、国内では子どもの人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

子どもの人権の尊重に関する変化については、「わからない」が 22.9%で最も高いものの、次いで「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」が 22.8%となっており、「以前に比べて子どもの人権は尊重されてきていると感じる」を合わせると、『尊重されてきている』割合は 33.6%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(19.5%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(20.3%)を合わせると、『尊重されていない』割合は 39.8%となっています。

性別では、女性よりも男性で『尊重されてきている』割合が高く、年齢別では、40歳代で「あまり尊重されているとは言えない」の割合が他の年齢層に比べて高く、『尊重されていない』の割合は過半数を占めています。

子どもの有無別では、中学生以下の子どもがいる層で「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」の割合がやや高い一方で、子どもがいない層で「以前に比べて問題が目立ってきている」の割合が高くなっています。



※1: 以前に比べて子どもの人権は尊重されてきていると感じる

※2: どちらかといえば尊重されてきていると感じる

※3: あまり尊重されているとは言えない

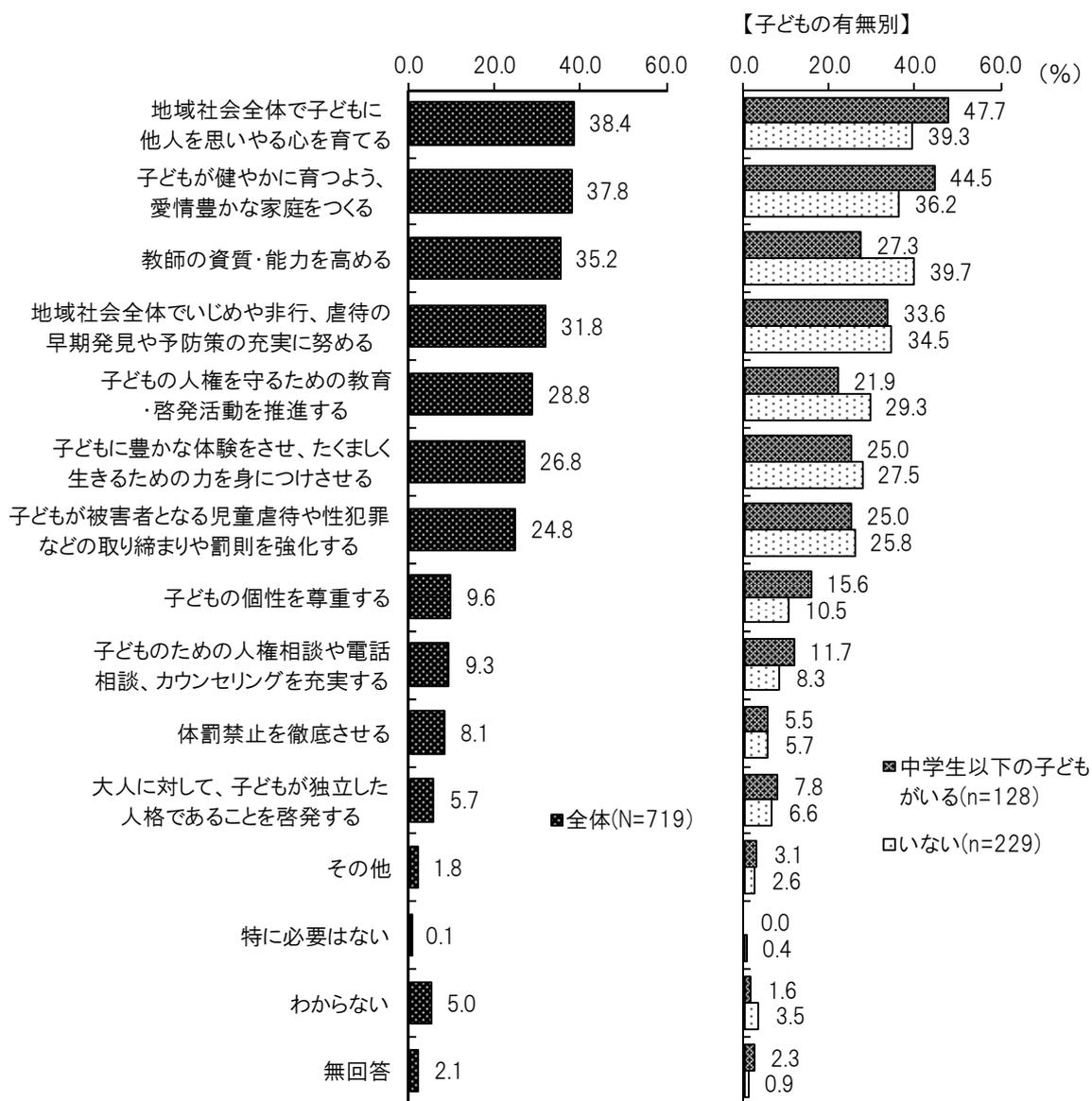
※4: 以前に比べて問題が目立ってきている

3. 子どもの人権を守るため必要と思うこと

問 16. 子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

子どもの人権を守るため必要と思うことについては、「地域社会全体で子どもに他人を思いやる心を育てる」の割合が38.4%と最も高く、次いで「子どもが健やかに育つよう、愛情豊かな家庭をつくる」(37.8%)、「教師の資質・能力を高める」(35.2%)、「地域社会全体でいじめや非行、虐待の早期発見や予防策の充実に努める」(31.8%)の順となっています。

子どもの有無別では、中学生以下の子どもがいる層で「地域社会全体で子どもに他人を思いやる心を育てる」「子どもが健やかに育つよう、愛情豊かな家庭をつくる」、子どもがいない層で「教師の資質・能力を高める」「子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合がそれぞれ高くなっています。



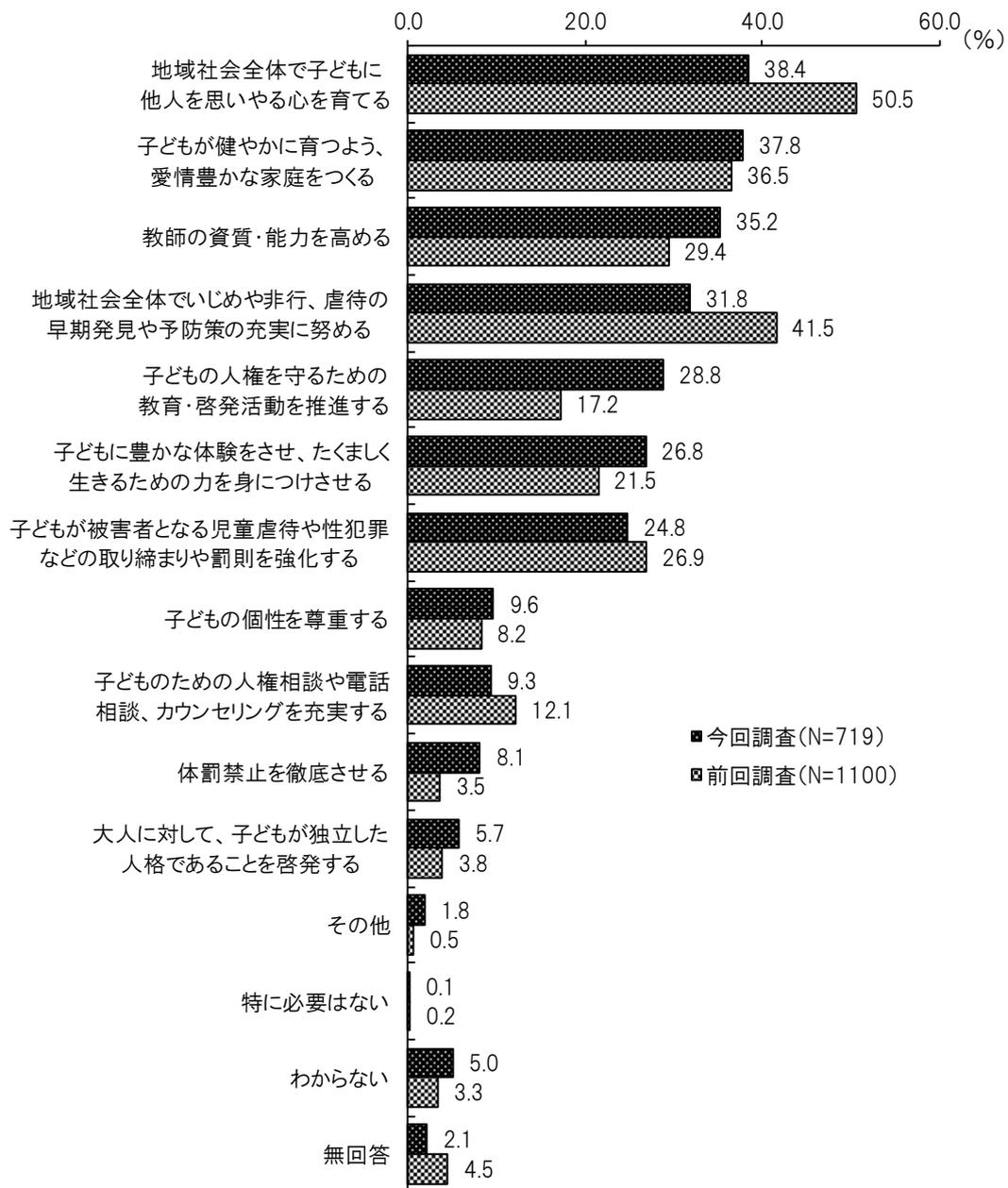
性別では、男性よりも女性で「子どもが健やかに育つよう、愛情豊かな家庭をつくる」「子どもに豊かな体験をさせ、たくましく生きるための力を身につけさせる」、女性よりも男性で「子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別では、若い年齢層ほど「子どもが健やかに育つよう、愛情豊かな家庭をつくる」の割合が高くなる傾向にあります。また、20歳代で「子どもに豊かな体験をさせ、たくましく生きるための力を身につけさせる」「子どもの個性を尊重する」、50歳代で「地域社会全体でいじめや非行、虐待の早期発見や予防策の充実に努める」、60歳代で「教師の資質・能力を高める」、70歳以上で「子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		他人を思いやる心を育てる	くう、子どもが健やかに育つよう	教師の資質・能力を高める	予非地、防行域策、の虐待全体に早期発見や	すの教、育の啓発活動を進める	めせ子、のたに豊かな体験をさせる	るり童子、の個性を尊重する	ンや子、の相談の力をつける	や電話の相談の力をつける	体罰禁止を徹底させる
全体(N=719)		38.4	37.8	35.2	31.8	28.8	26.8	24.8	9.6	9.3	8.1
性別	男性(n=324)	38.6	33.3	36.4	33.3	34.6	22.8	26.2	10.2	8.0	9.9
	女性(n=379)	38.5	41.2	34.8	30.9	23.7	30.1	24.0	9.5	10.8	6.6
年齢別	20歳代(n=25)	16.0	48.0	28.0	24.0	16.0	44.0	32.0	20.0	4.0	8.0
	30歳代(n=67)	37.3	47.8	19.4	28.4	20.9	31.3	28.4	11.9	13.4	6.0
	40歳代(n=91)	44.0	47.3	29.7	30.8	22.0	31.9	25.3	15.4	9.9	4.4
	50歳代(n=125)	40.8	34.4	36.0	38.4	31.2	28.0	25.6	8.0	9.6	5.6
	60歳代(n=156)	36.5	35.9	46.8	34.6	26.9	19.9	24.4	11.5	8.3	5.8
	70歳以上(n=245)	39.2	33.9	35.1	29.4	35.1	26.1	23.7	5.7	9.4	12.2

単位(%)		を独大、人立に格対して、子どもが	その他	特に必要はない	わからない
全体(N=719)		5.7	1.8	0.1	5.0
性別	男性(n=324)	6.5	2.2	0.3	3.7
	女性(n=379)	5.0	1.6	0.0	6.1
年齢別	20歳代(n=25)	4.0	8.0	0.0	0.0
	30歳代(n=67)	4.5	9.0	0.0	7.5
	40歳代(n=91)	12.1	2.2	0.0	0.0
	50歳代(n=125)	6.4	1.6	0.0	3.2
	60歳代(n=156)	5.1	0.6	0.6	5.1
	70歳以上(n=245)	4.1	0.0	0.0	6.9

前回調査と比較すると、今回調査では「地域社会全体で子どもに他人を思いやる心を育てる」「地域社会全体でいじめや非行、虐待の早期発見や予防策の充実に努める」の割合が低くなっており、「子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合が高くなっています。

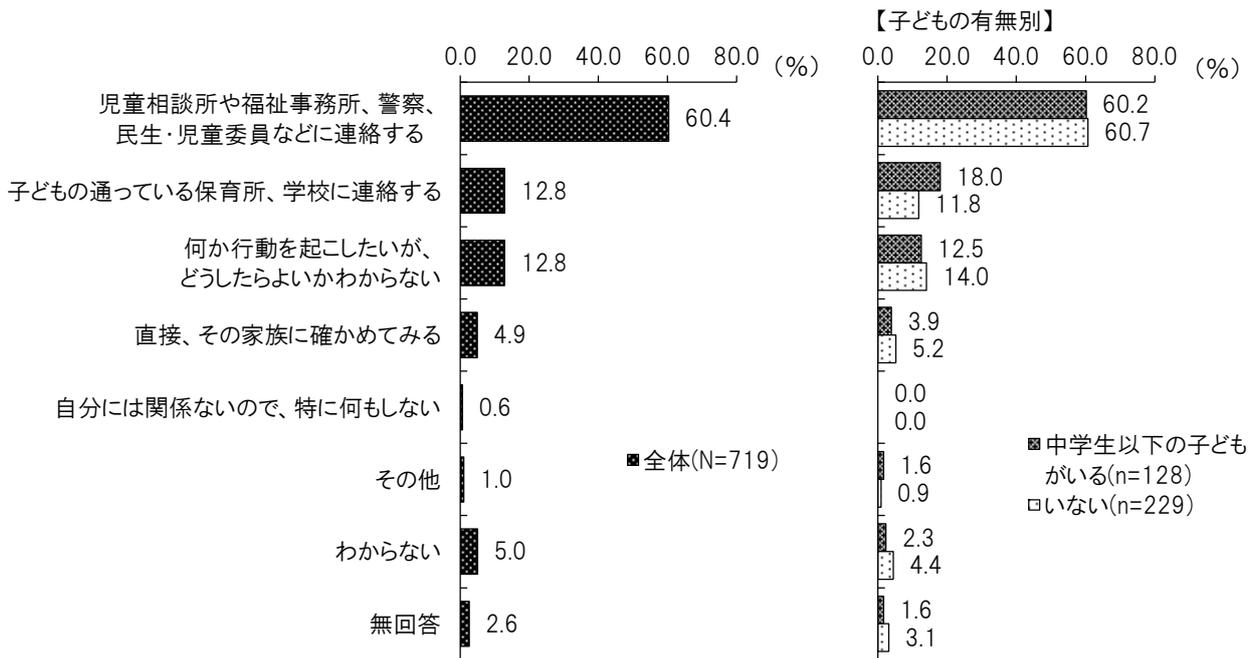


4. 虐待の通報等について

問 17. 近所の子どもが虐待されたと知った場合(疑いを持った場合)あなたはどのようにしますか。
(○印1つ)

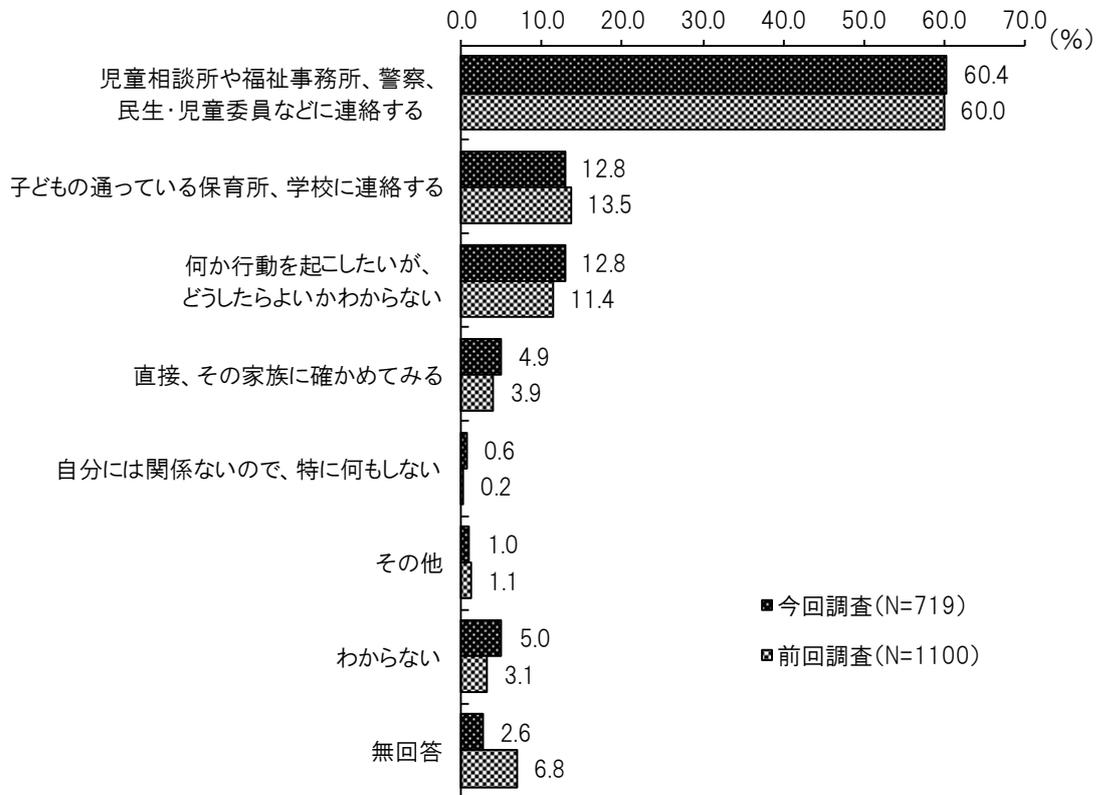
虐待の通報等については、「児童相談所や福祉事務所、警察、民生・児童委員などに連絡する」が約6割(60.4%)と大半を占めており、子どもの有無別でも大きな差は目立ちません。

性別では、女性よりも男性で「児童相談所や福祉事務所、警察、民生・児童委員などに連絡する」の割合が高く、年齢別では大きな差は目立ちません。



単位(%)	委員、児童相談所、警察などに連絡する	児童相談所、学校に通っている保育所、児童福祉センターに連絡する	子どもが通っている学校に連絡する	何か行動を起こしたいが、どうしたらよいかわからない	直接、その家族に確かめてみる	自分には関係ないので、特に何もしない	その他	わからない
全体(N=719)	60.4	12.8	12.8	4.9	0.6	1.0	5.0	
性別								
男性(n=324)	67.3	9.3	10.8	6.2	0.6	0.6	3.4	
女性(n=379)	54.6	16.1	14.8	3.7	0.5	1.1	6.1	
年齢別								
20歳代(n=25)	60.0	8.0	16.0	0.0	8.0	0.0	4.0	
30歳代(n=67)	55.2	11.9	19.4	3.0	3.0	1.5	3.0	
40歳代(n=91)	54.9	15.4	19.8	4.4	0.0	2.2	2.2	
50歳代(n=125)	65.6	12.8	12.8	5.6	0.0	0.0	3.2	
60歳代(n=156)	58.3	12.8	10.9	7.7	0.0	0.6	7.7	
70歳以上(n=245)	62.9	12.7	9.8	4.1	0.0	0.8	5.3	

前回調査と比べても大きな差は目立ちません。



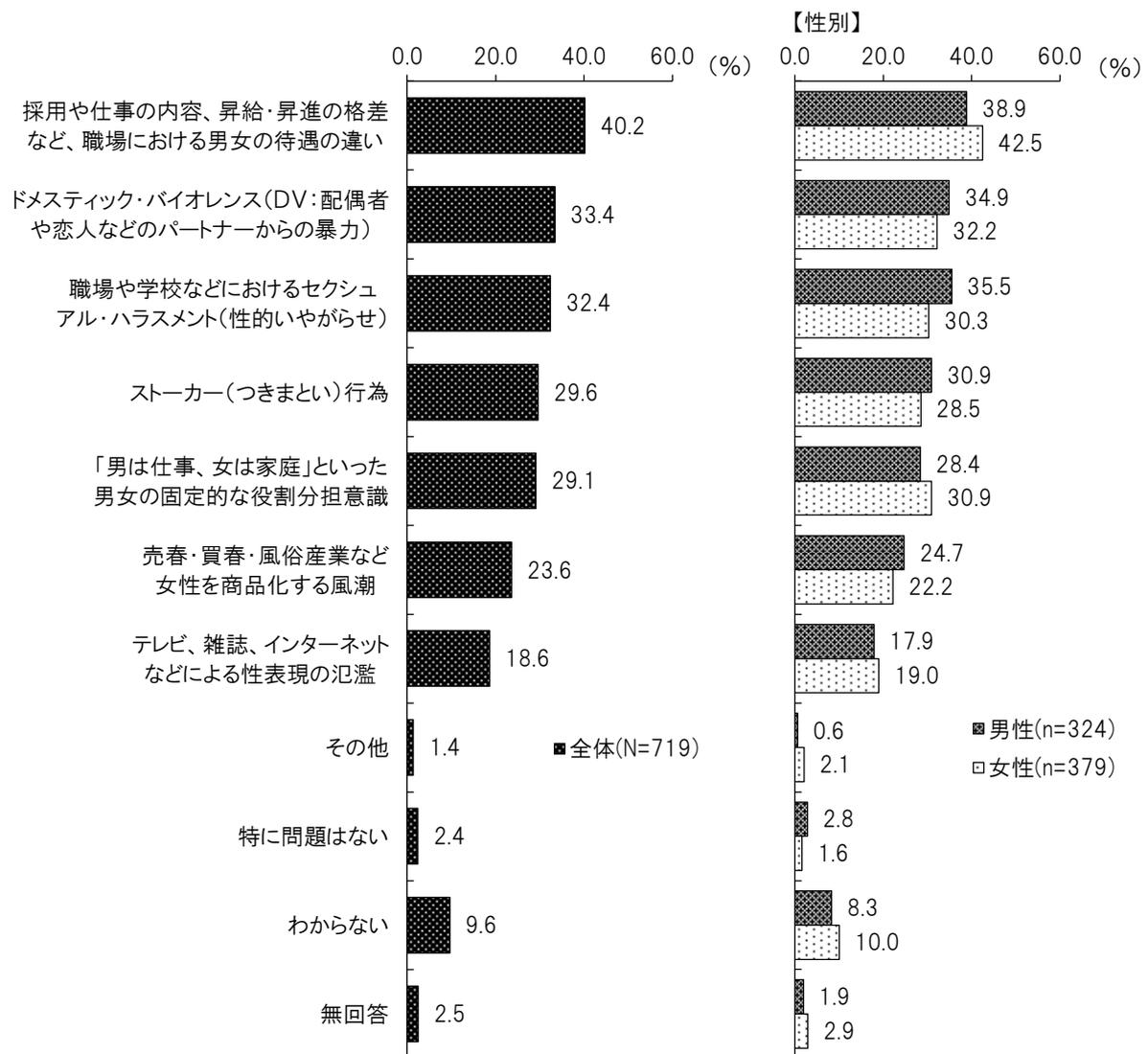
【3】女性の人権について

1. 女性の人権で問題と感ずること

問 18. 女性に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(○印3つまで)

女性の人権で問題と感ずることについては、「採用や仕事の内容、昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」が40.2%と最も高く、次いで「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人などのパートナーからの暴力）」（33.4%）、「職場や学校などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」（32.4%）、「ストーカー（つきまとい）行為」（29.6%）、「『男は仕事、女は家庭』といった男女の固定的な役割分担意識」（29.1%）の順となっています。

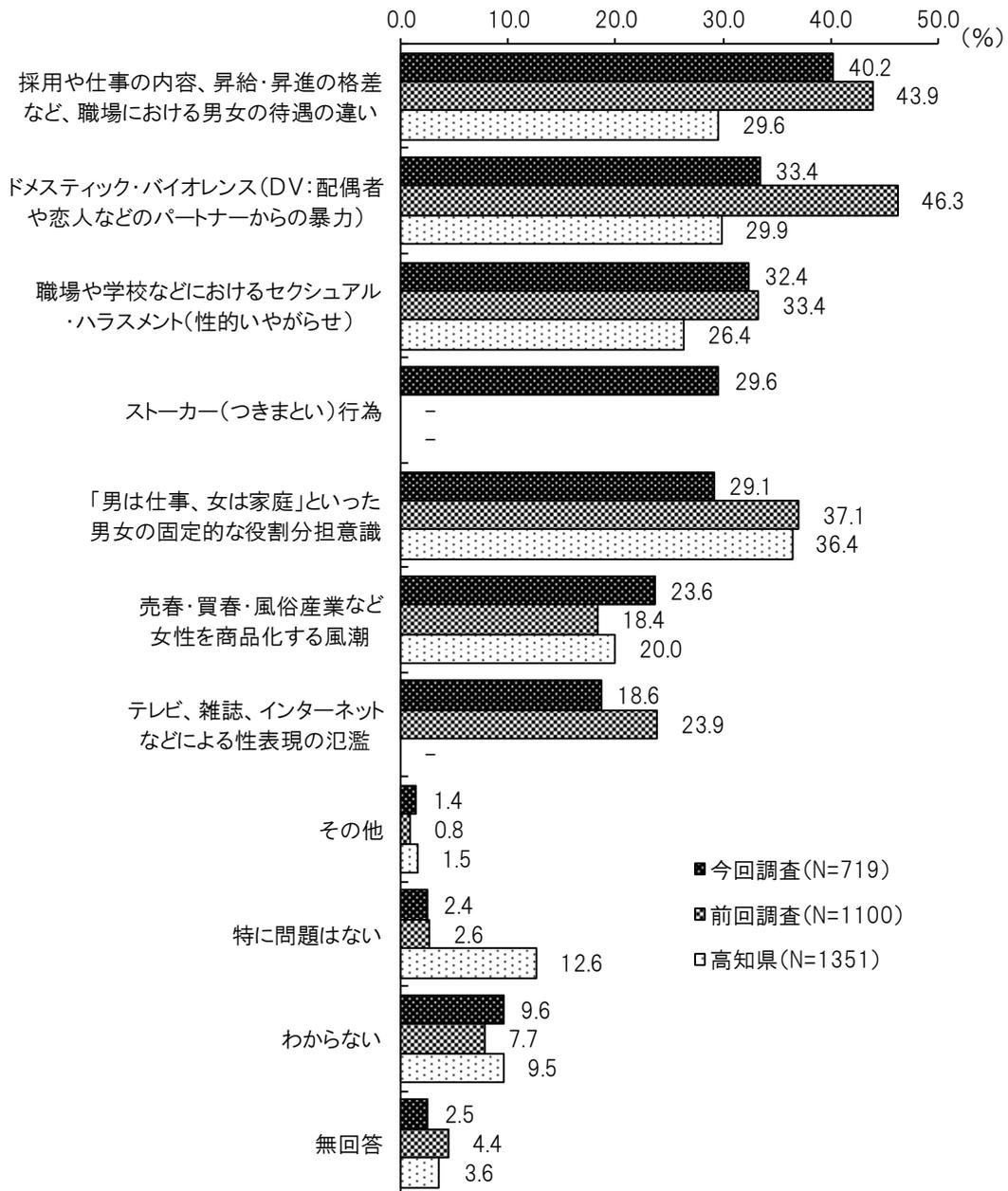
性別では、男性よりも女性で「採用や仕事の内容、昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、女性よりも男性で「職場や学校などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」の割合がそれぞれやや高くなっています。



性・年齢別では、女性は、若い年齢層ほど『男は仕事、女は家庭』といった男女の固定的な役割分担意識の割合が高い傾向にあります。また、女性20歳代では「採用や仕事の内容、昇給・昇進の格差など、職場における男女の待遇の違い」、女性40歳代では「職場や学校などにおけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」などが他の年齢層に比べそれぞれ高くなっています。一方、男性30歳代では「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人などのパートナーからの暴力）」の割合が高くなっています。

単位(%)	男女の格差などの違い	採用や仕事の内容、昇給・昇進の格差など	ドメスティック・バイオレンス	セクシュアル・ハラスメント	職場や学校などにおける（性的）	シヤル・ハラスメント	職業や学校などにおける（性的）	ストーカー（つきまとい）	男性は仕事、女性は家庭な役割と	男性は仕事、女性は家庭な役割と	性売春・買春・風俗産業など	テレビ、雑誌、インターネット	その他	特に問題はない	わからない
全体(N=719)	40.2	33.4	32.4	29.6	29.1	23.6	18.6	1.4	2.4	9.6					
性・年齢別	男性20歳代(n=13)	23.1	38.5	23.1	30.8	23.1	15.4	15.4	0.0	7.7	30.8				
	男性30歳代(n=29)	41.4	48.3	27.6	27.6	24.1	10.3	6.9	3.4	6.9	6.9				
	男性40歳代(n=34)	41.2	29.4	35.3	32.4	35.3	23.5	11.8	0.0	8.8	2.9				
	男性50歳代(n=52)	42.3	34.6	40.4	23.1	28.8	25.0	17.3	0.0	0.0	9.6				
	男性60歳代(n=70)	35.7	34.3	38.6	34.3	17.1	18.6	20.0	1.4	2.9	10.0				
	男性70歳以上(n=124)	38.7	33.9	33.9	33.1	33.9	32.3	21.8	0.0	0.8	6.5				
	女性20歳代(n=12)	83.3	33.3	50.0	25.0	41.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0				
	女性30歳代(n=38)	50.0	34.2	26.3	31.6	44.7	23.7	21.1	5.3	0.0	7.9				
	女性40歳代(n=56)	53.6	35.7	48.2	32.1	42.9	14.3	8.9	3.6	0.0	1.8				
	女性50歳代(n=72)	45.8	41.7	36.1	36.1	34.7	20.8	13.9	2.8	0.0	8.3				
	女性60歳代(n=85)	41.2	29.4	27.1	24.7	29.4	21.2	25.9	1.2	3.5	9.4				
	女性70歳以上(n=115)	29.6	26.1	20.0	24.3	18.3	29.6	23.5	0.9	2.6	16.5				

前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では『男は仕事、女は家庭』といった男女の固定的な役割分担意識の割合が低くなっています。また、前回調査よりも「ドメスティック・バイオレンス（DV：配偶者や恋人などのパートナーからの暴力）」の割合が低い一方で、「売春・買春・風俗産業など女性を商品化する風潮」の割合がやや高くなっています。



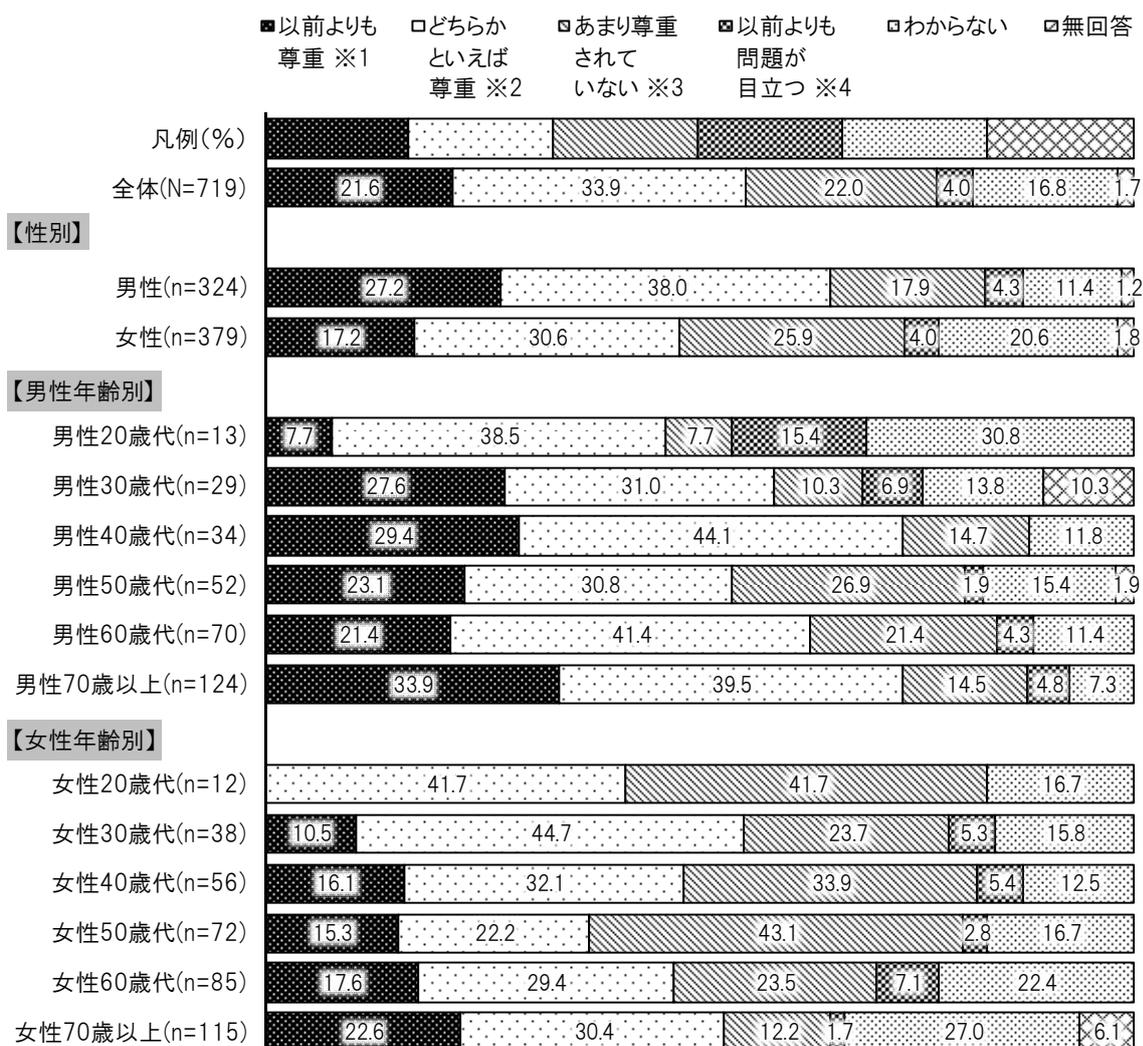
2. 女性の人権の尊重についての変化

問 19. 4～5年前に比べて、国内では女性の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

女性の人権の尊重に関する変化については、「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」が 33.9%と最も高く、「以前に比べて女性の人権は尊重されてきていると感じる」(21.6%)を合わせると、『尊重されてきている』割合は 55.5%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(22.0%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(4.0%)を合わせると、『尊重されていない』割合は 26.0%となっています。

性別では、女性よりも男性で『尊重されてきている』割合が高く、女性で「あまり尊重されているとは言えない」「わからない」の割合が高くなっています。

性・年齢別では、男性 40 歳代で「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」、男性 70 歳以上で「以前に比べて女性の人権は尊重されてきていると感じる」の割合が高く、女性 30 歳代でも「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」の割合が高くなっています。一方、女性 20 歳代及び女性 40～50 歳代では「あまり尊重されているとは言えない」の割合が高くなっています。



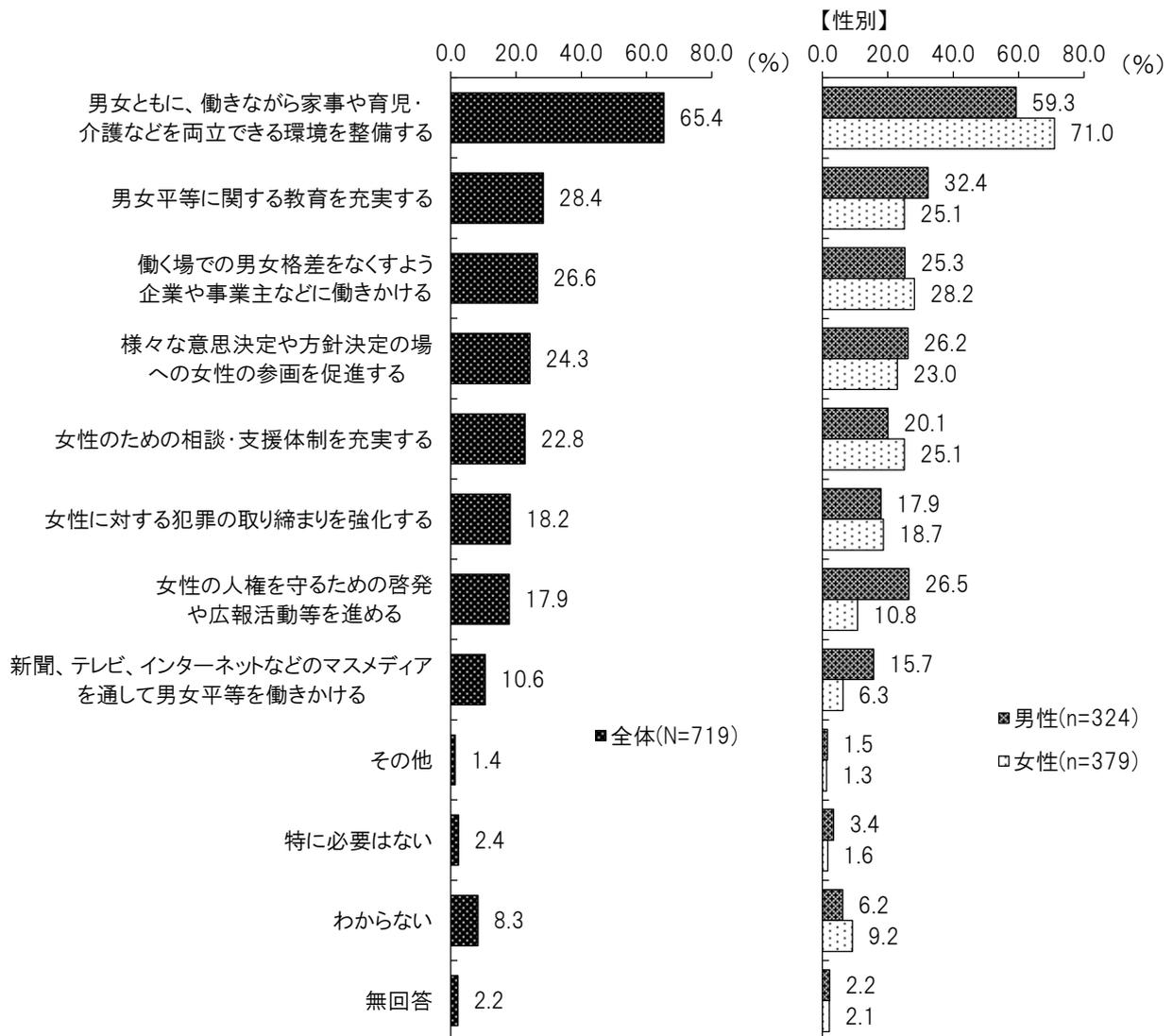
※1: 以前に比べて女性の人権は尊重されてきていると感じる
 ※2: どちらかといえば尊重されてきていると感じる
 ※3: あまり尊重されているとは言えない
 ※4: 以前に比べて問題が目立ってきている

3. 女性の人権を守るため必要と思うこと

問 20. 女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

女性の人権を守るため必要と思うことについては、「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」が65.4%と最も高く、次いで「男女平等に関する教育を充実する」(28.4%)、「働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける」(26.6%)、「様々な意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」(24.3%)、「女性のための相談・支援体制を充実する」(22.8%)の順となっています。

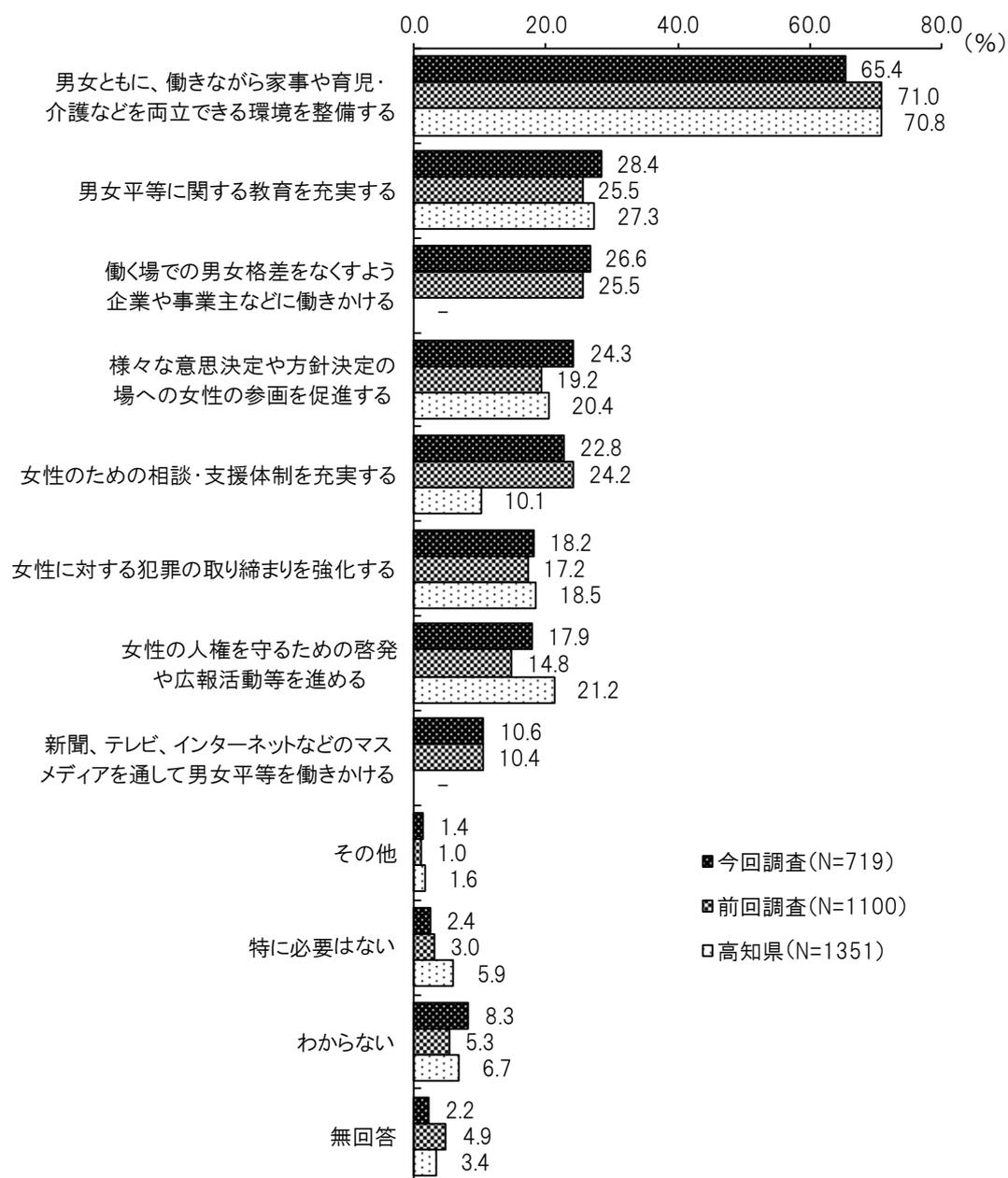
性別では、男性よりも女性で「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」、女性よりも男性で「女性の人権を守るための啓発や広報活動等を進める」の割合がそれぞれ高くなっています。



性・年齢別では、女性50歳代で「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が8割以上を占めており、女性30歳代以下で「働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける」、男性30歳代以下で「新聞、テレビ、インターネットなどのマスメディアを通して男女平等を働きかける」の割合が高くなっています。また、男性50歳代で「様々な意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」、女性30歳代で「女性のための相談・支援体制を充実する」、男性40歳代、女性50歳代で「女性に対する犯罪の取り締まりを強化する」、男性70歳以上で「女性の人権を守るための啓発や広報活動等を進める」の割合が、他の性・年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		できるや育 見環境を 整備する	男女平等 に関する 教育を充 実する	働きかけ る	働く場 での男女 格差をな くす	様々な意 思決定や 方針決定 の場への 女性の参 画を促進 する	女性のた めの相談 ・支援体 制を充実 する	女性に対 する犯罪 の取り締 まりを強 化する	女性の人 権を守る ための啓 発や広報 活動等進 める	新聞、テ レビ、イ ンターネ ットなど の男女平 等を働き か	その他	特に必要 はない	わから ない
全体(N=719)		65.4	28.4	26.6	24.3	22.8	18.2	17.9	10.6	1.4	2.4	8.3	
性・ 年齢別	男性20歳代(n=13)	46.2	30.8	7.7	7.7	15.4	23.1	7.7	23.1	7.7	7.7	7.7	
	男性30歳代(n=29)	58.6	13.8	24.1	10.3	13.8	13.8	6.9	20.7	3.4	10.3	13.8	
	男性40歳代(n=34)	55.9	32.4	35.3	26.5	17.6	29.4	26.5	2.9	2.9	8.8	5.9	
	男性50歳代(n=52)	63.5	30.8	21.2	38.5	25.0	17.3	17.3	13.5	0.0	0.0	5.8	
	男性60歳代(n=70)	57.1	30.0	30.0	24.3	18.6	18.6	22.9	15.7	2.9	5.7	4.3	
	男性70歳以上(n=124)	60.5	37.9	23.4	27.4	21.8	15.3	39.5	18.5	0.0	0.0	5.6	
	女性20歳代(n=12)	75.0	16.7	50.0	0.0	25.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	
	女性30歳代(n=38)	73.7	28.9	44.7	18.4	34.2	18.4	7.9	7.9	7.9	0.0	7.9	
	女性40歳代(n=56)	75.0	30.4	28.6	23.2	25.0	17.9	7.1	5.4	0.0	0.0	7.1	
	女性50歳代(n=72)	81.9	16.7	22.2	18.1	27.8	36.1	13.9	6.9	1.4	0.0	4.2	
	女性60歳代(n=85)	68.2	25.9	27.1	34.1	24.7	16.5	9.4	7.1	0.0	4.7	9.4	
	女性70歳以上(n=115)	63.5	27.0	25.2	21.7	20.9	11.3	13.0	6.1	0.9	0.9	14.8	

前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「男女ともに、働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する」の割合が低くなっている一方で、「様々な意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する」の割合が高くなっています。



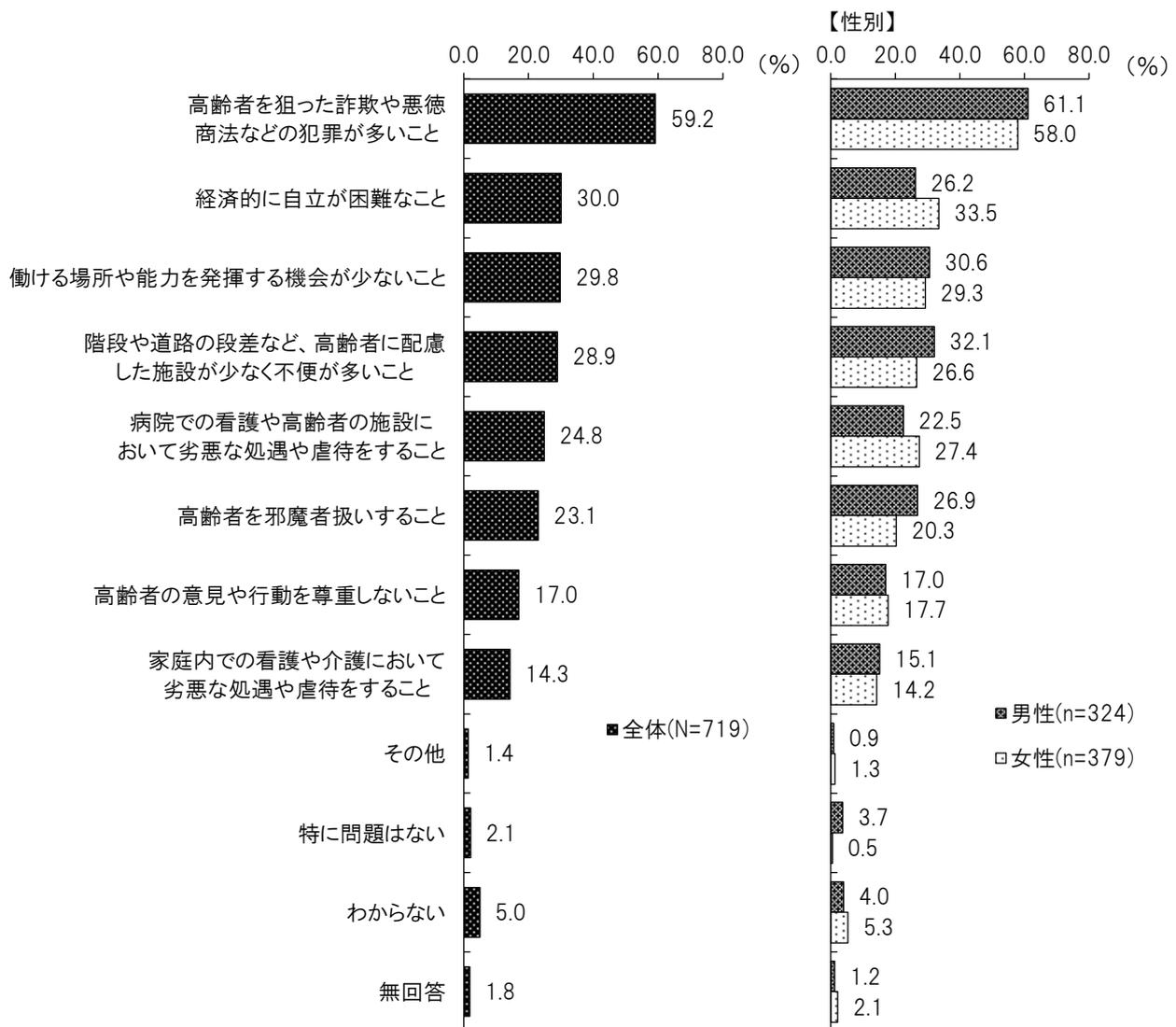
【4】高齢者の人権について

1. 高齢者の人権で問題と感ずること

問 21. 高齢者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(○印3つまで)

高齢者の人権で問題と感ずることについては、「高齢者を狙った詐欺や悪徳商法などの犯罪が多いこと」が59.2%と最も高く、次いで「経済的に自立が困難なこと」(30.0%)、「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」(29.8%)、「階段や道路の段差など、高齢者に配慮した施設が少なく不便が多いこと」(28.9%)の順となっています。

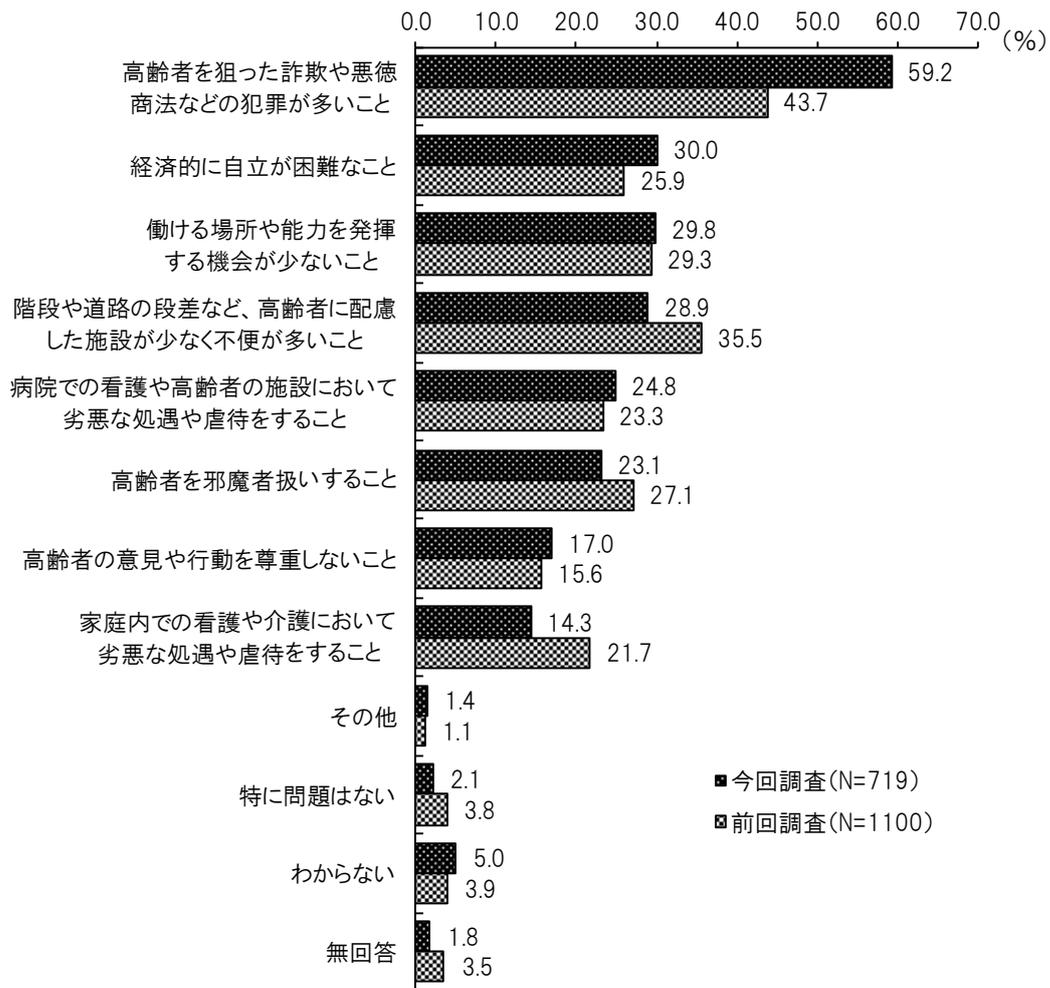
性別では、男性よりも女性で「経済的に自立が困難なこと」「病院での看護や高齢者の施設において劣悪な処遇や虐待をすること」、女性よりも男性で「階段や道路の段差など、高齢者に配慮した施設が少なく不便が多いこと」「高齢者を邪魔者扱いすること」の割合がそれぞれやや高くなっています。



年齢別では、20歳代で「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」、40歳代で「病院での看護や高齢者の施設において劣悪な処遇や虐待をすること」の割合が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		高 法 な ど の 狙 っ た 罪 が 多 い こ と	高 齢 者 を 狙 っ た 詐 欺 や 悪 徳	経 済 的 に 自 立 が 困 難 な こ と	働 け る 場 所 や 能 力 を 発 揮 す る 機 会 が 少 な い こ と								
全体(N=719)		59.2	30.0	29.8	28.9	24.8	23.1	17.0	14.3	1.4	2.1	5.0	
年 齢 別	20歳代(n=25)	56.0	8.0	48.0	28.0	28.0	28.0	16.0	12.0	0.0	4.0	4.0	
	30歳代(n=67)	49.3	32.8	25.4	22.4	26.9	28.4	11.9	22.4	1.5	1.5	6.0	
	40歳代(n=91)	61.5	30.8	30.8	28.6	35.2	19.8	15.4	18.7	0.0	1.1	5.5	
	50歳代(n=125)	63.2	28.8	32.0	25.6	25.6	18.4	13.6	12.8	0.8	1.6	5.6	
	60歳代(n=156)	55.8	29.5	29.5	30.1	25.6	28.2	19.2	13.5	1.9	1.9	3.2	
	70歳以上(n=245)	62.9	33.1	28.2	33.1	19.2	22.0	19.6	12.7	1.6	2.4	4.5	

前回調査と比較すると、今回調査では「高齢者を狙った詐欺や悪徳商法などの犯罪が多いこと」の割合が高く、「階段や道路の段差など、高齢者に配慮した施設が少なく不便が多いこと」の割合が低くなっています。また、「高齢者を邪魔者扱いすること」「家庭内での看護や介護において劣悪な処遇や虐待をすること」の割合も低くなっています。



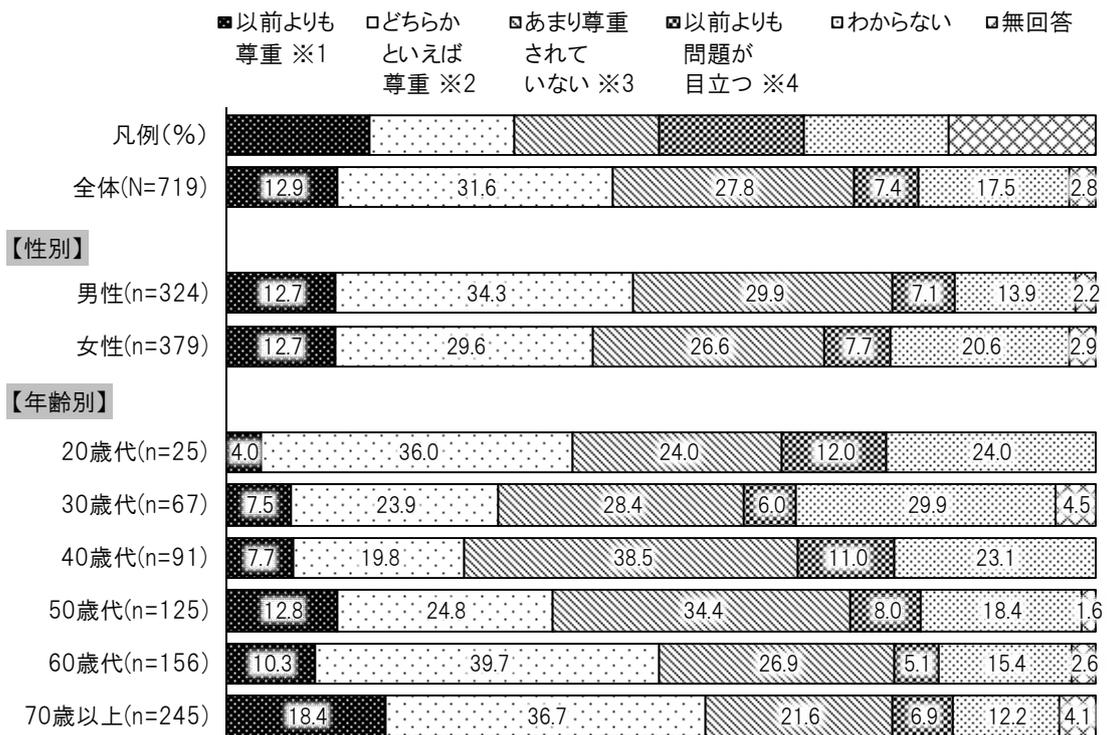
2. 高齢者の人権の尊重についての変化

問 22. 4～5年前に比べて、国内では高齢者の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。(○印1つ)

高齢者の人権の尊重に関する変化については、「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」が 31.6%と最も高く、「以前に比べて高齢者の人権は尊重されてきていると感じる」(12.9%)を合わせると、『尊重されてきている』割合は 44.5%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(27.8%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(7.4%)を合わせると、『尊重されていない』割合は 35.2%となっています。

性別では、女性よりも男性で「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」割合がやや高く、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「以前に比べて高齢者の人権は尊重されてきていると感じる」の割合はおおむね高くなる傾向にあり、70歳以上で『尊重されてきている』の割合が高くなっています。一方、40歳代で「あまり尊重されているとは言えない」の割合が高く、『尊重されていない』割合は半数近くを占めています。



※1:以前に比べて高齢者の人権は尊重されてきていると感じる

※2:どちらかといえば尊重されてきていると感じる

※3:あまり尊重されているとは言えない

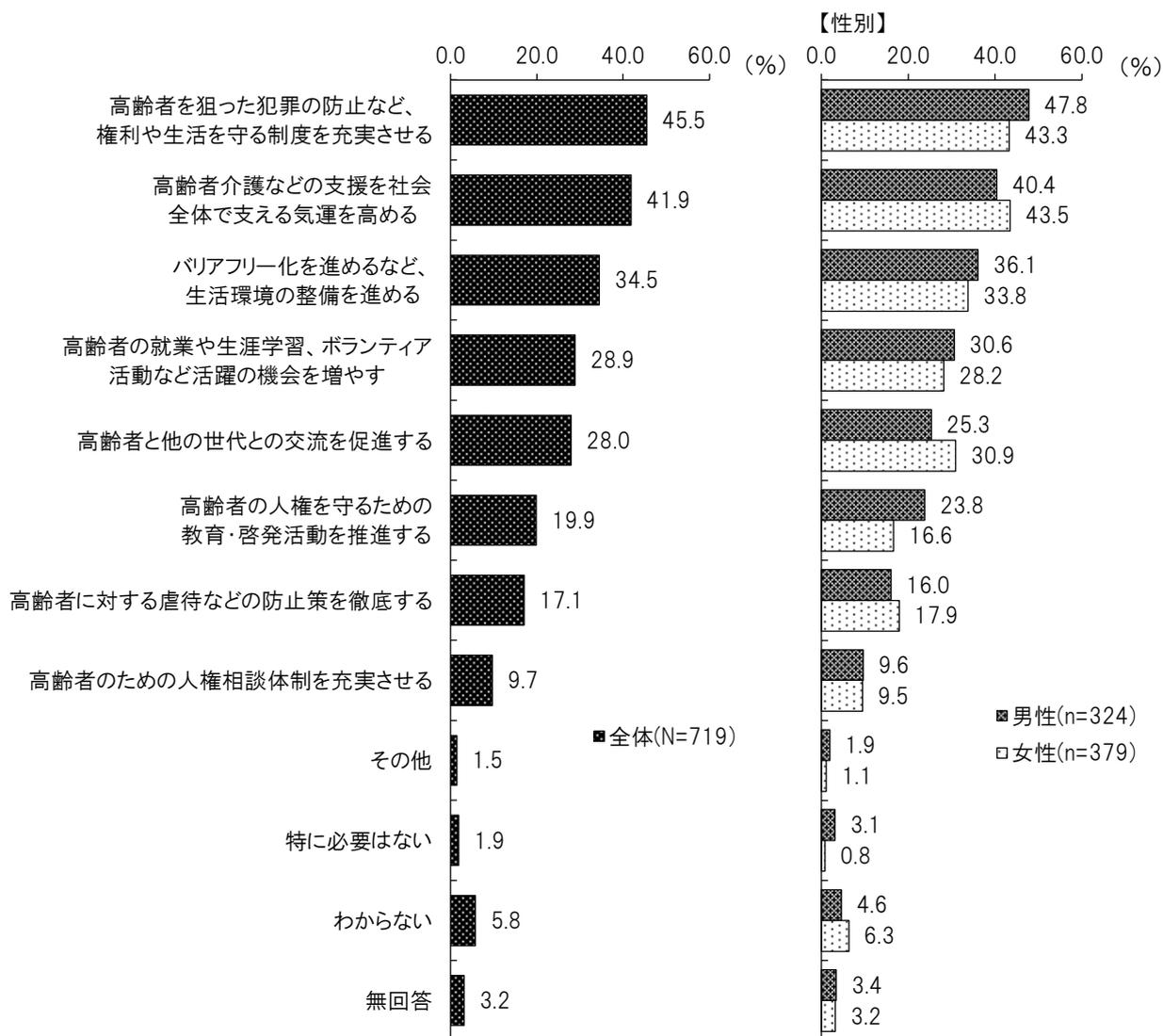
※4:以前に比べて問題が目立ってきている

3. 高齢者の人権を守るため必要と思うこと

問 23. 高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

高齢者の人権を守るため必要と思うことについては、「高齢者を狙った犯罪の防止など、権利や生活を守る制度を充実させる」が45.5%と最も高く、次いで「高齢者介護などの支援を社会全体で支える気運を高める」(41.9%)、「バリアフリー化を進めるなど、生活環境の整備を進める」(34.5%)、「高齢者の就業や生涯学習、ボランティア活動など活躍の機会を増やす」(28.9%)、「高齢者と他の世代との交流を促進する」(28.0%)の順となっています。

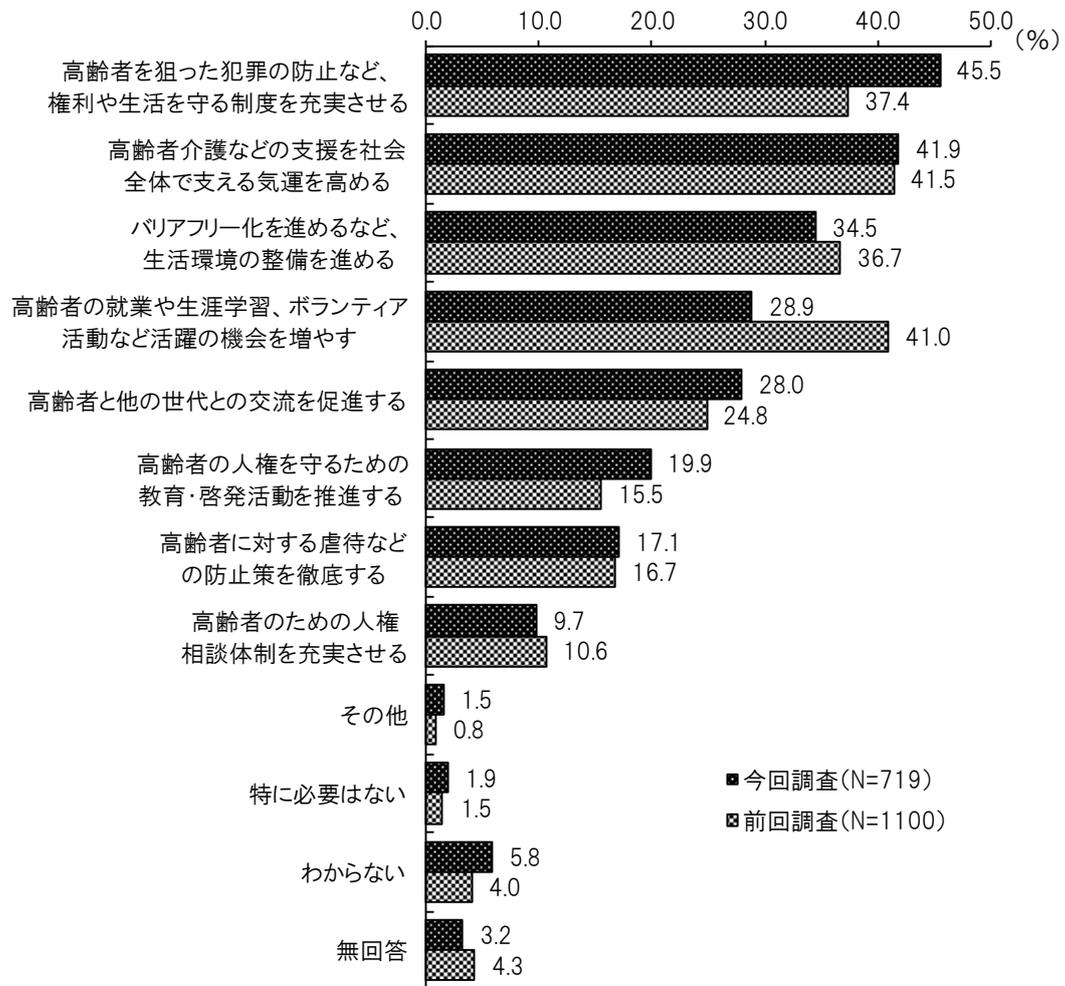
性別では、男性よりも女性で「高齢者と他の世代との交流を促進する」、女性よりも男性で「高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合がそれぞれ高くなっています。



年齢別では、年齢が上がるほど「高齢者介護などの支援を社会全体で支える気運を高める」の割合も高くなる傾向にあり、70歳以上で「高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」の割合も高くなっています。また、20歳代で「バリアフリー化を進めるなど、生活環境の整備を進める」、40歳代で「高齢者との世代との交流を促進する」、30歳代で「高齢者に対する虐待などの防止策を徹底する」の割合が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		高齢者に対する気運を高める	高齢者介護などの支援を高める	バリアフリー化を進める	高齢者の就業や生涯学習、ボランティア活動など	高齢者との世代との交流を促進する	高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する	高齢者に対する虐待などの防止策を徹底する	高齢者の人権相談体制を充実させる	その他	特に必要はない	わからない
全体(N=719)		45.5	41.9	34.5	28.9	28.0	19.9	17.1	9.7	1.5	1.9	5.8
年齢別	20歳代(n=25)	44.0	36.0	64.0	32.0	20.0	12.0	12.0	8.0	0.0	4.0	8.0
	30歳代(n=67)	43.3	38.8	32.8	28.4	35.8	4.5	25.4	6.0	6.0	1.5	9.0
	40歳代(n=91)	48.4	40.7	38.5	31.9	37.4	17.6	16.5	4.4	3.3	3.3	3.3
	50歳代(n=125)	50.4	40.8	33.6	34.4	32.8	19.2	14.4	1.6	2.4	1.6	6.4
	60歳代(n=156)	44.9	43.6	34.0	32.7	22.4	18.6	19.2	12.8	0.6	3.2	3.2
	70歳以上(n=245)	43.7	44.1	32.7	22.9	24.5	26.9	15.1	15.1	0.0	0.0	6.5

前回調査と比較すると、今回調査では「高齢者を狙った犯罪の防止など、権利や生活を守る制度を充実させる」の割合が高く、「高齢者の就業や生涯学習、ボランティア活動など活躍の機会を増やす」の割合が低くなっています。



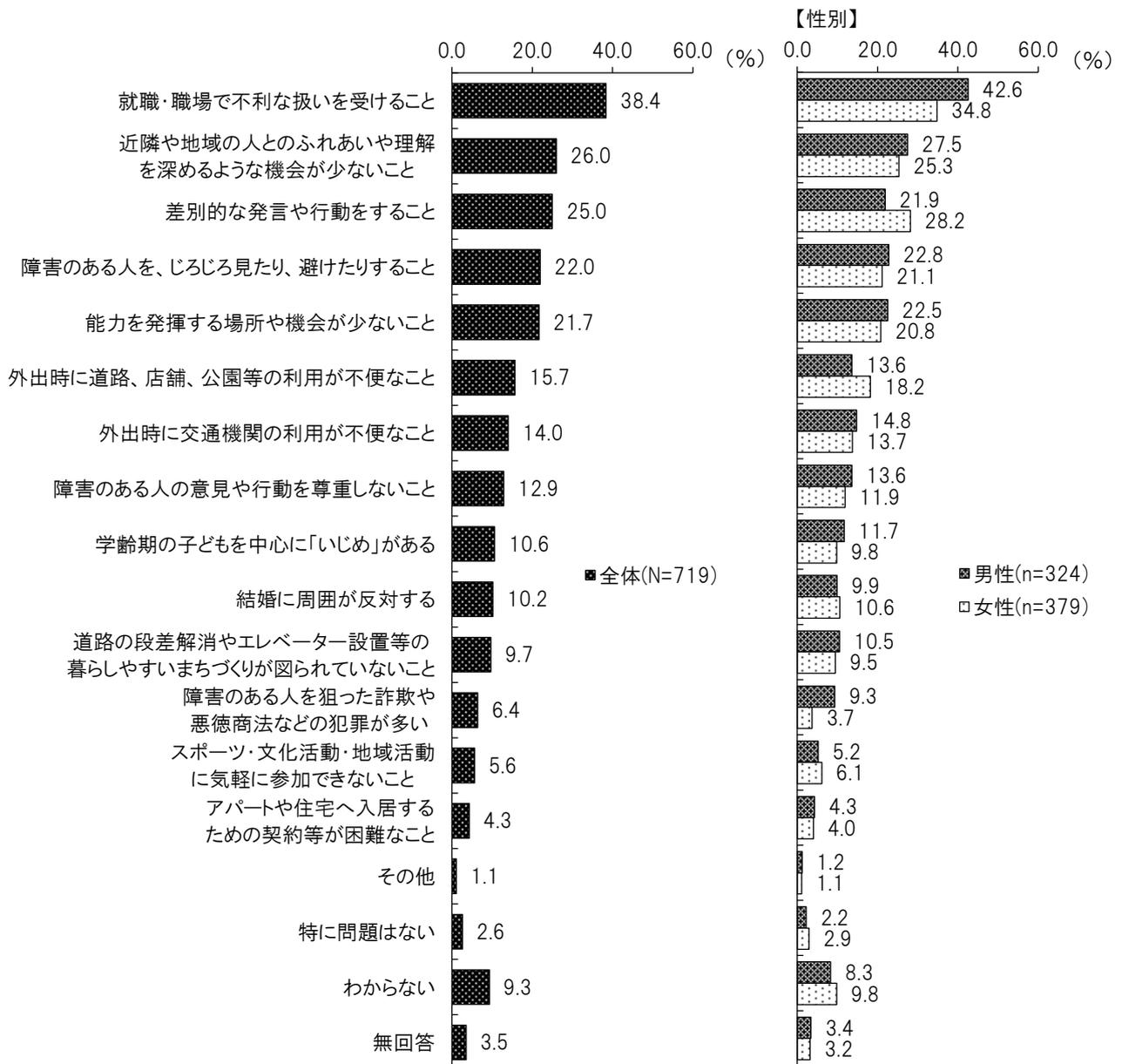
【5】障害者の人権について

1. 障害者の地域生活で問題と感ずること

問 24. 障害のある人が地域で生活するとき、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

障害者の地域生活で問題と感ずることについては、「就職・職場で不利な扱いを受けること」が38.4%と最も高く、次いで「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」(26.0%)、「差別的な発言や行動をすること」(25.0%)、「障害のある人を、じろじろ見たり、避けたりすること」(22.0%)、「能力を発揮する場所や機会が少ないこと」(21.7%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「就職・職場で不利な扱いを受けること」、男性よりも女性で「差別的な発言や行動をすること」の割合がそれぞれ高くなっています。



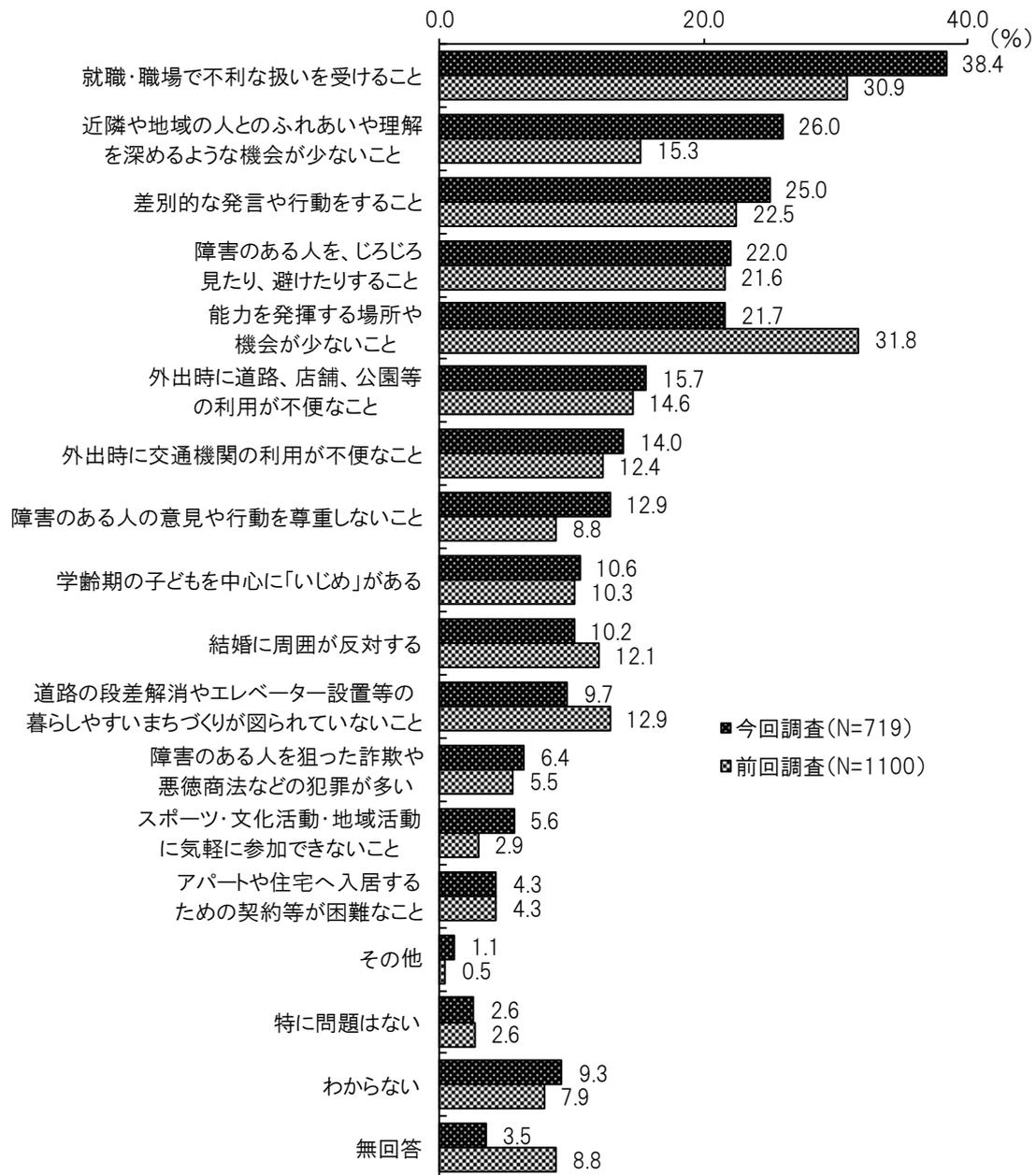
年齢別では、30歳代で「就職・職場で不利な扱いを受けること」「差別的な発言や行動をすること」、60歳代で「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」の割合が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		就職・職場で不利な扱いを受けること	近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと	差別的な発言や行動をすること	障害のある人への避けたりすること	能力を発揮する場所や機会が少ないこと	外出時に道路、店舗、公園等の利用が不便なこと	外出時に交通機関の利用が不便なこと	障害のある人の意見や行動を尊重しないこと	学齢期の子どもを中心に「いじめ」がある	結婚に周囲が反対する
全体(n=208)		38.4	26.0	25.0	22.0	21.7	15.7	14.0	12.9	10.6	10.2
年齢別	20歳代(n=7)	36.0	12.0	32.0	24.0	16.0	16.0	20.0	16.0	20.0	24.0
	30歳代(n=22)	49.3	13.4	37.3	28.4	23.9	11.9	10.4	14.9	16.4	9.0
	40歳代(n=33)	35.2	28.6	29.7	22.0	20.9	22.0	9.9	18.7	17.6	8.8
	50歳代(n=47)	45.6	25.6	25.6	20.0	27.2	17.6	12.8	8.0	12.8	5.6
	60歳代(n=44)	36.5	35.3	23.7	14.7	25.0	17.3	18.6	10.3	9.0	7.7
	70歳以上(n=54)	34.7	24.9	20.4	26.1	16.7	13.1	13.5	14.3	5.7	13.5

単位(%)		道路の段差解消やエレベーター設置の暮らしていきやすいこと	障害のある人の犯罪が多いたい詐欺や悪徳商法などの人	スポーツに参加できないこと	スポーツや文化活動・地域活動	アパートや住宅へ入居するため	その他	特に問題はない	わからない
全体(n=208)		9.7	6.4	5.6	4.3	1.1	2.6	9.3	
年齢別	20歳代(n=7)	12.0	4.0	4.0	4.0	0.0	4.0	4.0	
	30歳代(n=22)	4.5	6.0	6.0	10.4	4.5	0.0	7.5	
	40歳代(n=33)	12.1	7.7	6.6	3.3	1.1	4.4	6.6	
	50歳代(n=47)	10.4	2.4	7.2	5.6	2.4	0.8	8.0	
	60歳代(n=44)	12.8	5.8	5.1	0.6	0.6	1.9	10.9	
	70歳以上(n=54)	7.8	9.0	4.9	4.5	0.0	3.3	10.6	

注:年齢別の「20歳代」は該当数(n)が少ないため、参考値として参照。

前回調査と比較すると、今回調査では「就職・職場で不利な扱いを受けること」「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと」の割合が高く、「能力を発揮する場所や機会が少ないこと」の割合が低くなっています。



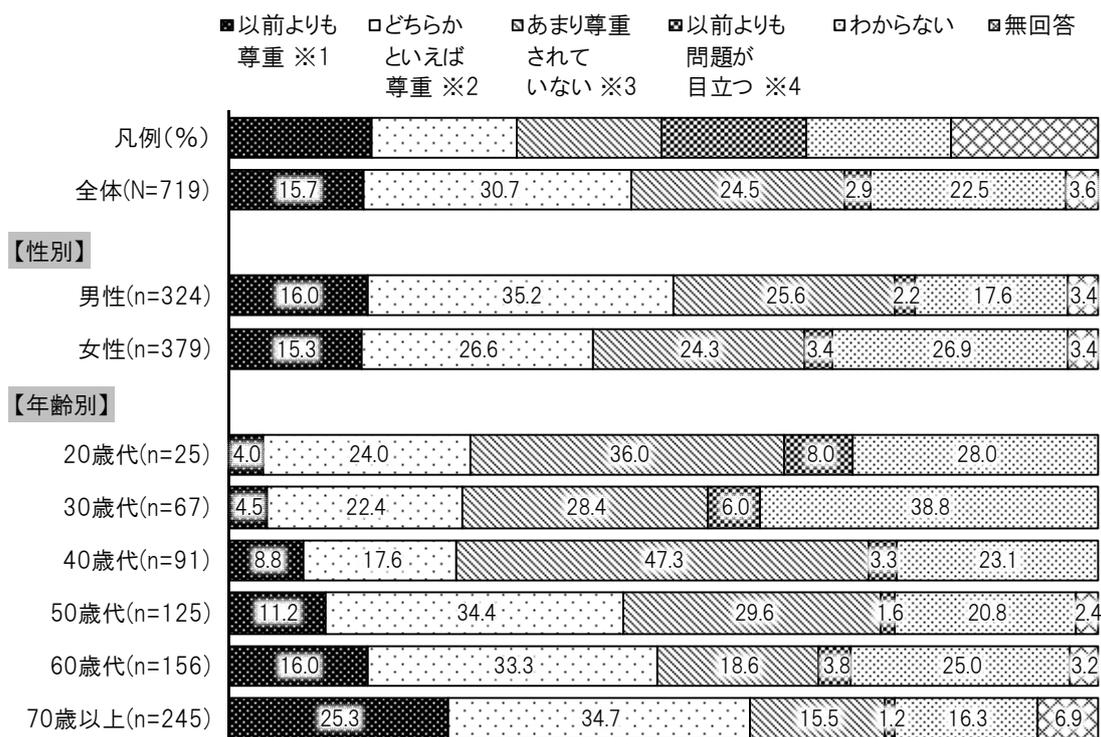
2. 障害者の人権の尊重についての変化

問 25. 4～5年前に比べて、国内では障害者の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。(○印1つ)

障害者の人権の尊重に関する変化については、「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」が 30.7%と最も高く、「以前に比べて障害者の人権は尊重されてきていると感じる」(15.7%)を合わせると、『尊重されてきている』割合は 46.4%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(24.5%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(2.9%)を合わせると、『尊重されていない』割合は 27.4%となっています。

性別では、女性よりも男性で「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」割合が高く、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「以前に比べて障害者の人権は尊重されてきていると感じる」の割合も高くなる傾向にあり、70歳以上で『尊重されてきている』割合は6割を占めています。一方、40歳代で「あまり尊重されているとは言えない」の割合が他の年齢層に比べて高く、『尊重されていない』の割合は約半数となっています。



※1:以前に比べて障害者の人権は尊重されてきていると感じる

※2:どちらかといえば尊重されてきていると感じる

※3:あまり尊重されているとは言えない

※4:以前に比べて問題が目立ってきている

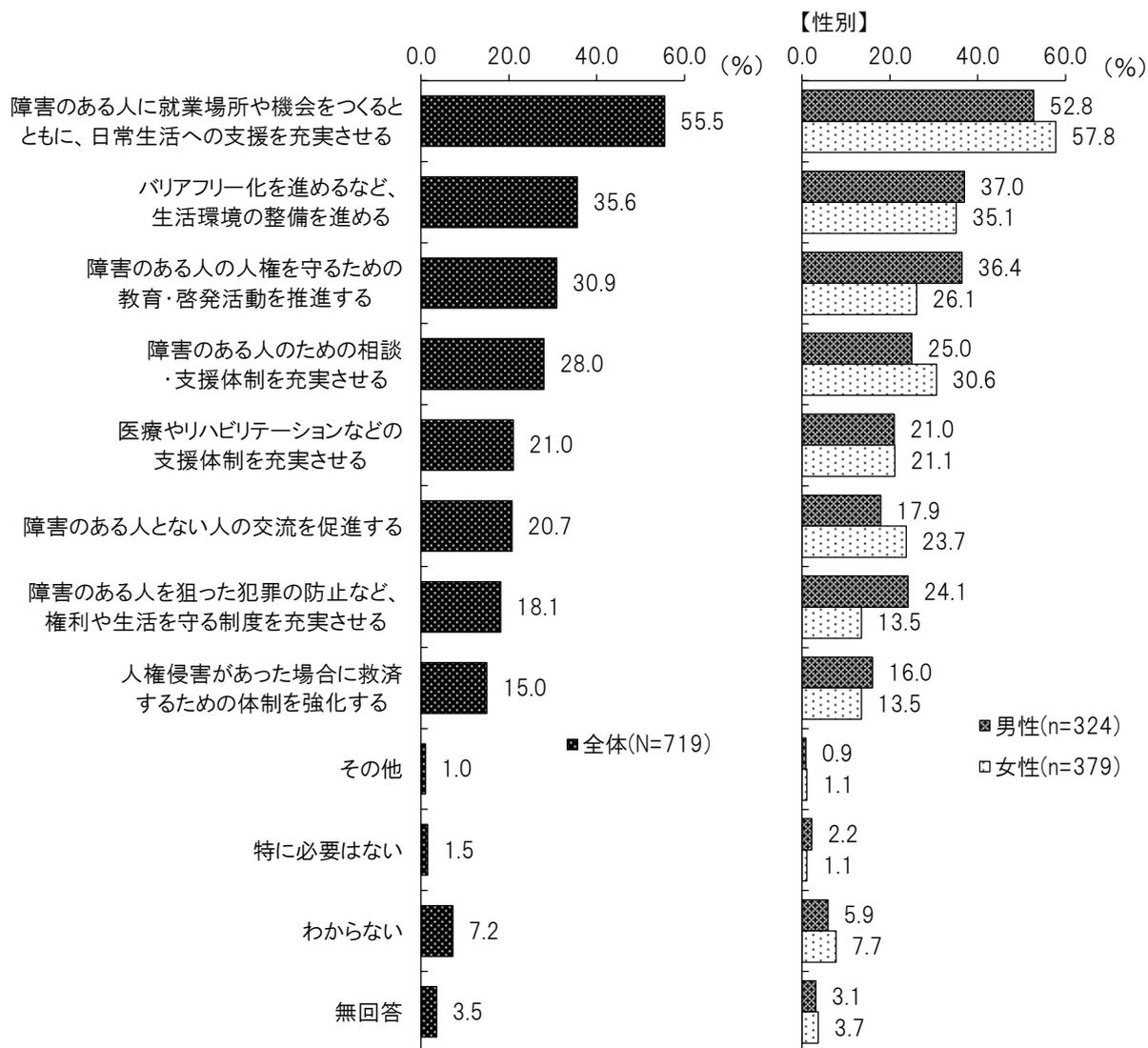
3. 障害のある人の人権を守るため必要と思うこと

問 26. 障害のある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○印3つまで)

障害のある人の人権を守るため必要と思うことについては、「障害のある人に就業場所や機会をつくるとともに、日常生活への支援を充実させる」が55.5%と最も高く、次いで「バリアフリー化を進めるなど、生活環境の整備を進める」(35.6%)、「障害のある人の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」(30.9%)、「障害のある人のための相談・支援体制を充実させる」(28.0%)の順となっています。

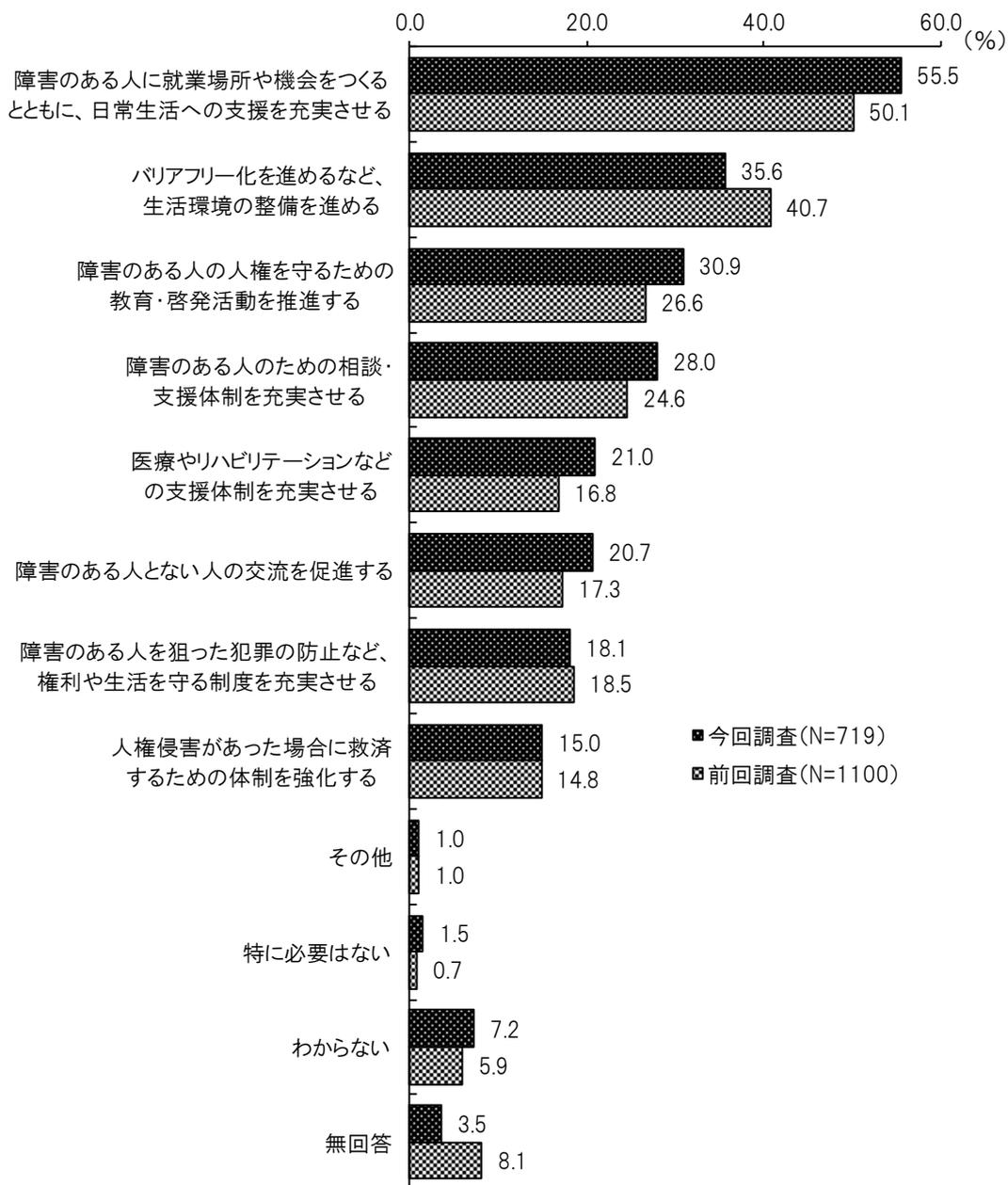
性別では、男性よりも女性で「障害のある人に就業場所や機会をつくるとともに、日常生活への支援を充実させる」「障害のある人のための相談・支援体制を充実させる」「障害のある人とない人の交流を促進する」、女性よりも男性で「障害のある人の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」「障害のある人を狙った犯罪の防止など、権利や生活を守る制度を充実させる」の割合がそれぞれ高くなっています。



年齢別では、50歳代で「障害のある人に就業場所や機会をつくるとともに、日常生活への支援を充実させる」、40～50歳代で「バリアフリー化を進めるなど、生活環境の整備を進める」、70歳以上で「障害のある人の人権を守るための教育・啓発活動を推進する」、20歳代で「障害のある人とない人の交流を促進する」の割合が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		活会障 へのつ 支のく 援ある をると 充実 させ る	障 害 の 有 る 人 に 就 業 場 所 や 機 会 を つ く る と と も に 日 常 生 活 へ の 支 援 を 充 実 さ せ る	ど バ リ ア フ リ ー 化 を 進 め る な る	る め 障 害 の 有 る 人 の 人 権 を 守 る た め の 教 育 ・ 啓 発 活 動 を 推 進 す る	支 障 害 の 有 る 人 の た め の 相 談 ・ 支 援 体 制 を 充 実 さ せ る	ど 医 療 や リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン な い 人 の 交 流 を 促 進 す る	障 害 の 有 る 人 を 狙 っ た 犯 罪 の 防 止 な ど 、 制 度 を 充 実 さ せ る	障 害 の 有 る 人 を 狙 っ た 犯 罪 の 防 止 な ど 、 制 度 を 充 実 さ せ る	す 人 権 侵 害 が あ っ た 場 合 に 救 済 す る た め の 体 制 を 強 化 す る	そ の 他	特 に 必 要 は な い	わ か ら な い
全体(N=719)		55.5	35.6	30.9	28.0	21.0	20.7	18.1	15.0	1.0	1.5	7.2	
年 齢 別	20歳代(n=25)	52.0	32.0	24.0	12.0	12.0	40.0	20.0	20.0	0.0	4.0	4.0	
	30歳代(n=67)	59.7	29.9	23.9	26.9	28.4	20.9	14.9	14.9	4.5	0.0	11.9	
	40歳代(n=91)	60.4	42.9	28.6	24.2	26.4	27.5	11.0	13.2	0.0	4.4	4.4	
	50歳代(n=125)	63.2	42.4	29.6	27.2	16.0	20.8	19.2	12.8	0.0	0.8	6.4	
	60歳代(n=156)	53.8	35.9	28.8	32.1	23.7	18.6	19.9	12.2	0.6	1.9	5.8	
	70歳以上(n=245)	50.6	31.4	36.7	29.0	19.6	18.0	20.0	17.6	1.2	0.4	7.8	

前回調査と比較すると、今回調査では「障害のある人に就業場所や機会をつくる
とともに、日常生活への支援を充実させる」の割合がやや高く、「バリアフリー化を
進めるなど、生活環境の整備を進める」の割合がやや低くなっています。



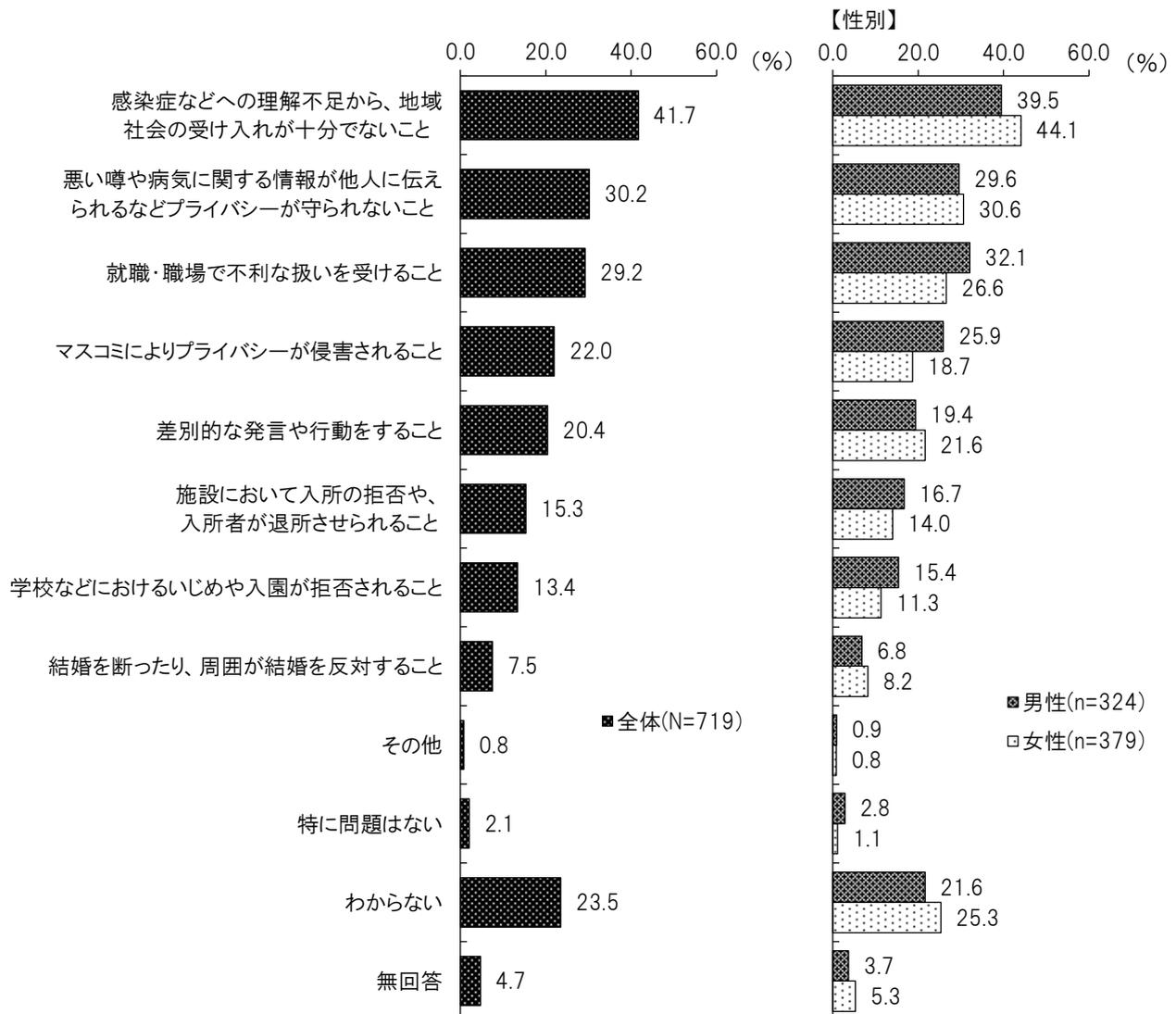
【6】H I V感染者等の人権について

1. H I V感染者等について人権上問題と感ずること

問 27. ハンセン病元患者等・HIV感染症患者等に関する事で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

H I V感染者等について人権上問題と感ずることについては、「感染症などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でないこと」が41.7%と最も高く、次いで「悪い噂や病気に関する情報が他人に伝えられるなどプライバシーが守られないこと」(30.2%)、「就職・職場で不利な扱いを受けること」(29.2%)の順となっています。

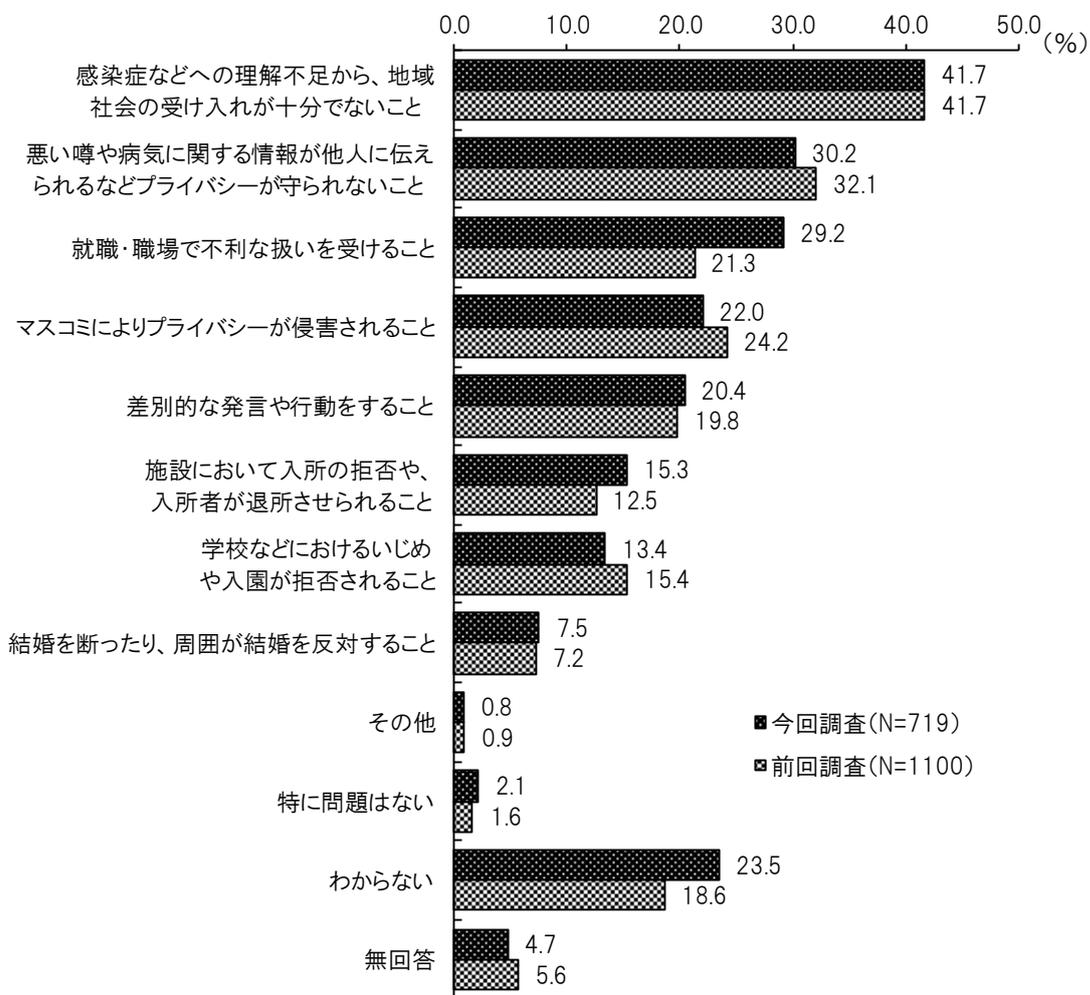
性別では、男性よりも女性で「感染症などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でないこと」、女性よりも男性で「就職・職場で不利な扱いを受けること」「マスコミによりプライバシーが侵害されること」の割合がそれぞれ高くなっています。



年齢別では、30～60歳代で「感染症などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でないこと」の割合が高く、20歳代では「わからない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

単位(%)		分から ないこと	感染 症など への理 解不足 が十	パシ ーが守 られ ない こと	他 人に 伝え られ ない こと	悪い 噂や 病に 関す る情 報が	け るこ と	就 職・ 職場 で不 利な 扱い を受	がマ スコ ミに より ライ バシ ー	と差 別的 な発 言や 行動 をす るこ	入施 設に おい て入 所の 拒否 や、	園学 校な どに おけ るい じめ や入	を結 婚を 断つ たり、 周囲 が結 婚	その 他	特 に問 題は ない	わ から ない
全体(N=719)		41.7	30.2	29.2	22.0	20.4	15.3	13.4	7.5	0.8	2.1	23.5				
年 齢 別	20歳代(n=25)	36.0	36.0	12.0	24.0	20.0	16.0	20.0	16.0	0.0	0.0	32.0				
	30歳代(n=67)	49.3	31.3	20.9	16.4	20.9	11.9	17.9	9.0	4.5	0.0	26.9				
	40歳代(n=91)	46.2	36.3	29.7	23.1	26.4	15.4	17.6	4.4	0.0	5.5	19.8				
	50歳代(n=125)	48.0	30.4	26.4	21.6	24.0	13.6	12.0	4.8	0.8	0.8	21.6				
	60歳代(n=156)	47.4	28.8	34.0	21.2	17.3	14.7	12.2	5.1	0.0	2.6	22.4				
	70歳以上(n=245)	32.2	28.6	31.0	24.1	18.8	17.1	11.4	9.8	0.8	1.2	24.9				

前回調査と比較すると、今回調査では「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が高くなっています。



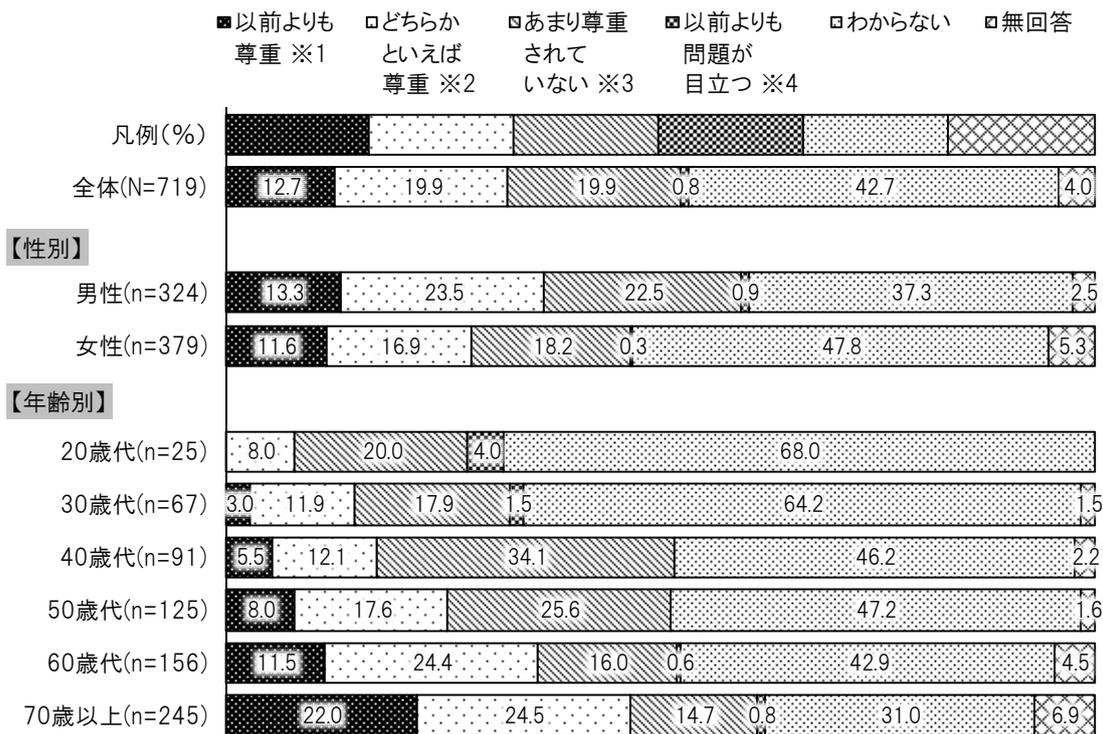
2. HIV感染者等の人権の尊重についての変化

問 28. 4～5年前に比べて、国内ではハンセン病元患者等・HIV感染症患者等の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。(○印1つ)

HIV感染者等の人権の尊重に関する変化については、「わからない」が42.7%で最も高いものの、次いで「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」が19.9%となっており、「以前に比べて患者等の人権は尊重されてきていると感じる」(12.7%)を合わせると、『尊重されてきている』割合は32.6%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(19.9%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(0.8%)を合わせると、『尊重されていない』割合は20.7%となっています。

性別では、男性に比べて女性で「わからない」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど『尊重されてきている』割合も高くなる傾向にある一方で、40歳代で「あまり尊重されているとは言えない」の割合が高く、『尊重されていない』割合が他の年齢層に比べて高くなっています。また、30歳代以下で「わからない」の割合が6割以上を占めています。



※1:以前に比べて患者等の人権は尊重されてきていると感じる

※2:どちらかといえば尊重されてきていると感じる

※3:あまり尊重されているとは言えない

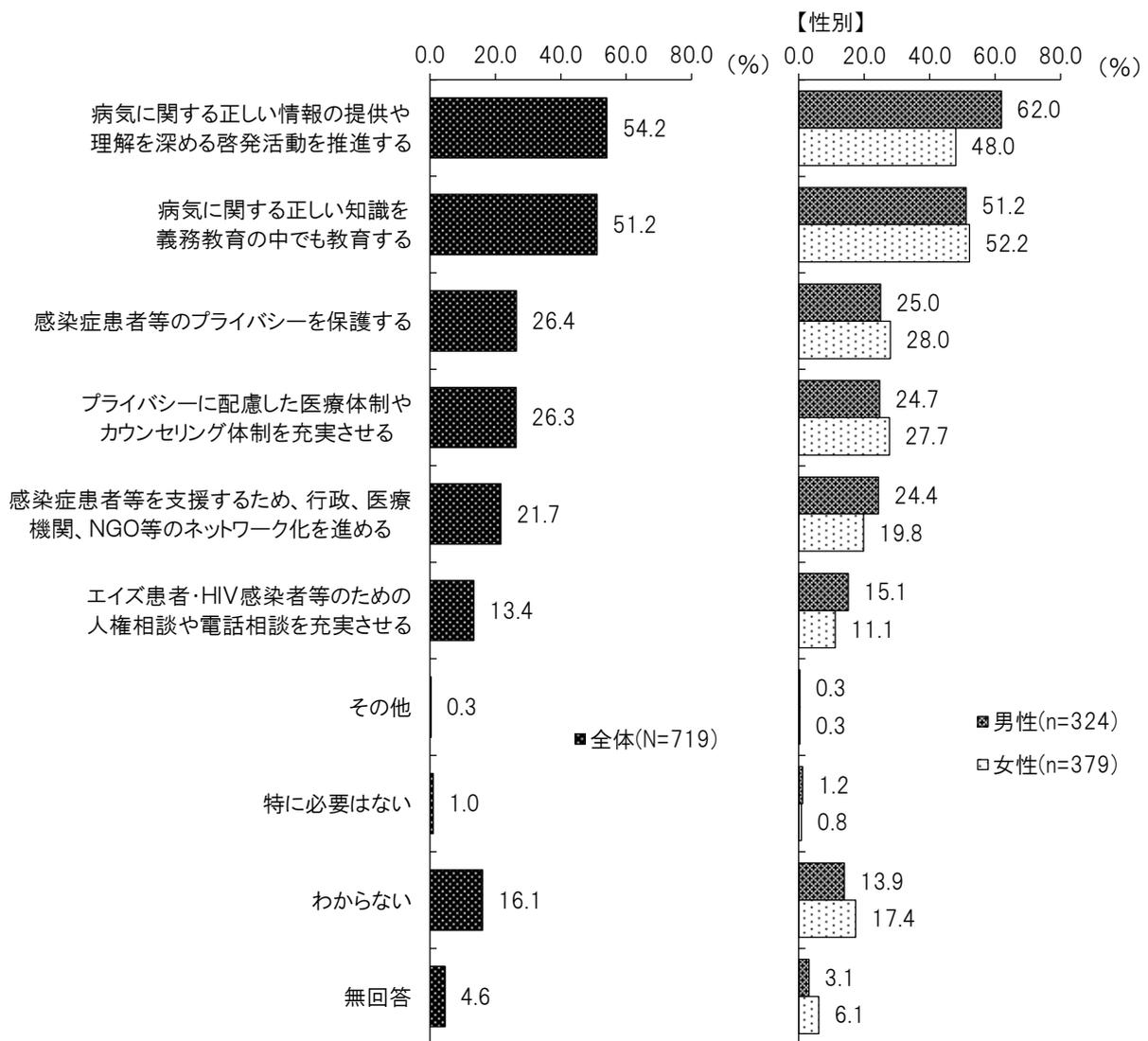
※4:以前に比べて問題が目立ってきている

3. HIV感染者等の人権を守るため必要と思うこと

問 29. ハンセン病元患者等・HIV感染症患者等の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

HIV感染者等の人権を守るため必要と思うことについては、「病気に関する正しい情報の提供や理解を深める啓発活動を推進する」が54.2%と最も高く、次いで「病気に関する正しい知識を義務教育の中でも教育する」(51.2%)が続き、以下「感染症患者等のプライバシーを保護する」(26.4%)、「プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制を充実させる」(26.3%)、「感染症患者等を支援するため、行政、医療機関、NGO等のネットワーク化を進める」(21.7%)の順となっています。

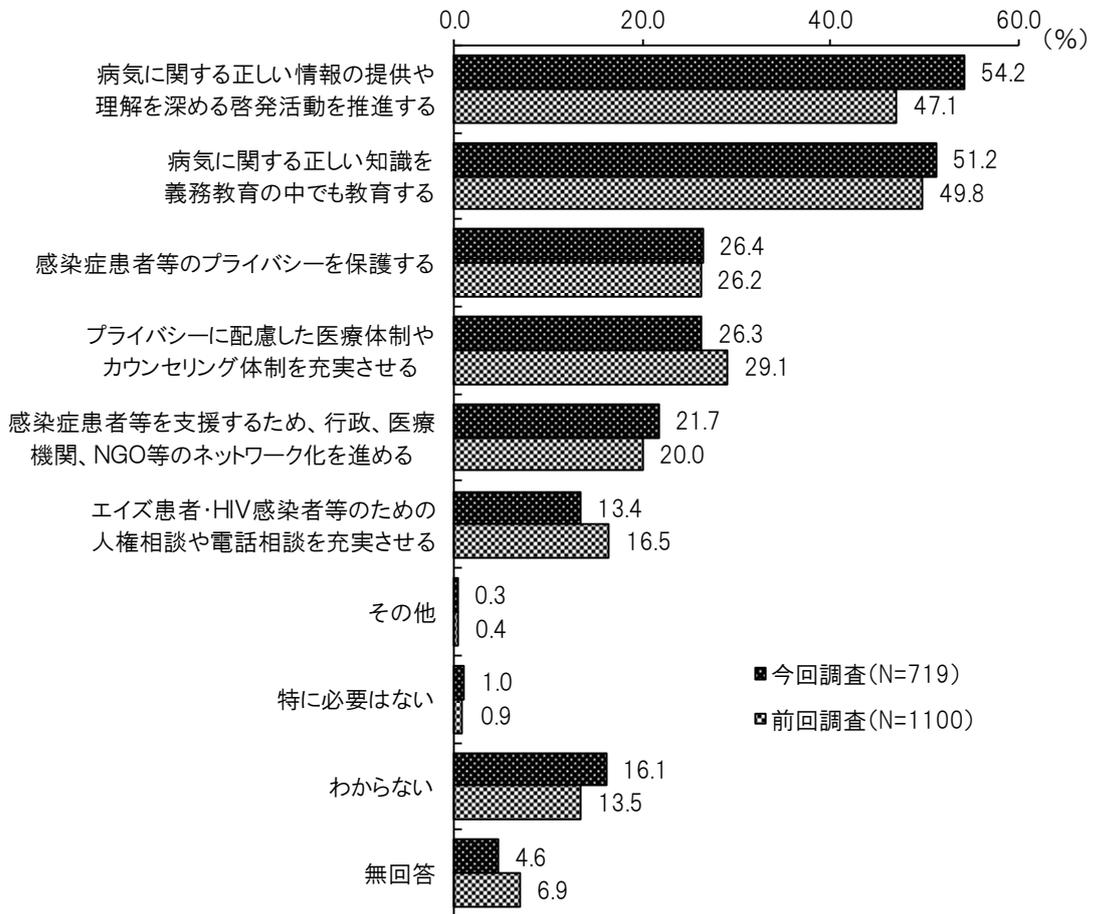
性別では、女性よりも男性で「病気に関する正しい情報の提供や理解を深める啓発活動を推進する」の割合が高くなっています。



年齢別では、50歳代で「病気に関する正しい知識を義務教育の中でも教育する」、40歳代で「感染症患者等のプライバシーを保護する」「プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制を充実させる」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		推進する 病気に 関する 正しい 啓発 活動の 提	病気に 関する 正しい 知識を 義務 教育 する	感染症 患者 等の プ ライ バ シー を 保 護 す る	プ ライ バ シー に 配 慮 し た 医 療 体 制 を 充 実 さ せ る	め、感 染症 患者 等 の支 援 す る た る O	の、充 実さ せる エ イズ 患者 ・H IV 感 染 者 等 の 相 談 や 電 話 相 談	そ の 他	特 に 必 要 は な い	わ か ら な い
全体(N=719)		54.2	51.2	26.4	26.3	21.7	13.4	0.3	1.0	16.1
年 齢 別	20歳代(n=25)	40.0	56.0	20.0	32.0	16.0	4.0	0.0	0.0	28.0
	30歳代(n=67)	58.2	50.7	25.4	25.4	20.9	7.5	3.0	0.0	17.9
	40歳代(n=91)	57.1	57.1	33.0	36.3	19.8	15.4	0.0	2.2	11.0
	50歳代(n=125)	52.8	60.8	27.2	26.4	20.8	9.6	0.0	0.8	14.4
	60歳代(n=156)	58.3	53.8	25.6	26.9	23.1	10.9	0.0	1.9	12.2
	70歳以上(n=245)	53.1	42.4	25.3	22.4	23.7	18.0	0.0	0.4	18.4

前回調査と比較すると、今回調査では「病気に関する正しい情報の提供や理解を深める啓発活動を推進する」の割合が高くなっています。



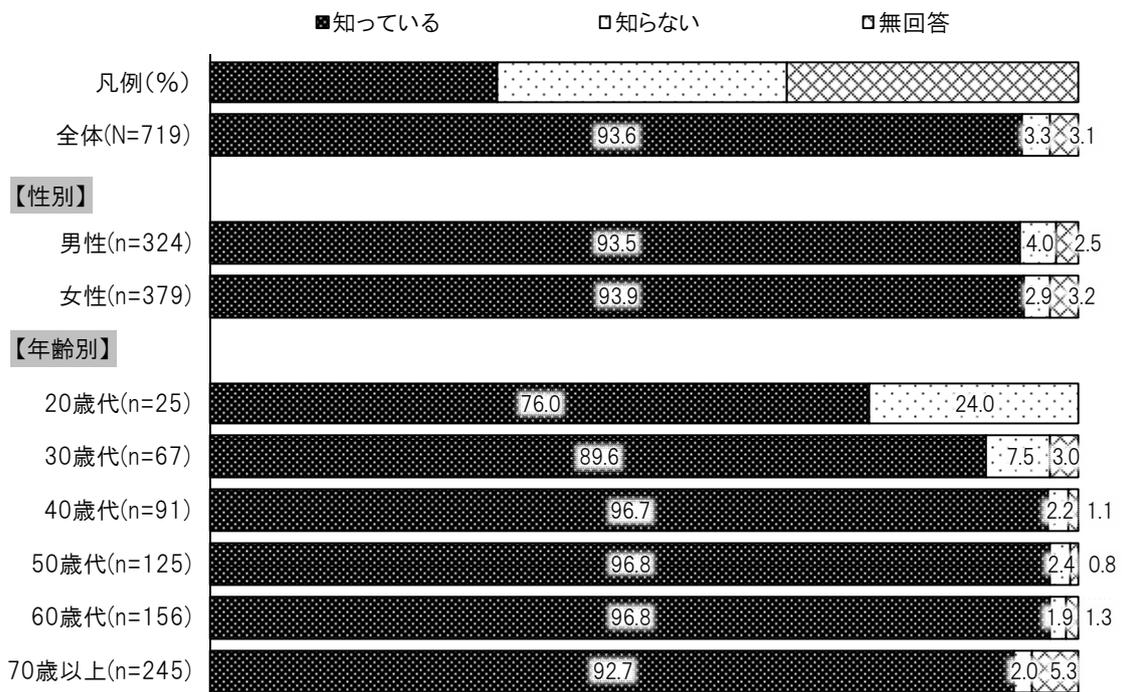
【7】同和問題について

1. 同和問題についての認識

問 30. あなたは、同和問題や同和地区があることをご存じでしたか。(○印1つ)

同和問題に関する認識については、「知っている」が9割以上(93.6%)と大半を占めています。

性別による大きな差は目立ちませんが、年齢別では、20歳代で「知らない」割合が他の年齢層に比べて高くなっています。



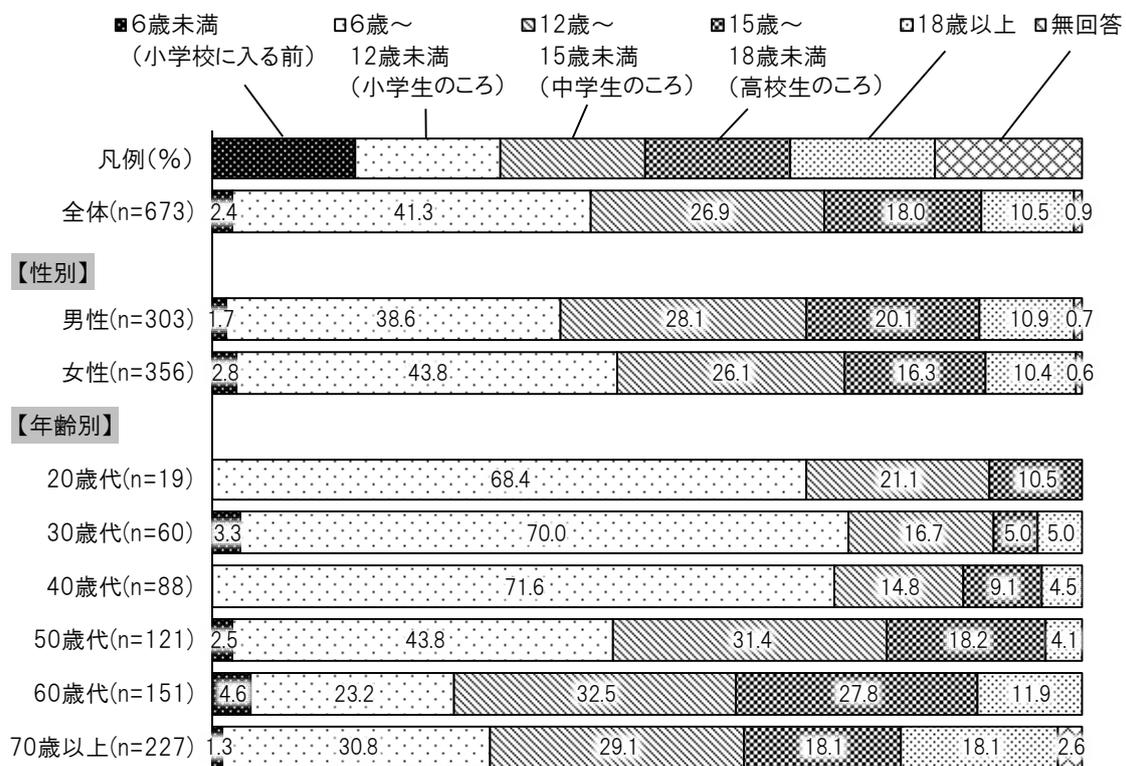
2. 同和問題について知った時期

問 31(問 30 で1と回答した方に)あなたが、同和問題や同和地区について、最初に知ったのはいつですか。(○印1つ)

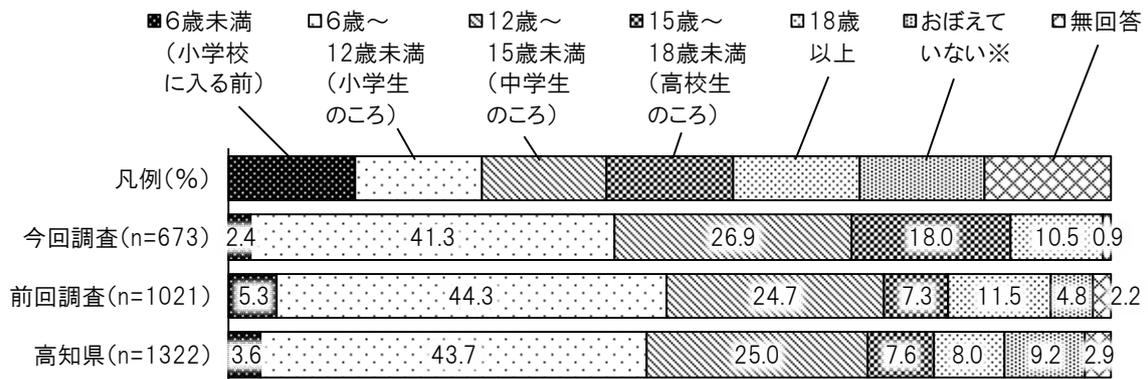
同和問題について知った時期は、「6歳～12歳未満(小学生のころ)」が41.3%と最も高く、次いで「12歳～15歳未満(中学生のころ)」(26.9%)、「15歳～18歳未満(高校生のころ)」(18.0%)の順となっています。

性別では、男性に比べて女性で「6歳～12歳未満(小学生のころ)」の割合が高く、男性で「15歳～18歳未満(高校生のころ)」の割合が高くなっています。

年齢別では、40歳代以下で「6歳～12歳未満(小学生のころ)」が7割前後を占めていますが、50歳以上では年齢が上がるとともに同和問題を知った時期もおおむね遅くなる傾向にあります。



前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「15～18歳未満（高校生のころ）」の割合が高くなっています。



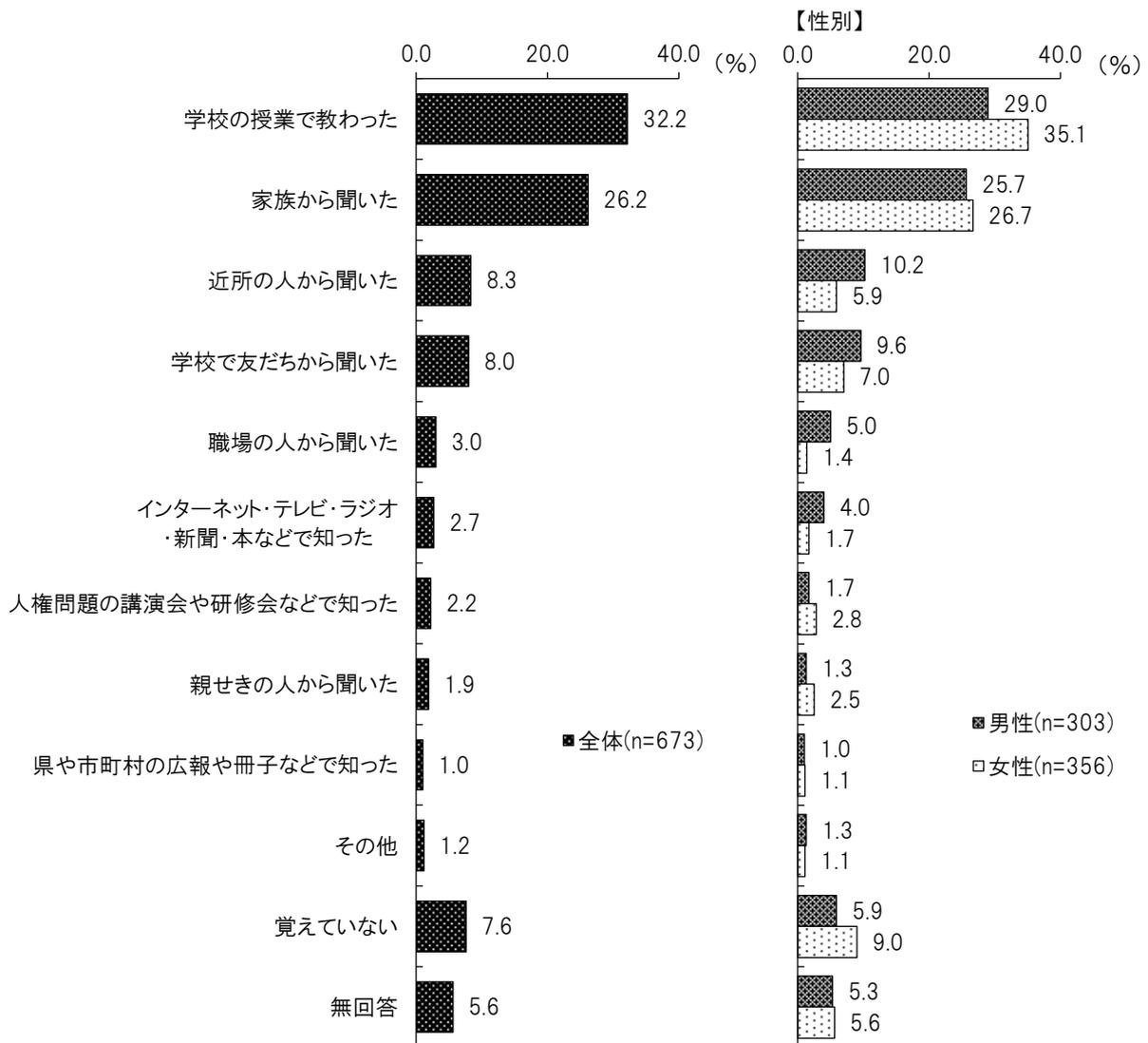
※今回調査には「おぼえていない」の選択肢はありません。

3. 同和問題について知ったきっかけ

問 32(問 30 で1と回答した方に)あなたが、同和問題や同和地区について、初めて知ったきっかけは何ですか。(○印1つ)

同和問題について知ったきっかけは、「学校の授業で教わった」が 32.2%と最も高く、次いで「家族から聞いた」(26.2%)の順となっています。

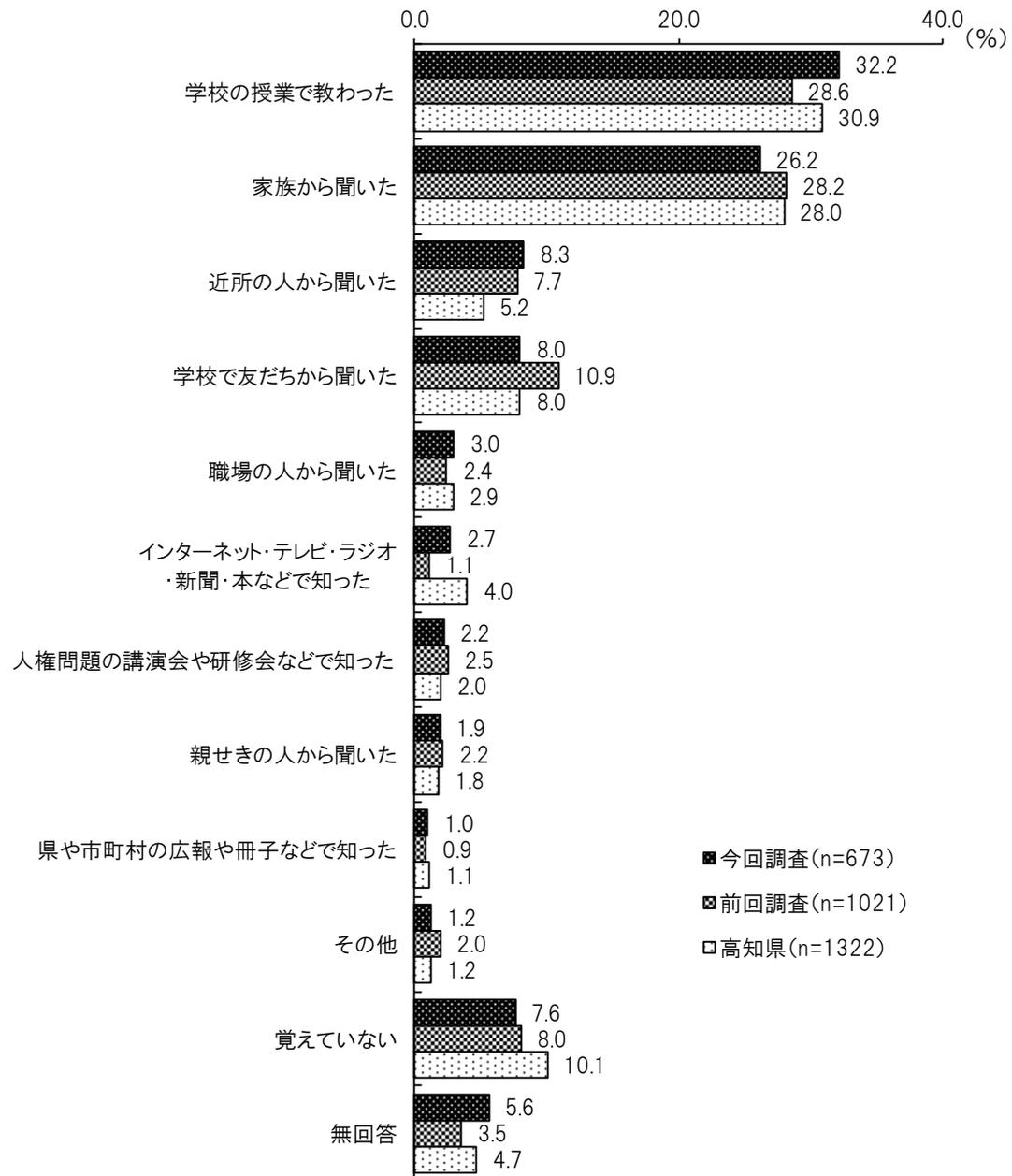
性別では、男性に比べて女性で「学校の授業で教わった」の割合が高くなっています。



年齢別では、若い年齢層ほど「学校の授業で教わった」の割合が高く、年齢が上がるほど「家族から聞いた」の割合がおおむね高くなる傾向にあります。

単位(%)		学校の授業で教わった	家族から聞いた	近所の人から聞いた	学校で友だちから聞いた	職場の人から聞いた	インターネット・ラジオ・新聞・テレビなどで知った	人権問題の講演会や研修会などで知った	親せきの人から聞いた	県や市町村の広報や冊子などで知った	その他	覚えていない
全体(n=673)		32.2	26.2	8.3	8.0	3.0	2.7	2.2	1.9	1.0	1.2	7.6
年齢別	20歳代(n=19)	68.4	5.3	5.3	5.3	0.0	0.0	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代(n=60)	71.7	11.7	0.0	0.0	3.3	3.3	1.7	0.0	0.0	0.0	3.3
	40歳代(n=88)	64.8	17.0	0.0	3.4	0.0	0.0	1.1	1.1	0.0	0.0	4.5
	50歳代(n=121)	48.8	23.1	4.1	9.1	1.7	2.5	1.7	0.8	0.0	0.8	3.3
	60歳代(n=151)	12.6	33.8	8.6	13.2	6.0	4.0	0.7	1.3	2.0	2.0	11.9
	70歳以上(n=227)	10.1	32.2	15.4	8.4	3.1	3.1	4.0	4.0	1.8	1.8	9.7

前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「家族から聞いた」の割合がやや低くなっています。また、前回調査よりも「学校の授業で教わった」の割合が高く、「学校で友だちから聞いた」の割合がやや低くなっています。

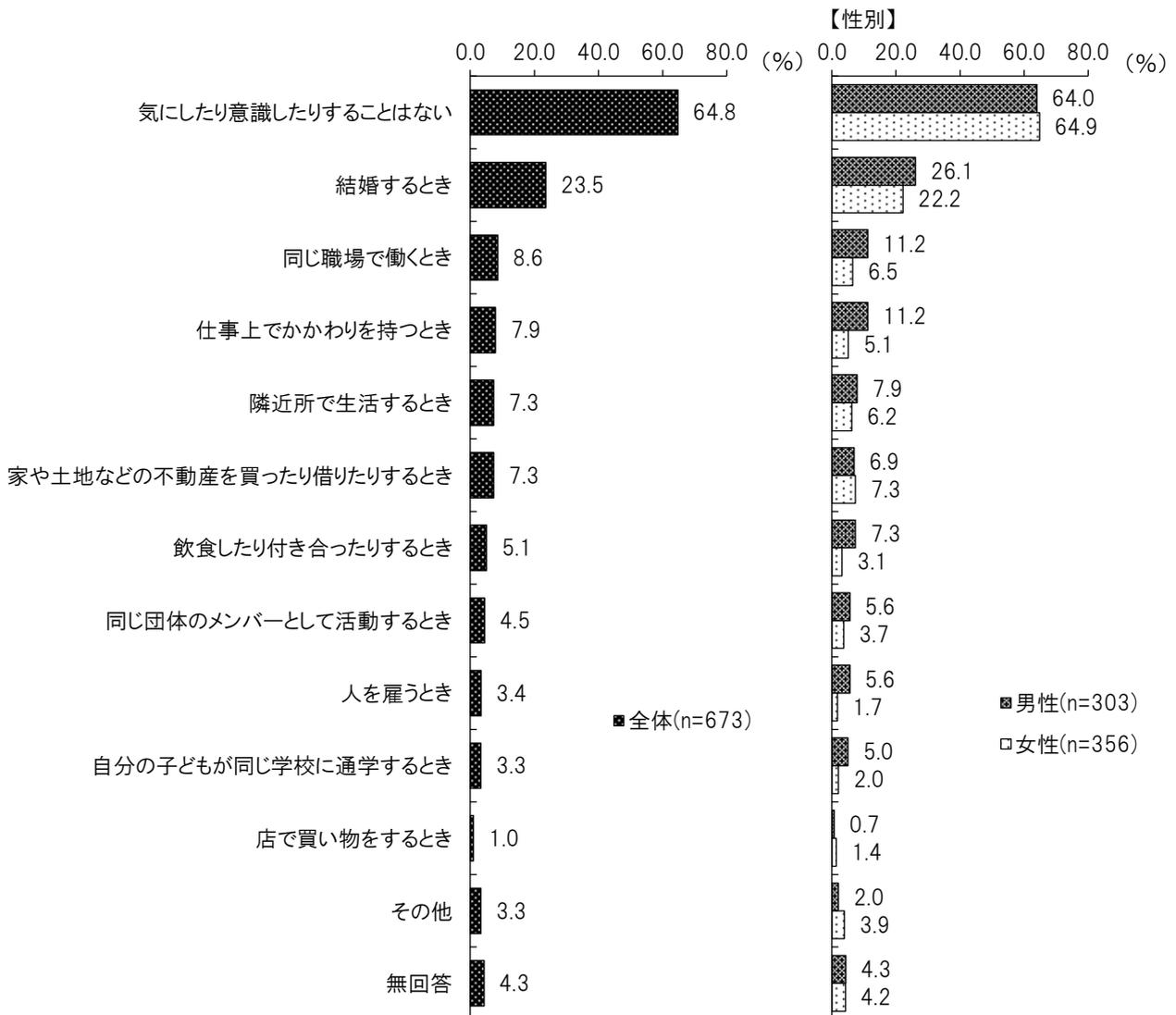


4. 同和問題に対する意識

問 33(問 30 で1と回答した方に)あなたは、同和地区や同和地区の人ということを気にしたり、意識したりすることがありますか。(○印いくつでも)

同和問題に対する意識については、「気にしたり意識したりすることはない」が 64.8%と最も高いものの、「結婚するとき」が 23.5%となっています。

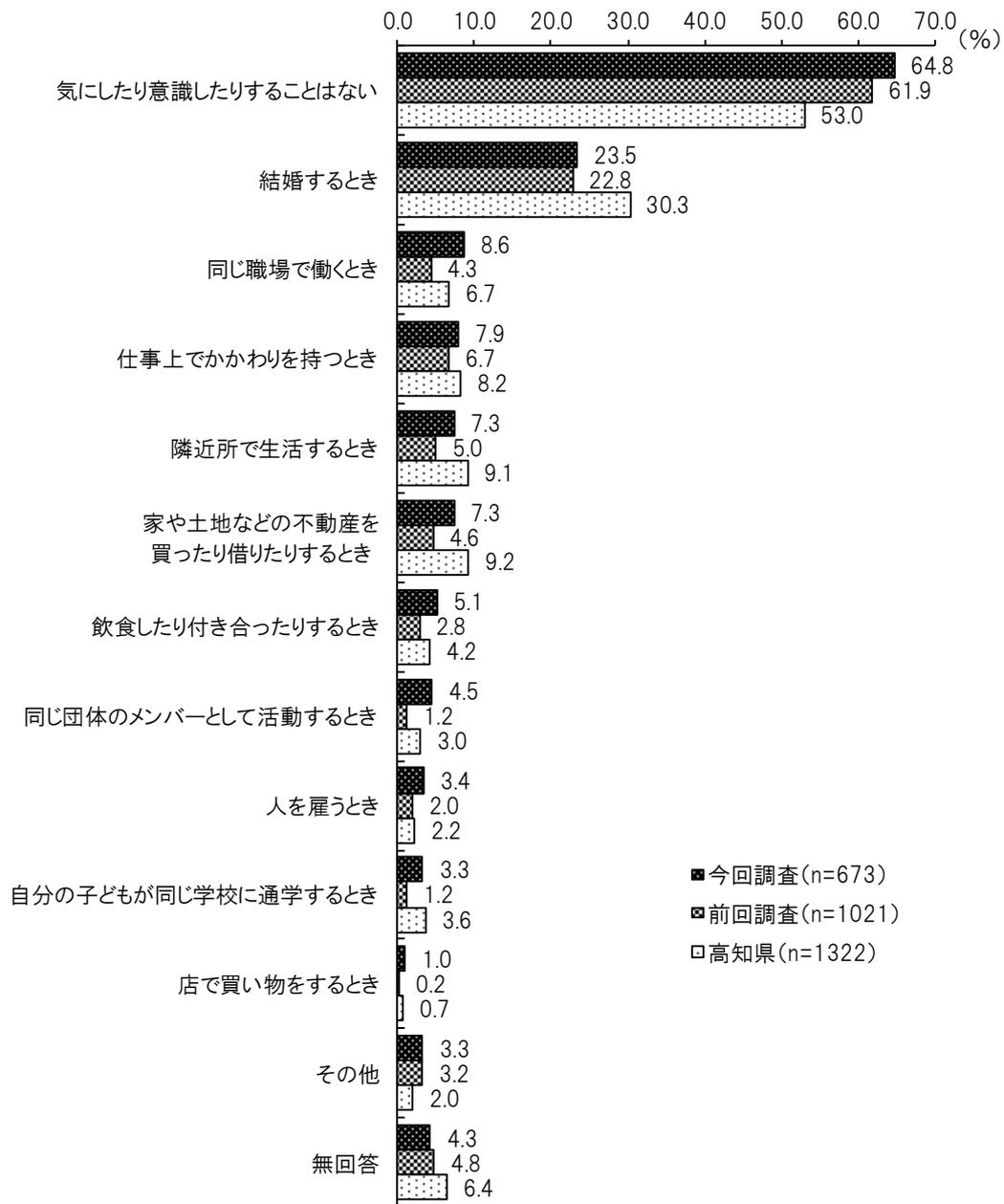
性別では、女性よりも男性で「結婚するとき」「同じ職場で働くとき」「仕事上でかかわりを持つとき」の割合がやや高くなっています。



年齢別では、20歳代で「気にしたり意識したりすることはない」の割合が他の年齢層に比べて高く、年齢が上がるほど「結婚するとき」の割合がおおむね高くなる傾向にあります。

単位(%)		気にしたり意識したりすることはない	結婚するとき	同じ職場で働くとき	仕事上でかわりを持つとき	隣近所で生活するとき	家や土地などの不動産を買ったり借りたりするとき	飲食したり付き合ったりするとき	同じ団体のメンバーとして活動するとき	人を雇うとき	自分の子どもが同じ学校に通学するとき	店で買い物をするとき	その他
全体(n=673)		64.8	23.5	8.6	7.9	7.3	7.3	5.1	4.5	3.4	3.3	1.0	3.3
年齢別	20歳代(n=19)	78.9	5.3	5.3	5.3	10.5	15.8	5.3	5.3	5.3	5.3	0.0	0.0
	30歳代(n=60)	61.7	20.0	3.3	5.0	1.7	16.7	1.7	5.0	3.3	1.7	0.0	5.0
	40歳代(n=88)	68.2	20.5	5.7	4.5	6.8	8.0	2.3	3.4	2.3	3.4	0.0	3.4
	50歳代(n=121)	64.5	24.0	7.4	10.7	8.3	5.8	5.8	3.3	4.1	3.3	0.8	3.3
	60歳代(n=151)	58.9	26.5	9.9	8.6	4.6	6.6	5.3	4.6	3.3	2.6	2.0	5.3
	70歳以上(n=227)	66.5	25.1	11.0	8.4	9.7	5.3	6.2	4.8	3.1	3.5	1.3	1.8

前回調査、高知県の調査と比較すると、今回調査では「気にしたり意識したりすることはない」の割合がやや高くなっています。

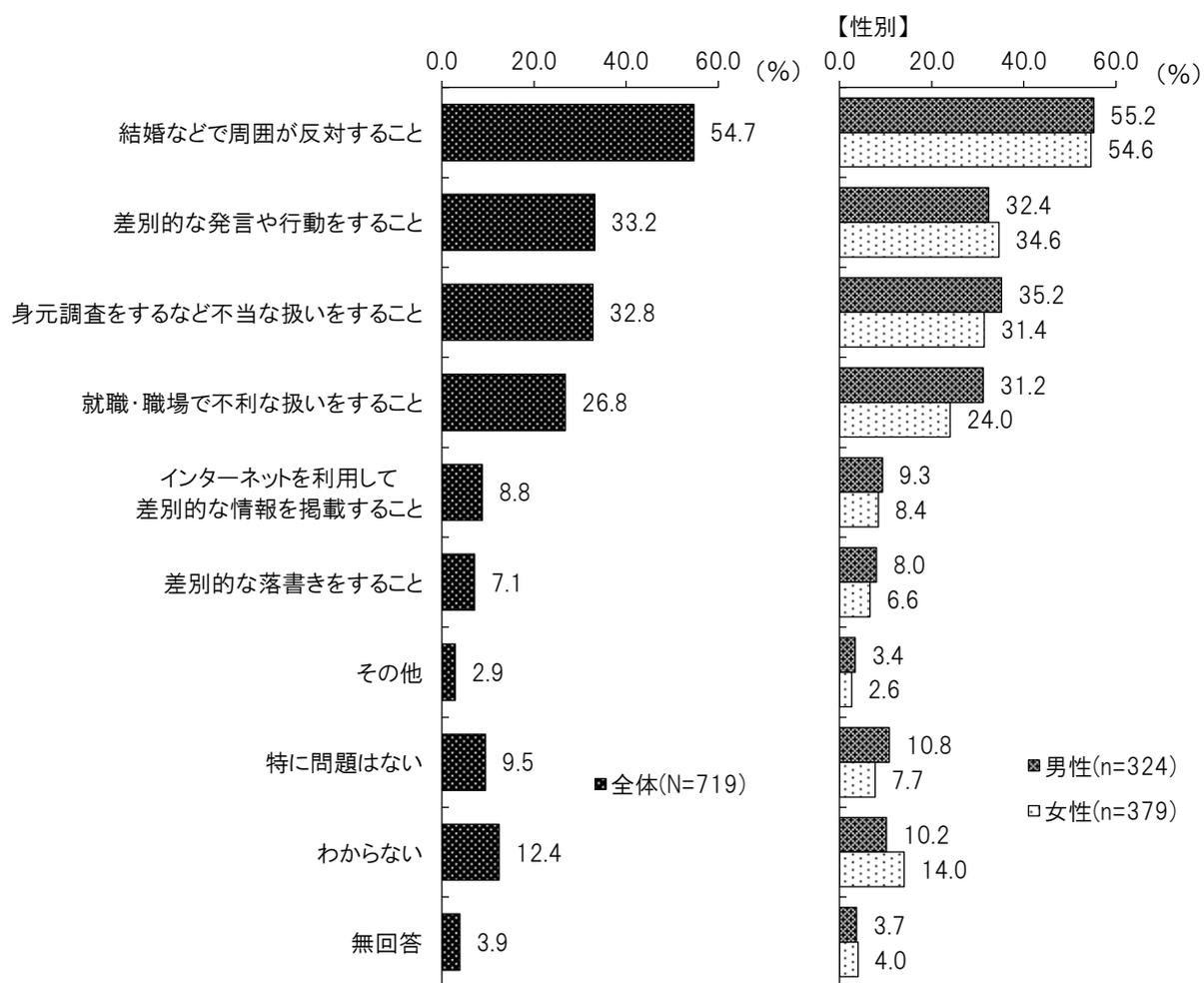


5. 同和問題で人権上問題と感ずること

問 34. あなたが、同和問題で特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(○印3つまで)

同和問題で人権上問題と感ずることについては、「結婚などで周囲が反対すること」が54.7%と最も高く、次いで「差別的な発言や行動をすること」(33.2%)、「身元調査をするなど不当な扱いをすること」(32.8%)、「就職・職場で不利な扱いをすること」(26.8%)の順となっています。

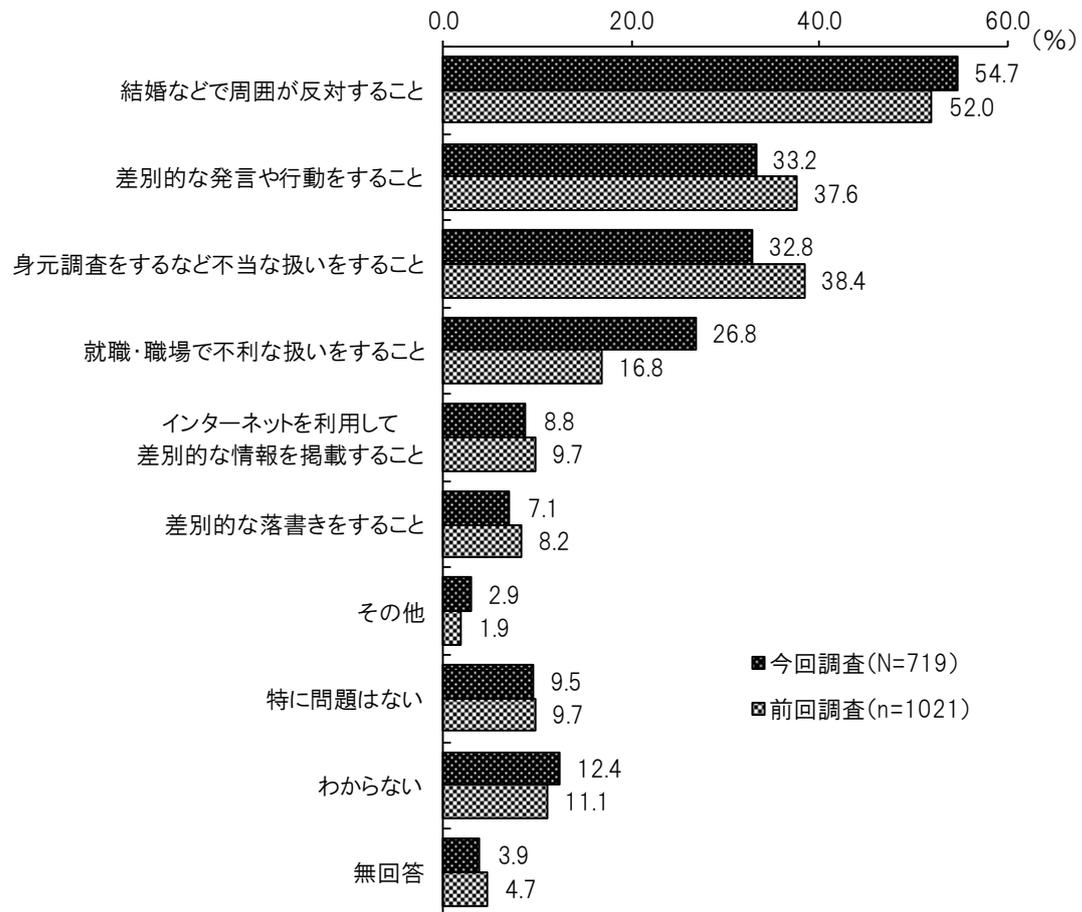
性別では、女性よりも男性で「就職・職場で不利な扱いをすること」の割合が高くなっています。



年齢別では、50歳代で「結婚などで周囲が反対すること」、20歳代で「身元調査をするなど不当な扱いをすること」「就職・職場で不利な扱いをすること」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

単位(%)		結婚などで周囲が反対すること	差別的な発言や行動をする	身元調査をするなど不当な扱いをすること	就職・職場で不利な扱いをすること	インターネット情報を掲載すること	差別的な落書きをすること	その他	特に問題はない	わからない
全体(N=719)		54.7	33.2	32.8	26.8	8.8	7.1	2.9	9.5	12.4
年齢別	20歳代(n=25)	44.0	20.0	48.0	40.0	4.0	4.0	0.0	16.0	16.0
	30歳代(n=67)	50.7	37.3	32.8	32.8	10.4	6.0	11.9	3.0	13.4
	40歳代(n=91)	50.5	37.4	41.8	31.9	11.0	8.8	4.4	6.6	11.0
	50歳代(n=125)	59.2	36.0	33.6	32.0	8.8	8.0	1.6	8.0	12.0
	60歳代(n=156)	55.1	33.3	31.4	23.1	9.6	7.7	1.9	8.3	14.1
	70歳以上(n=245)	56.3	31.0	29.0	22.4	6.9	6.5	1.6	12.7	11.0

前回調査と比較すると、今回調査では「差別的な発言や行動をすること」「身元調査をするなど不当な扱いをすること」の割合が低い一方で、「就職・職場で不利な扱いをすること」の割合が高くなっています。



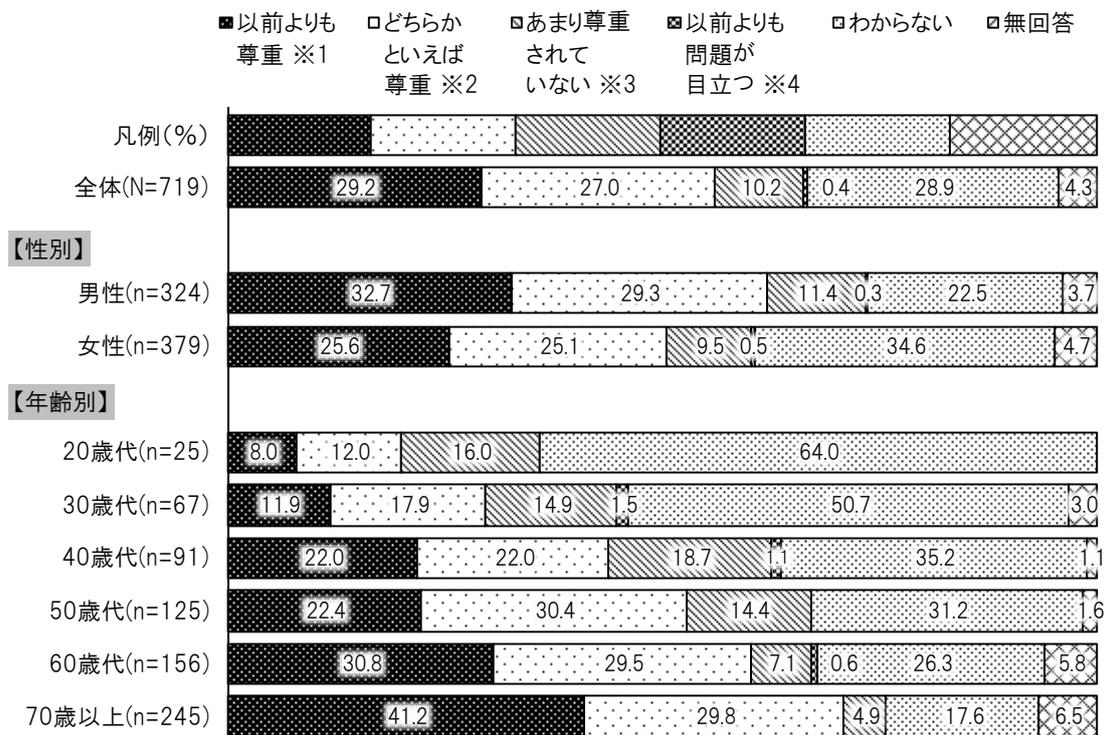
6. 同和地区の人の人権の尊重についての変化

問 35. 4～5年前に比べて、同和地区の人の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

同和地区の人の人権の尊重に関する変化については、「以前に比べて同和地区の人の人権は尊重されてきていると感じる」が 29.2%と最も高く、「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」(27.0%)を合わせると、『尊重されてきている』割合は 56.2%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(10.2%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(0.4%)を合わせると、『尊重されていない』割合は 10.6%となっています。

性別では、女性よりも男性で『尊重されてきている』割合が高く、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「以前に比べて同和地区の人の人権は尊重されてきていると感じる」の割合もおおむね高くなる傾向にあり、70歳以上で『尊重されてきている』の割合が7割以上となっています。一方、40歳代で「あまり尊重されているとは言えない」の割合が他の年齢層に比べてやや高く、若い年齢層ほど「わからない」の割合が増加する傾向にあります。



※1：以前に比べて同和地区の人の人権は尊重されてきていると感じる

※2：どちらかといえば尊重されてきていると感じる

※3：あまり尊重されているとは言えない

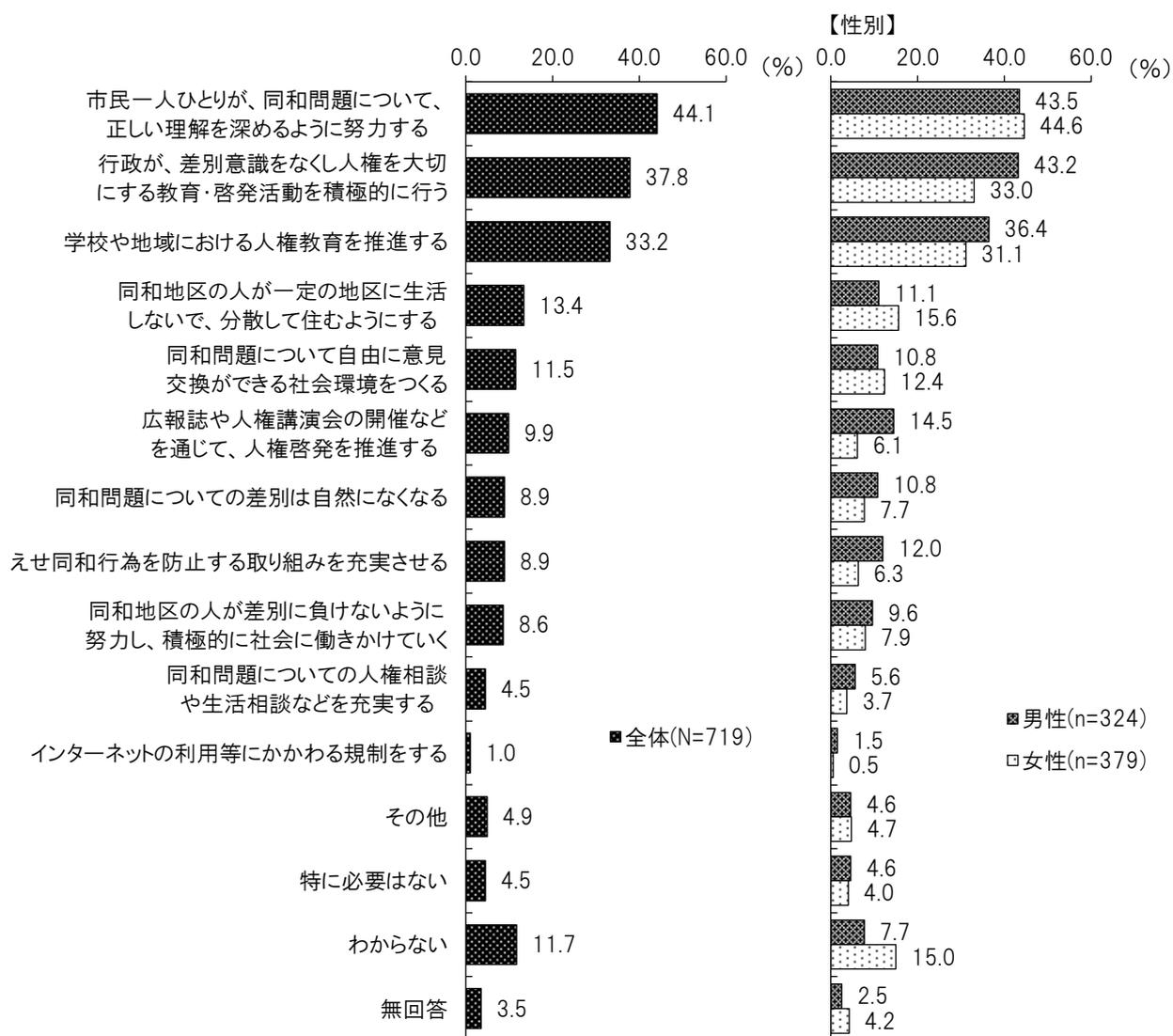
※4：以前に比べて問題が目立ってきている

7. 同和問題を解決するため必要と思うこと

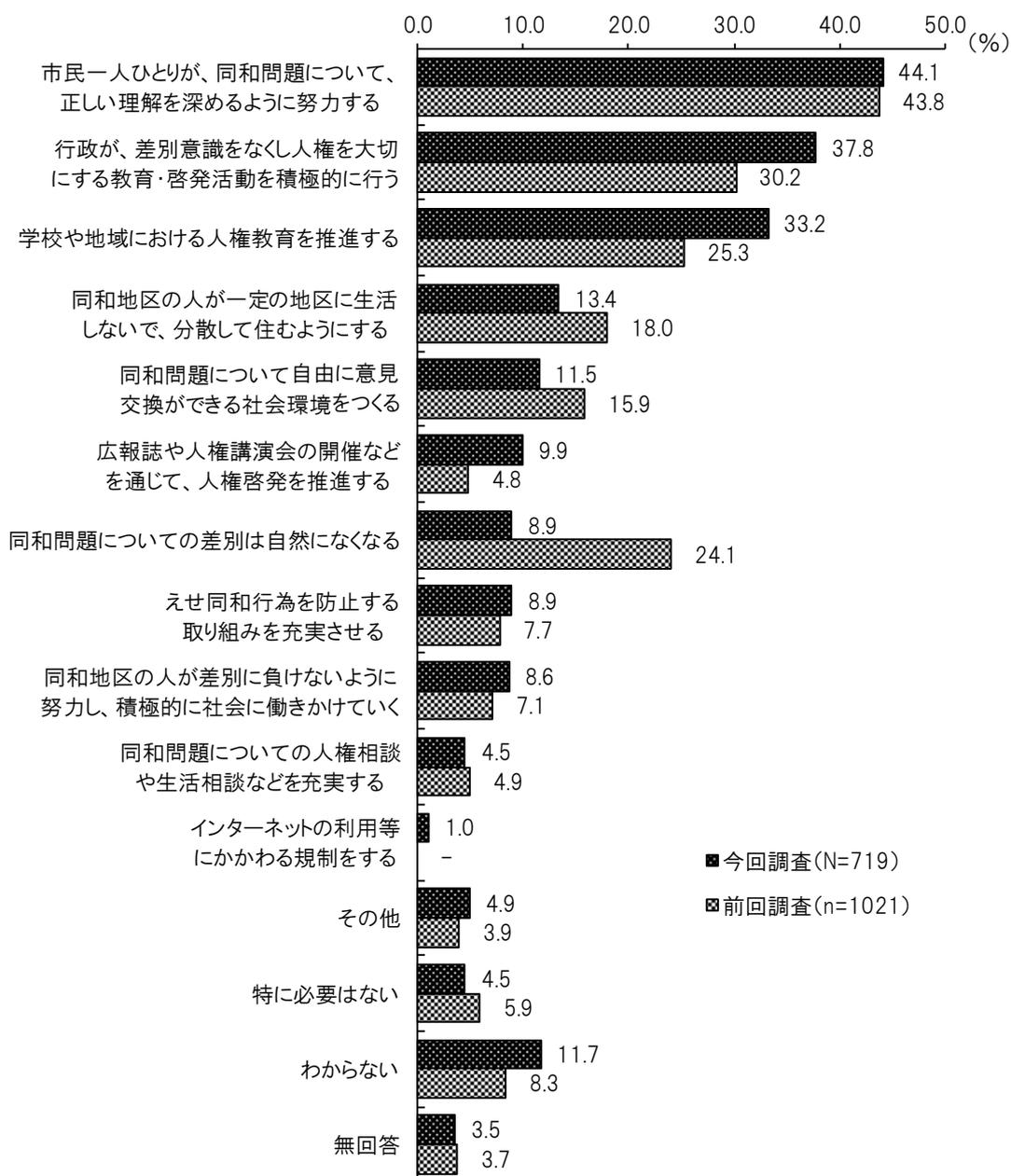
問 36. 同和問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

同和問題を解決するために必要と思うことについては、「市民一人ひとりが、同和問題について、正しい理解を深めるように努力する」が44.1%と最も高く、次いで「行政が、差別意識をなくし人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」(37.8%)、「学校や地域における人権教育を推進する」(33.2%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「行政が、差別意識をなくし人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」「学校や地域における人権教育を推進する」「広報誌や人権講演会の開催などを通じて、人権啓発を推進する」「えせ同和行為を防止する取り組みを充実させる」、男性よりも女性で「同和地区の人が一定の地区に生活しないで、分散して住むようにする」の割合がそれぞれ高くなっています。



前回調査と比較すると、今回調査では「行政が、差別意識をなくし人権を大切にする教育・啓発活動を積極的に行う」「学校や地域における人権教育を推進する」の割合が高くなっており、前回調査よりも「同和問題についての差別は自然になくなる」の割合が低くなっています。



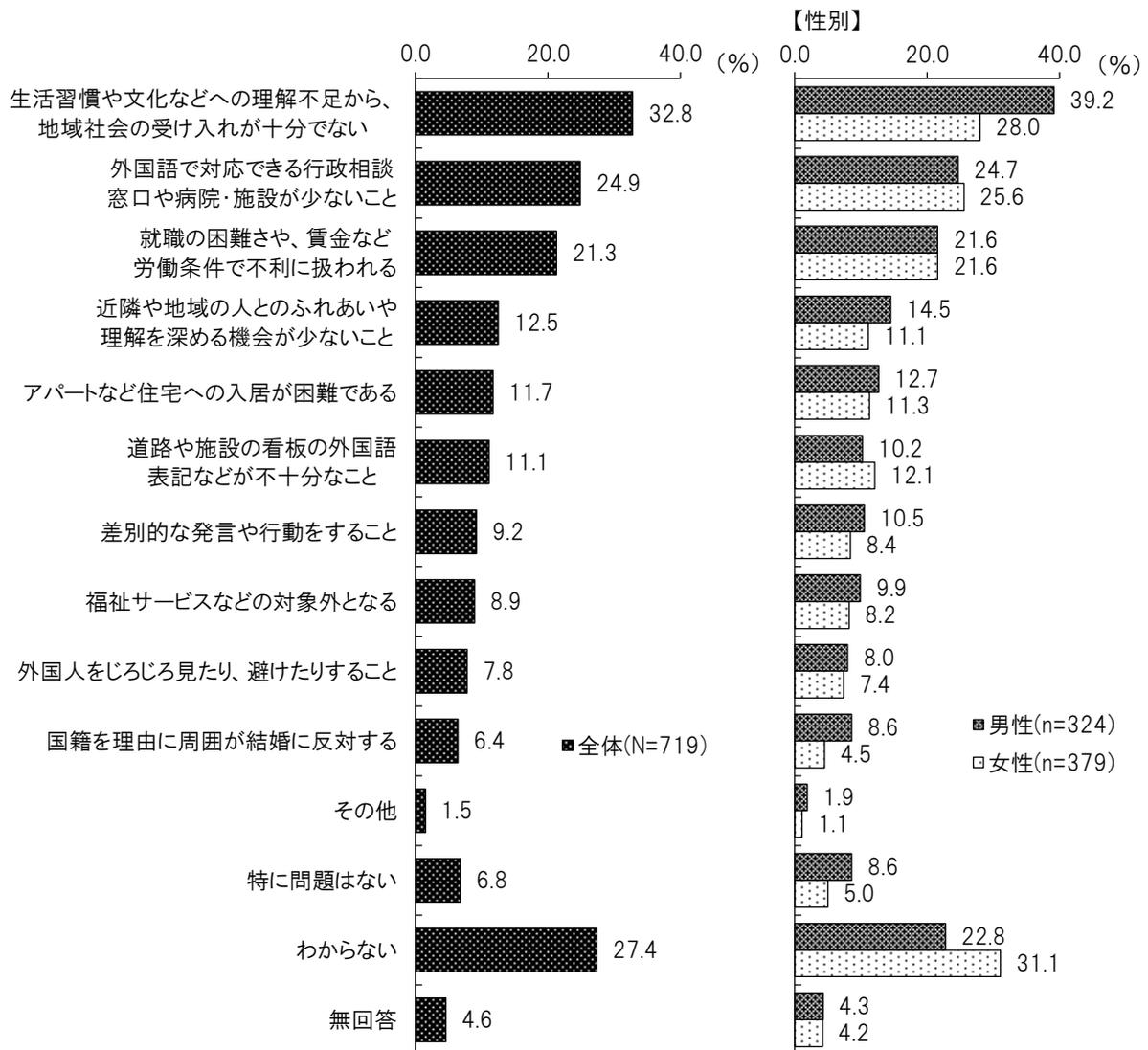
【8】外国人の人権について

1. 外国人の地域生活で問題と感ずること

問 37. 外国人が地域で生活するうえで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

外国人の地域生活で問題と感ずることについては、「生活習慣や文化などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でない」が32.8%と最も高く、次いで「外国語で対応できる行政相談窓口や病院・施設が少ないこと」(24.9%)、「就職の困難さや、賃金など労働条件で不利に扱われる」(21.3%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「生活習慣や文化などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でない」の割合が高くなっています。

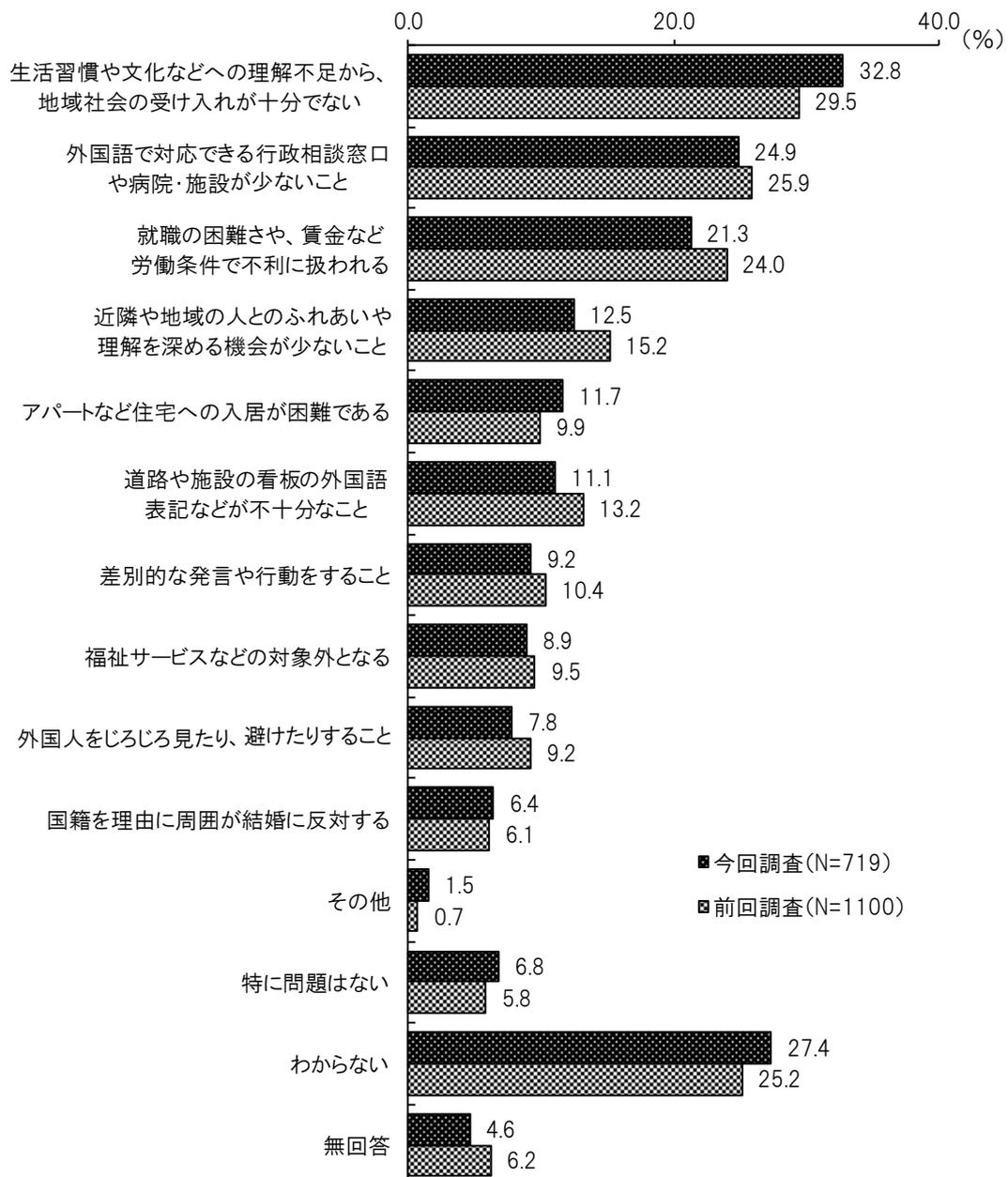


年齢別では、若い年齢層ほど「外国語で対応できる行政相談窓口や病院・施設が少ないこと」「差別的な発言や行動をすること」の割合がおおむね高くなる傾向にあり、20歳代では「福祉サービスなどの対象外となる」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

単位(%)		生活習慣や文化などへの受け入れが十分でない	外国語で対応できない	外国語で対応できない	労働条件で不利に扱われる	就業の困難さや賃金など	近隣地域の人の機会が少なく	物理的な理由を深めると	アパートなど住宅への入居が困難である	道路や施設の看板の外国語表記などが不十分なこと	差別的な発言や行動をすること	福祉サービスなどの対象外となる	外国人をじろじろ見たり、避けたりすること	国籍を理由に周囲が結婚に反対する
全体(N=719)		32.8	24.9	21.3	12.5	11.7	11.1	9.2	8.9	7.8	6.4			
性別	男性(n=324)	39.2	24.7	21.6	14.5	12.7	10.2	10.5	9.9	8.0	8.6			
	女性(n=379)	28.0	25.6	21.6	11.1	11.3	12.1	8.4	8.2	7.4	4.5			
年齢別	20歳代(n=25)	28.0	36.0	28.0	12.0	8.0	8.0	20.0	36.0	16.0	16.0			
	30歳代(n=67)	28.4	31.3	26.9	11.9	10.4	6.0	14.9	3.0	6.0	10.4			
	40歳代(n=91)	29.7	29.7	30.8	11.0	16.5	17.6	11.0	13.2	1.1	6.6			
	50歳代(n=125)	36.0	25.6	24.0	12.0	16.8	16.0	10.4	7.2	7.2	4.8			
	60歳代(n=156)	31.4	26.3	17.3	16.7	8.3	8.3	5.1	9.0	5.8	3.8			
	70歳以上(n=245)	35.5	19.6	16.7	11.4	10.2	10.2	8.2	6.9	11.8	6.5			

単位(%)		その他	特に問題はない	わからない
全体(N=719)		1.5	6.8	27.4
性別	男性(n=324)	1.9	8.6	22.8
	女性(n=379)	1.1	5.0	31.1
年齢別	20歳代(n=25)	0.0	8.0	0.0
	30歳代(n=67)	3.0	7.5	26.9
	40歳代(n=91)	1.1	8.8	19.8
	50歳代(n=125)	0.8	6.4	25.6
	60歳代(n=156)	1.9	5.1	34.6
	70歳以上(n=245)	1.6	6.1	29.8

前回調査と比較すると、今回調査では「生活習慣や文化などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でない」の割合がやや高く、「就職の困難さや、賃金など労働条件で不利に扱われる」「近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少ないこと」の割合がやや低くなっています。



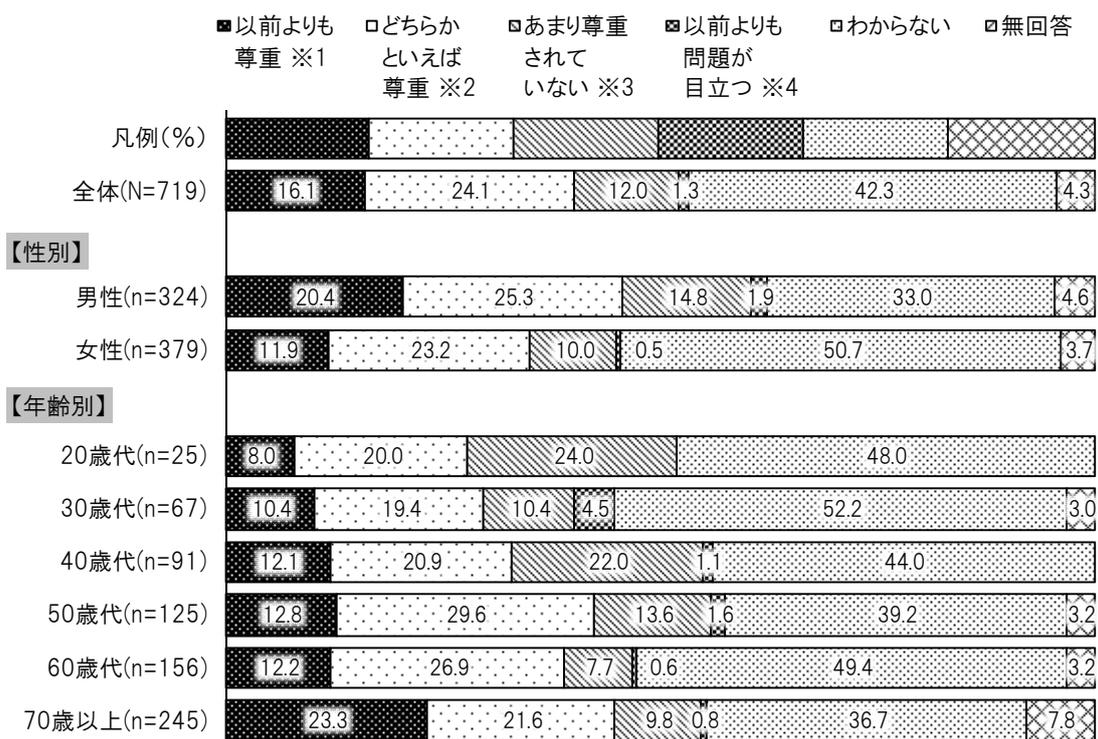
2. 外国人の人権の尊重についての変化

問 38. 4～5年前に比べて、外国人の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

外国人の人権の尊重についての変化については、「わからない」が 42.3%で最も高いものの、次いで「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」が 24.1%となっており、「以前に比べて外国人の人権は尊重されてきていると感じる」(16.1%)を合わせると、『尊重されてきている』割合は 40.2%となっています。一方、「あまり尊重されているとは言えない」(12.0%)、「以前に比べて問題が目立ってきている」(1.3%)を合わせると、『尊重されていない』割合は 13.3%となっています。

性別では、女性よりも男性で「以前に比べて外国人の人権は尊重されてきていると感じる」割合が高く、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

年齢別では、20歳代、40歳代で「あまり尊重されているとは言えない」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。一方、70歳以上で「以前に比べて外国人の人権は尊重されてきていると感じる」、50歳代で「どちらかといえば尊重されてきていると感じる」の割合がやや高く、30歳代では「わからない」が過半数を占めています。



※1: 以前に比べて外国人の人権は尊重されてきていると感じる

※2: どちらかといえば尊重されてきていると感じる

※3: あまり尊重されているとは言えない

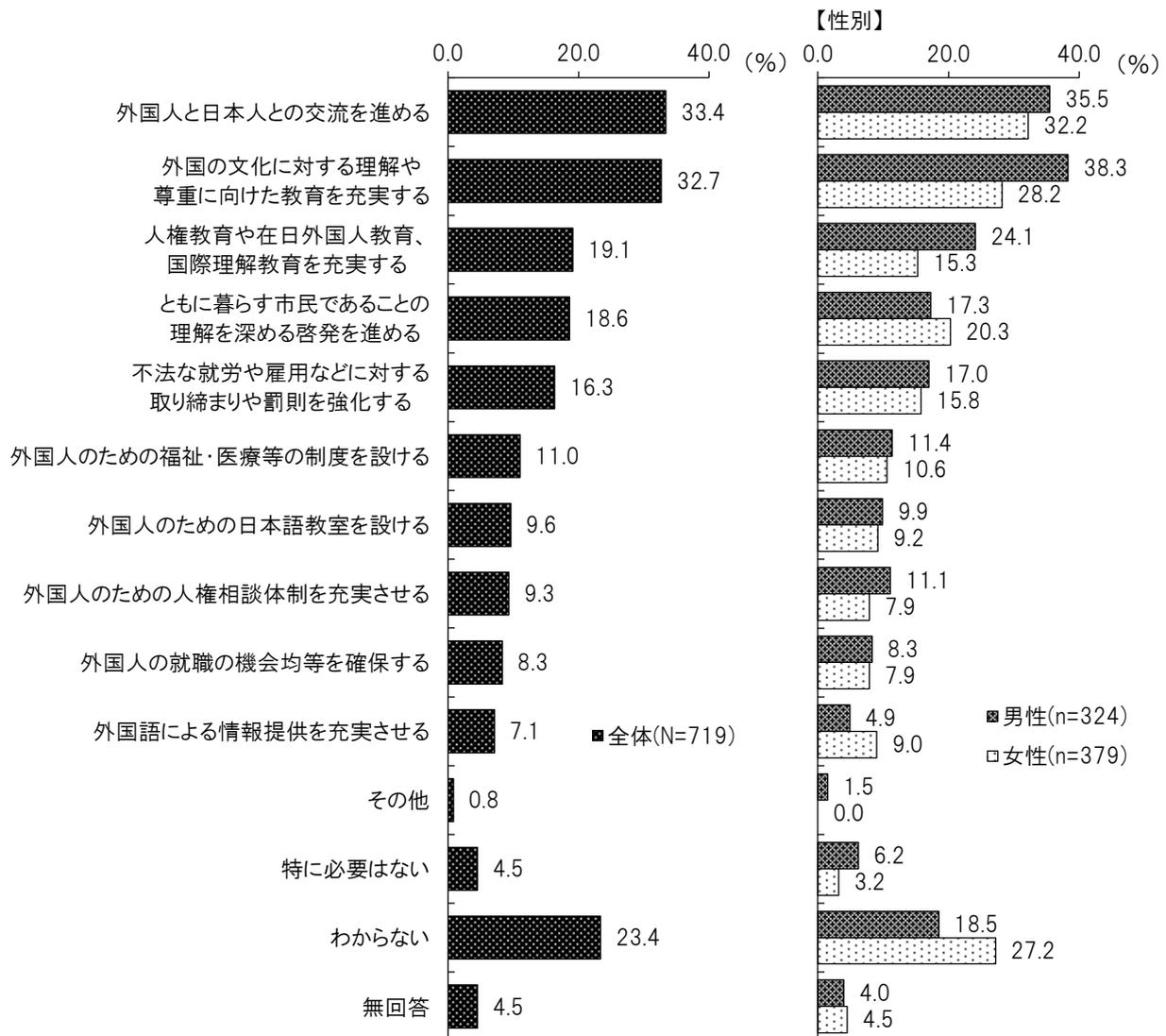
※4: 以前に比べて問題が目立ってきている

3. 外国人の人権を守るため必要と思うこと

問 39. 外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

外国人の人権を守るために必要と思うことについては、「外国人と日本人との交流を進める」が33.4%と最も高く、ほぼ並んで「外国の文化に対する理解や尊重に向けた教育を充実する」(32.7%)が続き、次いで「人権教育や在日外国人教育、国際理解教育を充実する」(19.1%)、「ともに暮らす市民であることの理解を深める啓発を進める」(18.6%)、「不法な就労や雇用などに対する取り締まりや罰則を強化する」(16.3%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「外国の文化に対する理解や尊重に向けた教育を充実する」「人権教育や在日外国人教育、国際理解教育を充実する」の割合が高く、女性で「わからない」の割合が高くなっています。

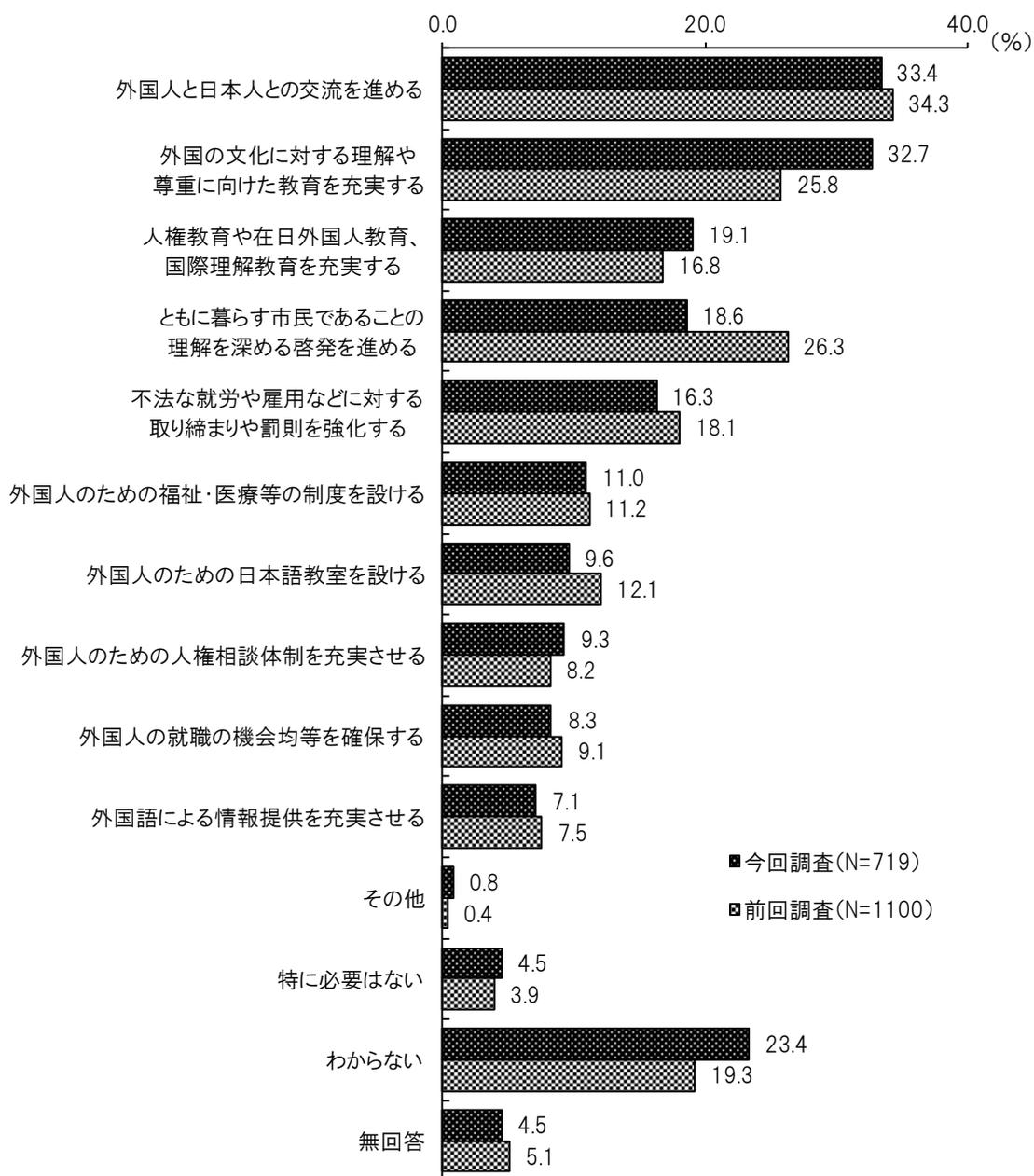


年齢別では、20歳代で「外国人と日本人との交流を進める」、40歳代、70歳以上で「外国の文化に対する理解や尊重に向けた教育を充実する」、20歳代、50歳代で「人権教育や在日外国人教育、国際理解教育を充実する」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

単位(%)		外国人と日本人との交流を進める	外国の文化に向けた教育を充実する	人権教育や在日外国人教育を充実する	ともに暮らす市民であることへの理解を深める啓発を進める	不法就労や雇用などに強化する	外国人のための福祉・医療等の制度を設ける	外国人のための日本語教室を設ける	外国人のための人権相談体制を充実させる	外国人の就職の機会均等を確保する	外国語による情報提供を充実させる
全体(N=719)		33.4	32.7	19.1	18.6	16.3	11.0	9.6	9.3	8.3	7.1
年齢別	20歳代(n=25)	56.0	24.0	28.0	12.0	24.0	16.0	8.0	4.0	16.0	16.0
	30歳代(n=67)	31.3	29.9	16.4	13.4	11.9	10.4	4.5	7.5	7.5	11.9
	40歳代(n=91)	33.0	35.2	20.9	23.1	18.7	12.1	9.9	5.5	12.1	9.9
	50歳代(n=125)	28.8	33.6	27.2	14.4	18.4	12.0	7.2	4.8	7.2	5.6
	60歳代(n=156)	34.6	29.5	14.7	19.2	17.3	10.9	9.6	7.7	7.1	5.8
	70歳以上(n=245)	34.3	35.1	17.1	21.6	14.7	9.4	11.8	14.7	7.3	5.3

単位(%)		その他	特に必要はない	わからない
全体(N=719)		0.8	4.5	23.4
年齢別	20歳代(n=25)	0.0	4.0	12.0
	30歳代(n=67)	3.0	7.5	23.9
	40歳代(n=91)	0.0	6.6	24.2
	50歳代(n=125)	0.0	5.6	22.4
	60歳代(n=156)	1.3	3.8	25.6
	70歳以上(n=245)	0.8	2.4	22.9

前回調査と比較すると、今回調査では「外国の文化に対する理解や尊重に向けた教育を充実する」の割合が高くなった一方で、「ともに暮らす市民であることの理解を深める啓発を進める」の割合が低くなっています。



【9】インターネットに関する人権問題について

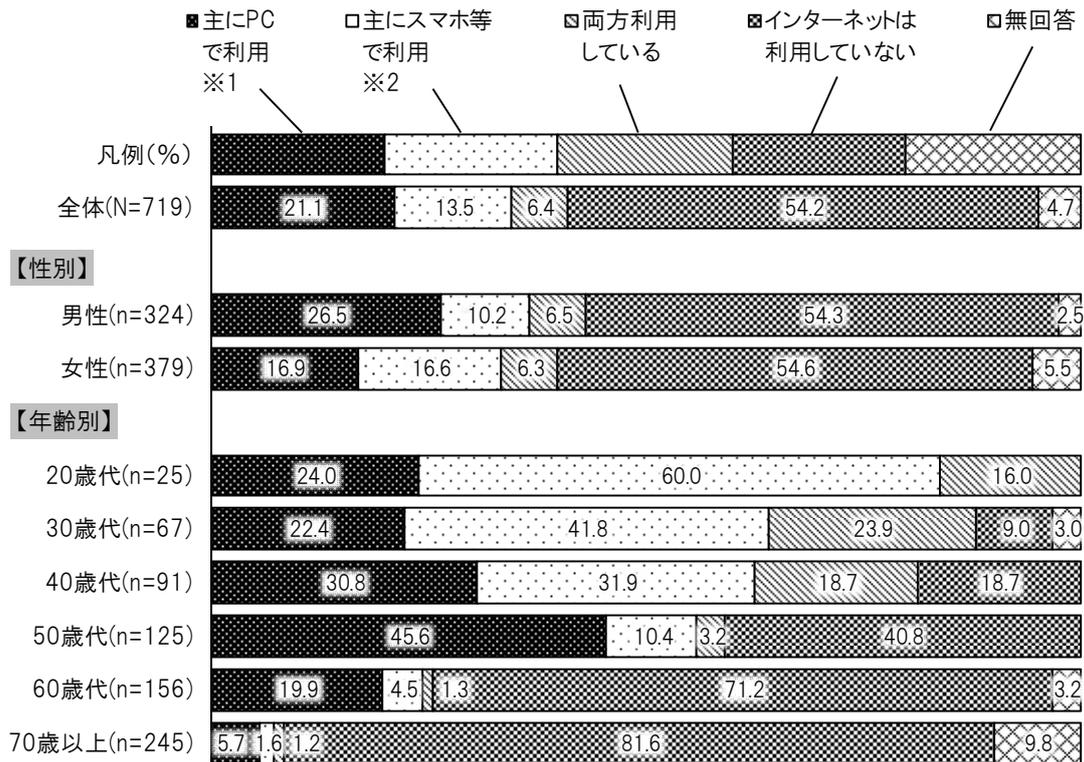
1. インターネットの利用状況

問 40. あなたはふだん、インターネットを利用していますか。(○印1つ)

インターネットの利用状況については、「インターネットは利用していない」が過半数(54.2%)を占めるものの、利用者は「主にパソコンで利用している」が21.1%、「主にスマートフォンやタブレット端末・携帯電話で利用している」が13.5%となっています。

性別では、女性よりも男性で「主にパソコンで利用している」、男性よりも女性で「主にスマートフォンやタブレット端末・携帯電話で利用している」の割合がそれぞれ高くなっています。

年齢別では、年齢が上がるほど「インターネットは利用していない」の割合も高くなる傾向にあります。一方、50歳代で「主にパソコンで利用している」の割合が他の年齢層に比べて高く、若い年齢層ほど「主にスマートフォンやタブレット端末・携帯電話で利用している」の割合が高くなる傾向にあります。



※1:主にパソコンで利用している

※2:主にスマートフォンやタブレット端末・携帯電話で利用している

2. インターネットによる人権への弊害について

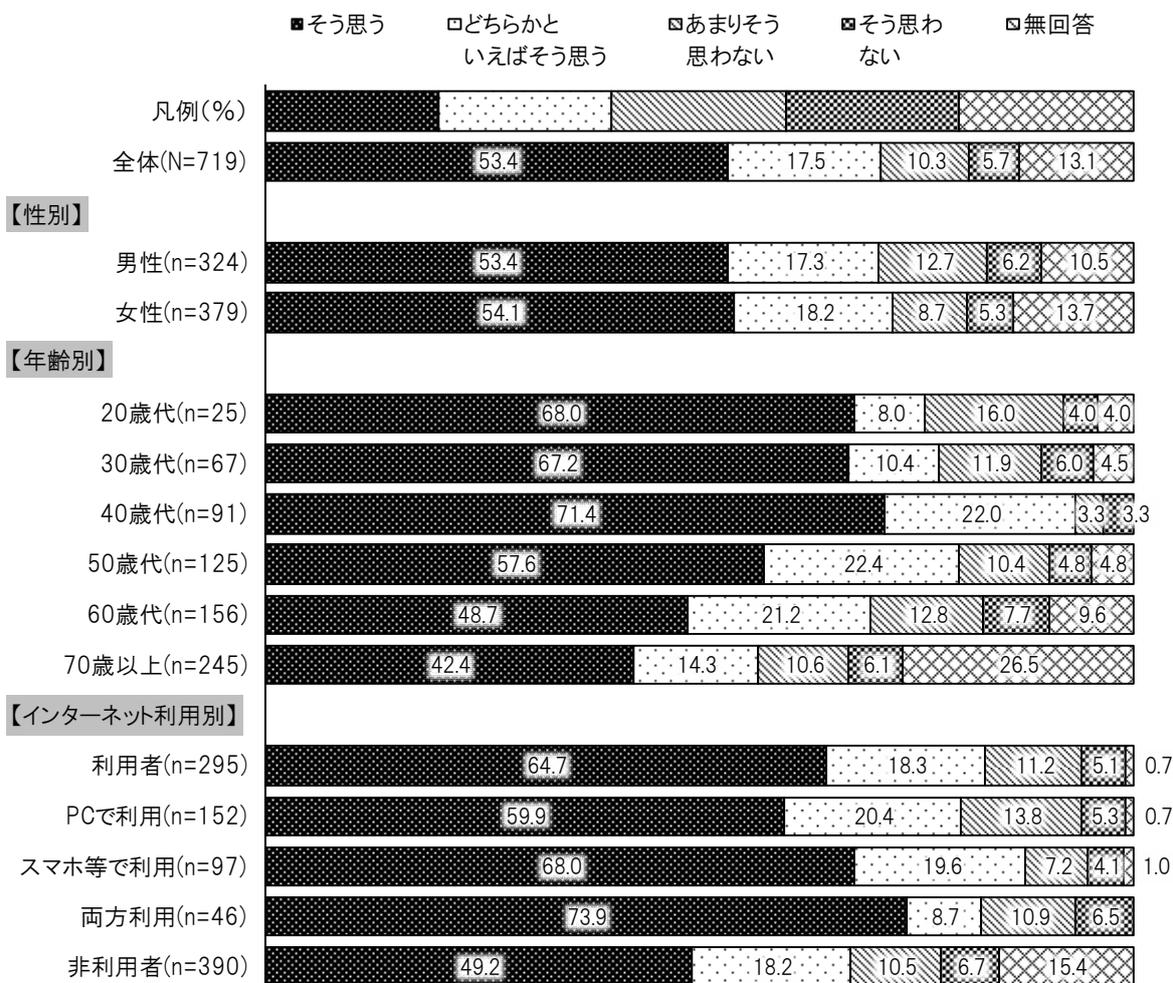
問 41. 4～5年前に比べて、インターネットやSNS注などの普及に伴う人権への悪影響や、人権に配慮が必要となるケースが増えていると思いますか。(○印1つ)

インターネットによる人権への弊害については、「そう思う」が53.4%で最も高く、「どちらかといえばそう思う」(17.5%)を合わせると、『弊害があると思う』割合は70.9%となっています。一方、「あまりそう思わない」(10.3%)、「そう思わない」(5.7%)を合わせると、『弊害があるとは思わない』割合は16.0%となっています。

性別では、女性よりも男性で『弊害があるとは思わない』割合がやや高くなっています。

年齢別では、40歳代で『弊害があると思う』割合が9割以上を占めており、20歳代、60歳代で『弊害があるとは思わない』割合が他の年齢層に比べてやや高くなっています。

インターネット利用別では、非利用者に比べて利用者で『弊害があると思う』割合が高く、スマホ等で利用している人で9割近くを占めています。

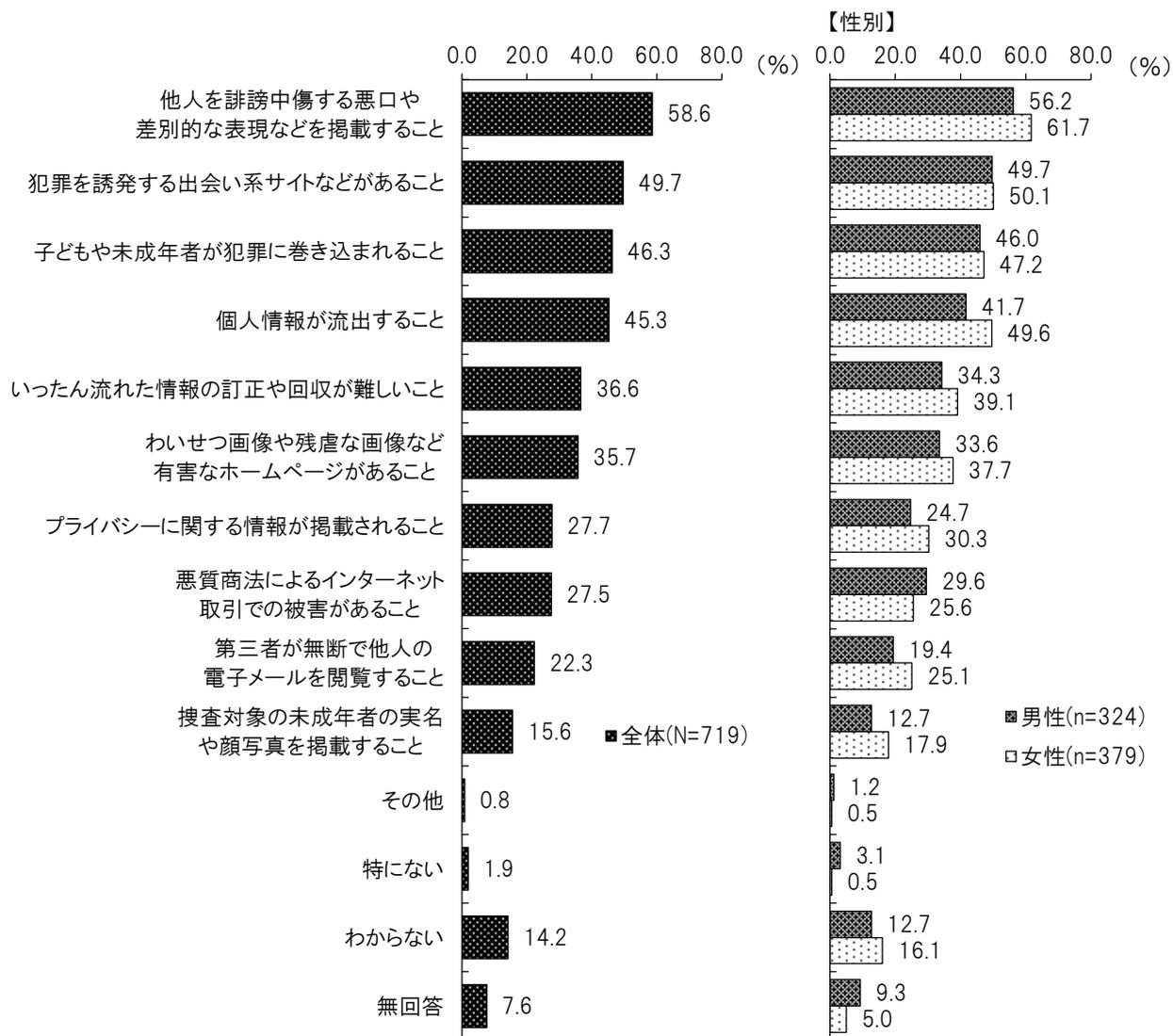


3. インターネットに関することで人権上問題と感ずること

問 42. インターネットに関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇印いくつでも)

インターネットに関することで人権上問題と感ずることについては、「他人を誹謗中傷する悪口や差別的な表現などを掲載すること」が58.6%と最も高く、次いで「犯罪を誘発する出会い系サイトなどがあること」(49.7%)、「子どもや未成年者が犯罪に巻き込まれること」(46.3%)、「個人情報が流出すること」(45.3%)の順となっています。

性別では、男性よりも女性で「他人を誹謗中傷する悪口や差別的な表現などを掲載すること」「個人情報が流出すること」「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」「わいせつ画像や残虐な画像など有害なホームページがあること」「プライバシーに関する情報が掲載されること」「第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること」の割合が高く、女性よりも男性で「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」の割合がやや高くなっています。



年齢別では、50歳代以下で「他人を誹謗中傷する悪口や差別的な表現などを掲載すること」「個人情報流出すること」「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の割合が高くなっています。一方で、20歳代で「子どもや未成年者が犯罪に巻き込まれること」「わいせつ画像や残虐な画像など有害なホームページがあること」の割合が他の年齢層に比べて低くなっています。

インターネット利用別では、ほとんどの項目で非利用者よりも利用者の割合が高く、PCで利用では「犯罪を誘発する出会い系サイトなどがあること」「悪質商法によるインターネット取引での被害があること」、両方利用では「他人を誹謗中傷する悪口や差別的な表現などを掲載すること」「いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと」の割合が他の利用方法よりもそれぞれ高くなっています。

単位(%)		を口他 掲や人 載差を す別誹 る的謗 こな中 と表傷 現す など悪	と系犯 サ罪 イを ト誘 な発 がる ある 会こ	罪子 に巻 もや 込未 込成 まれ る者 がこ と犯	と個人 情報 が流 出さ るこ	と訂い 正つ やた 回ん 収流 がれ 難た し情 い報 この	画わ 像い なせ つ画 像や 有害 な残 虐な	情ブ 報ラ イバ イ載 さし る関 する	害タ が質 ある ネ商 ツ法 こと 取る 引で の被	こ電第 と子者 メが ー無 ル断 を閱 覧他 する 人の	る実 こ名 とや 対象 の未 成 年 者 の
全体(N=719)		58.6	49.7	46.3	45.3	36.6	35.7	27.7	27.5	22.3	15.6
年齢別	20歳代(n=25)	64.0	44.0	32.0	60.0	48.0	20.0	40.0	36.0	16.0	12.0
	30歳代(n=67)	73.1	58.2	55.2	53.7	46.3	40.3	38.8	31.3	32.8	17.9
	40歳代(n=91)	78.0	53.8	60.4	57.1	53.8	44.0	31.9	30.8	28.6	16.5
	50歳代(n=125)	71.2	55.2	57.6	60.8	42.4	45.6	36.8	33.6	27.2	23.2
	60歳代(n=156)	55.1	52.6	44.2	44.2	32.7	32.7	25.0	23.7	19.2	12.2
	70歳以上(n=245)	42.9	42.0	35.9	30.6	26.1	30.2	19.6	24.1	17.6	13.1
インターネット利用別	利用者(n=295)	72.5	56.9	54.9	58.3	47.5	41.4	34.2	32.9	26.8	18.0
	PCで利用(n=152)	71.1	61.8	54.6	59.9	50.0	44.7	36.2	37.5	29.6	21.7
	スマホ等で利用(n=97)	71.1	52.6	55.7	56.7	37.1	34.0	32.0	27.8	25.8	13.4
	両方利用(n=46)	80.4	50.0	54.3	56.5	60.9	45.7	32.6	28.3	19.6	15.2
	非利用者(n=390)	50.3	46.4	41.8	38.5	30.5	33.3	23.6	24.9	20.5	14.4

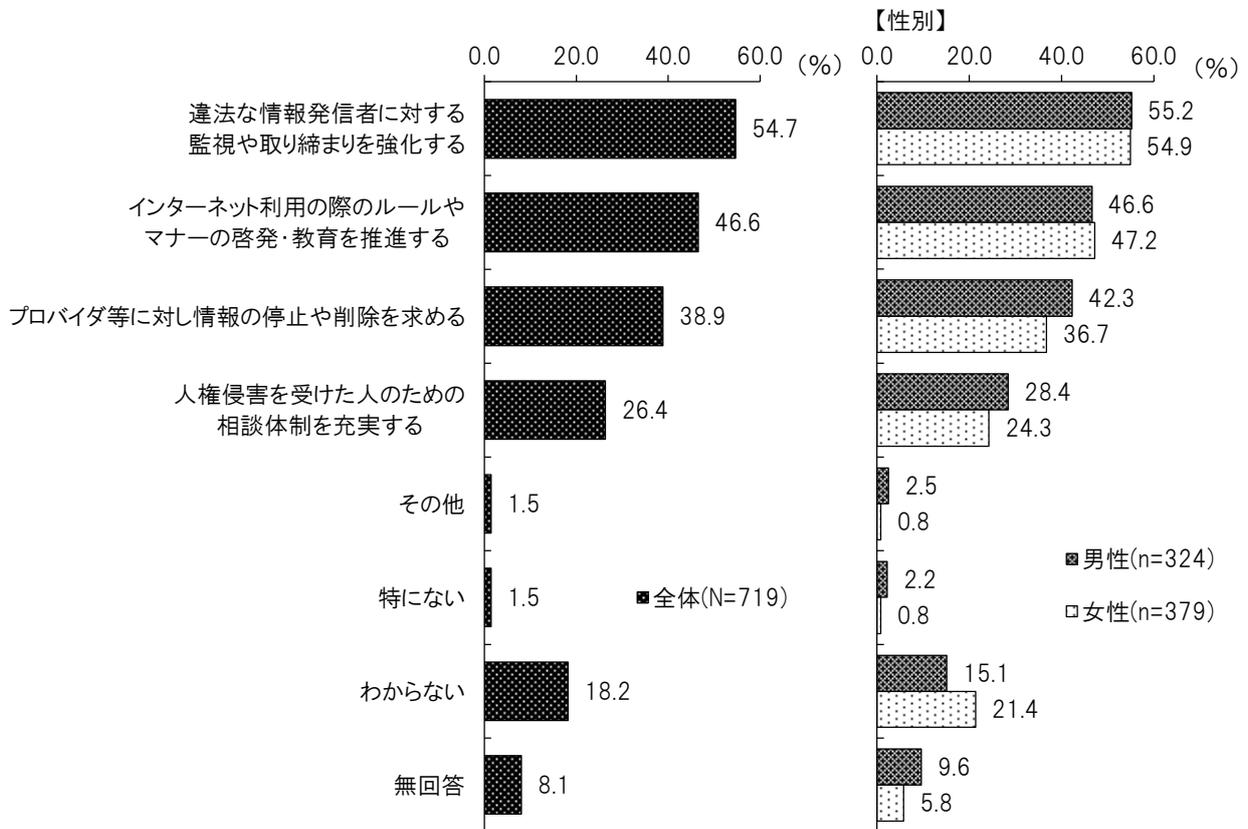
単位(%)		その他	特 に ない	わ か ら ない
全体(N=719)		0.8	1.9	14.2
年齢別	20歳代(n=25)	0.0	0.0	8.0
	30歳代(n=67)	3.0	1.5	9.0
	40歳代(n=91)	0.0	1.1	2.2
	50歳代(n=125)	0.8	2.4	6.4
	60歳代(n=156)	0.0	1.3	16.7
	70歳以上(n=245)	1.2	2.0	23.7
インターネット利用別	利用者(n=295)	0.7	2.4	3.4
	PCで利用(n=152)	0.0	3.9	3.3
	スマホ等で利用(n=97)	1.0	1.0	2.1
	両方利用(n=46)	2.2	0.0	6.5
	非利用者(n=390)	1.0	1.8	22.1

4. インターネットによる人権侵害を防ぐため必要と思うこと

問 43. インターネットによる人権侵害を防ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

インターネットによる人権侵害を防ぐために必要と思うことについては、「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」が54.7%と最も高く、次いで「インターネット利用の際のルールやマナーの啓発・教育を推進する」(46.6%)、「プロバイダ等に対し情報の停止や削除を求める」(38.9%)、「人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」(26.4%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「プロバイダ等に対し情報の停止や削除を求める」「人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」の割合が高くなっています。

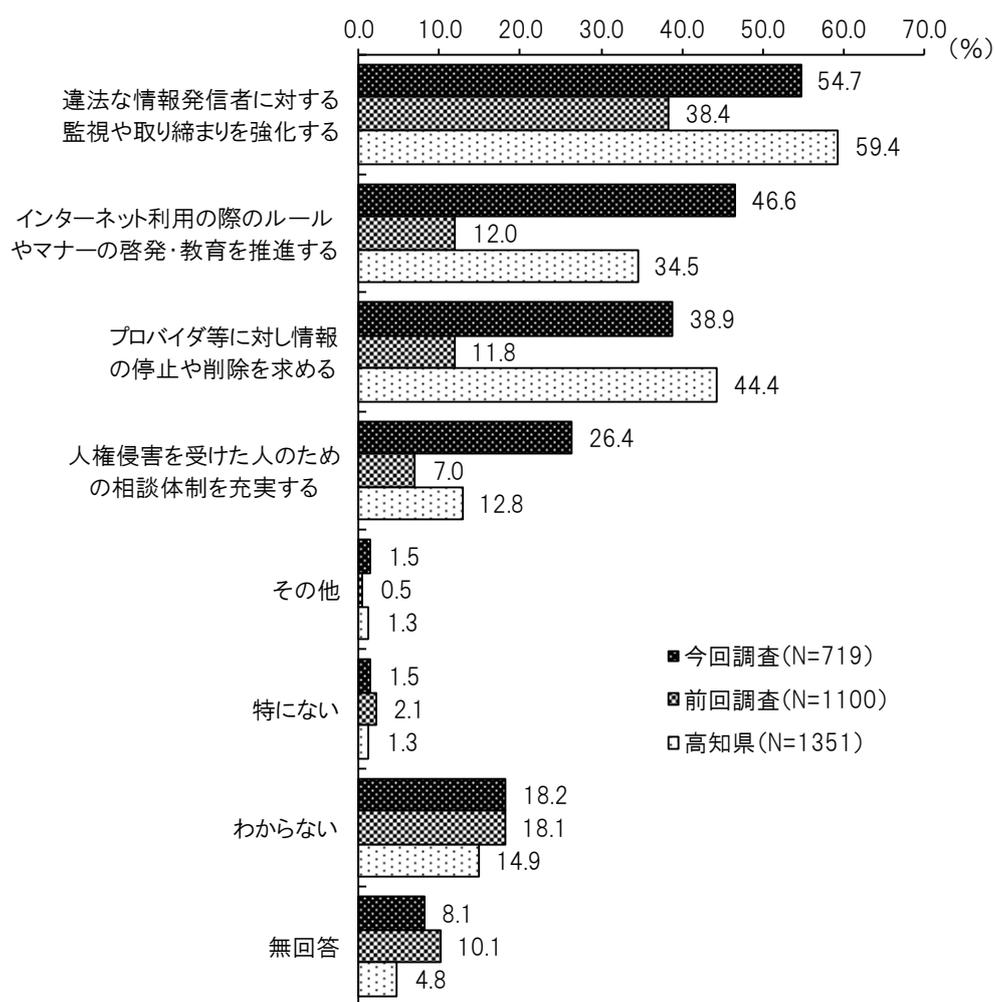


年齢別では、40歳代で「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」の割合が高く、また40～50歳で「インターネット利用の際のルールやマナーの啓発・教育を推進する」「プロバイダ等に対し情報の停止や削除を求める」、20歳代で「人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

インターネット利用別では、PCで利用している層では「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」「インターネット利用の際のルールやマナーの啓発・教育を推進する」、両方利用では「人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」の割合が他の利用方法よりもそれぞれ高くなっています。

単位(%)		化する監視や情報取締まりを強化す	違法な情報発信者に対する	インターネット利用の際の啓発	の停止や削除を求めしる情報	プロバイダ等に	人の権利侵害を受けた人	その他	特にな	わからない
全体(N=719)		54.7	46.6	38.9	26.4	1.5	1.5	18.2		
年齢別	20歳代(n=25)	64.0	48.0	36.0	32.0	0.0	4.0	4.0		
	30歳代(n=67)	55.2	50.7	47.8	22.4	3.0	1.5	11.9		
	40歳代(n=91)	69.2	56.0	54.9	20.9	1.1	1.1	7.7		
	50歳代(n=125)	64.0	56.0	56.8	24.8	1.6	1.6	11.2		
	60歳代(n=156)	52.6	44.9	36.5	26.9	1.9	0.6	23.1		
	70歳以上(n=245)	45.3	39.2	24.1	29.4	1.2	1.2	26.1		
インターネット利用別	利用者(n=295)	65.4	53.9	53.6	25.8	2.4	1.7	7.1		
	PCで利用(n=152)	69.7	58.6	57.2	23.7	3.3	1.3	5.9		
	スマホ等で利用(n=97)	58.8	48.5	49.5	25.8	2.1	1.0	7.2		
	両方利用(n=46)	65.2	50.0	50.0	32.6	0.0	4.3	10.9		
	非利用者(n=390)	49.5	42.3	30.3	26.4	1.0	1.5	26.7		

前回調査と比較すると、今回調査では「違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する」「インターネット利用の際のルールやマナーの啓発・教育を推進する」「プロバイダ等に対し情報の停止や削除を求める」「人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」の割合が高くなっています。また、高知県の調査と比べても「インターネット利用の際のルールやマナーの啓発・教育を推進する」「人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する」の割合は高くなっています。



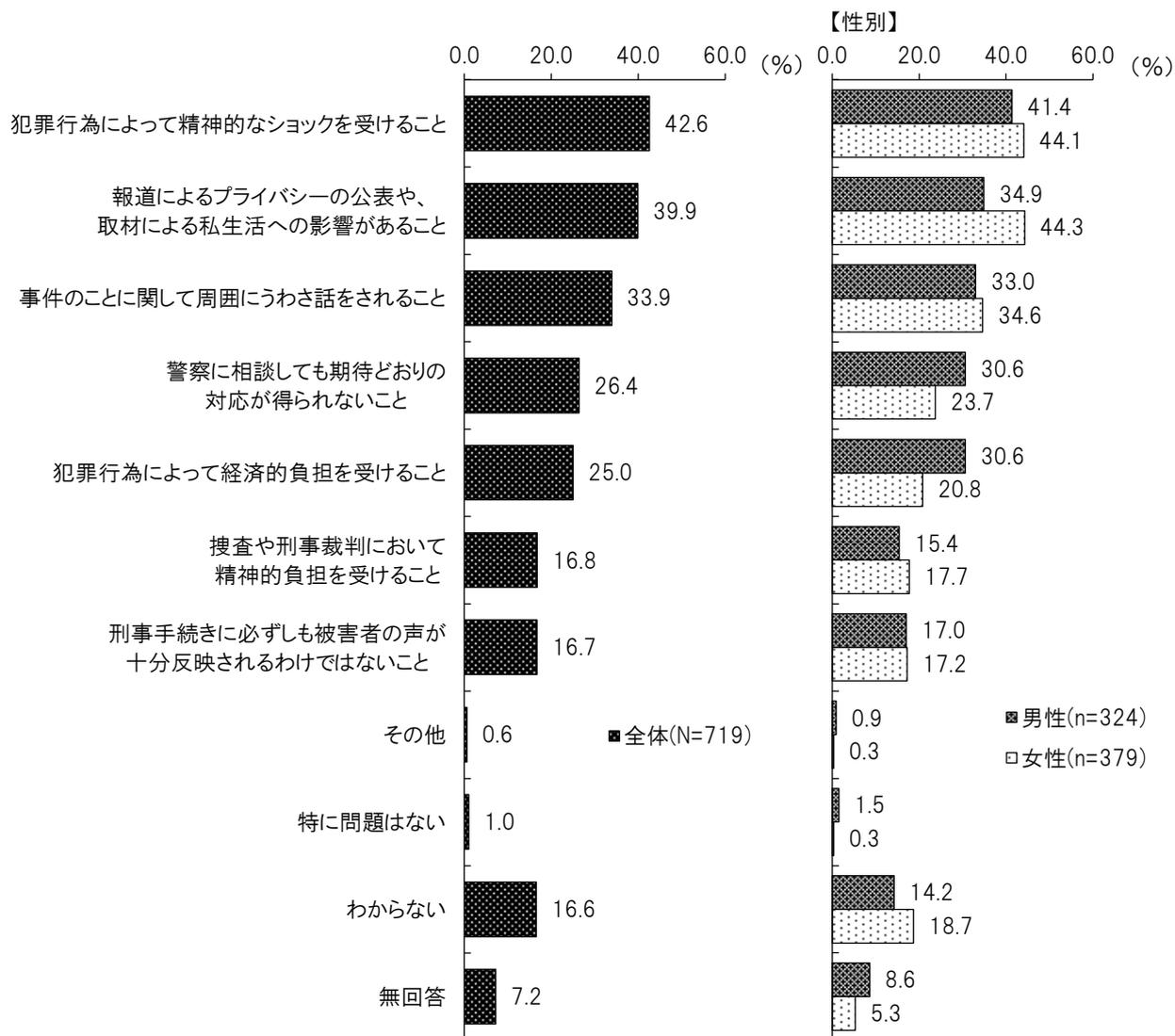
【10】 犯罪被害者やその家族の人権について

1. 犯罪被害者やその家族の人権で問題と感ずること

問 44. 犯罪被害者やその家族の人権に関する事で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

犯罪被害者やその家族の人権で問題と感ずることについては、「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」が42.6%と最も高く、次いで「報道によるプライバシーの公表や、取材による私生活への影響があること」(39.9%)、「事件のことにして周囲にうわさ話をされること」(33.9%)、「警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと」(26.4%)、「犯罪行為によって経済的負担を受けること」(25.0%)の順となっています。

性別では、男性よりも女性で「報道によるプライバシーの公表や、取材による私生活への影響があること」、女性よりも男性で「警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと」「犯罪行為によって経済的負担を受けること」の割合がそれぞれ高くなっています。



年齢別では、40歳代で「犯罪行為によって精神的なショックを受けること」「事件のことに関して周囲にうわさ話をされること」「刑事手続きに必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと」、30歳代で「報道によるプライバシーの公表や、取材による私生活への影響があること」の割合が他の年齢層に比べて高くなっています。

単位(%)	な犯シヨ行ツクにをよ受ける精神と的	生の報公道への影響が大きいこと	に事う件の話をにさるるてこ周と	こお警とりのに相対が得られ期待いど	負犯担罪をけるよこつて経済的	精捜査的や刑事負担を裁判にるおこいと	る害刑者の手続きはがきに必ずと映され被	その他	特に問題はない	わからない
全体(N=719)	42.6	39.9	33.9	26.4	25.0	16.8	16.7	0.6	1.0	16.6
20歳代(n=25)	48.0	32.0	36.0	28.0	28.0	12.0	12.0	0.0	0.0	12.0
30歳代(n=67)	40.3	49.3	31.3	31.3	14.9	17.9	14.9	4.5	0.0	19.4
40歳代(n=91)	51.6	47.3	45.1	31.9	29.7	16.5	25.3	0.0	2.2	7.7
50歳代(n=125)	47.2	47.2	35.2	23.2	32.0	20.8	20.0	0.0	0.0	9.6
60歳代(n=156)	42.3	48.1	32.7	31.4	22.4	19.2	19.2	0.0	0.6	17.3
70歳以上(n=245)	38.0	27.8	30.2	22.0	23.7	13.5	11.8	0.4	1.2	22.4

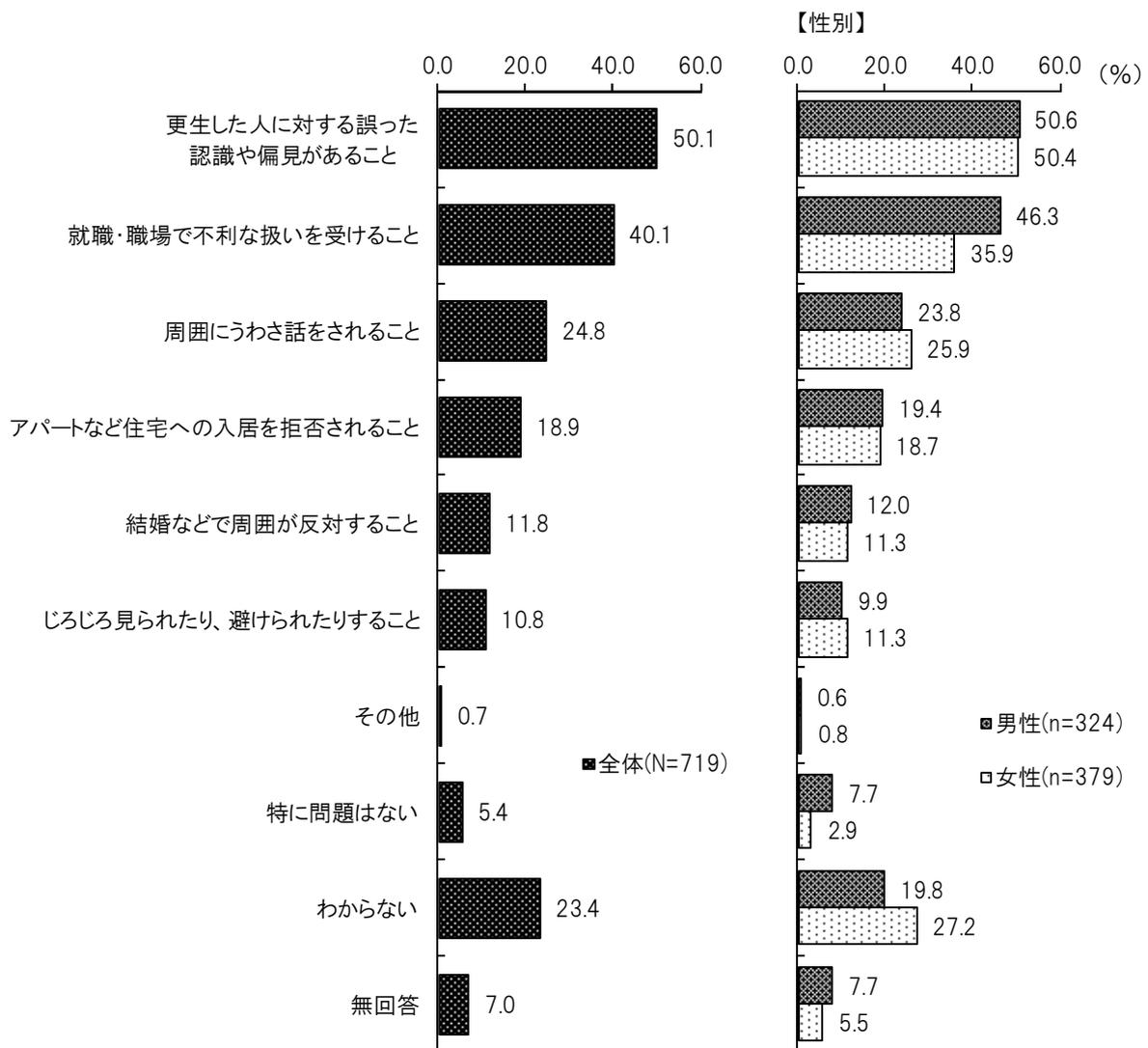
【11】刑を終えて出所した人の人権について

1. 刑を終えて出所した人の人権で問題と感ずること

問 45. 刑を終えて出所した人の人権に関する事で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

刑を終えて出所した人の人権で問題と感ずることについては、「更生した人に対する誤った認識や偏見があること」が50.1%と最も高く、次いで「就職・職場で不利な扱いを受けること」(40.1%)、「周囲にうわさ話をされること」(24.8%)、「アパートなど住宅への入居を拒否されること」(18.9%)の順となっています。

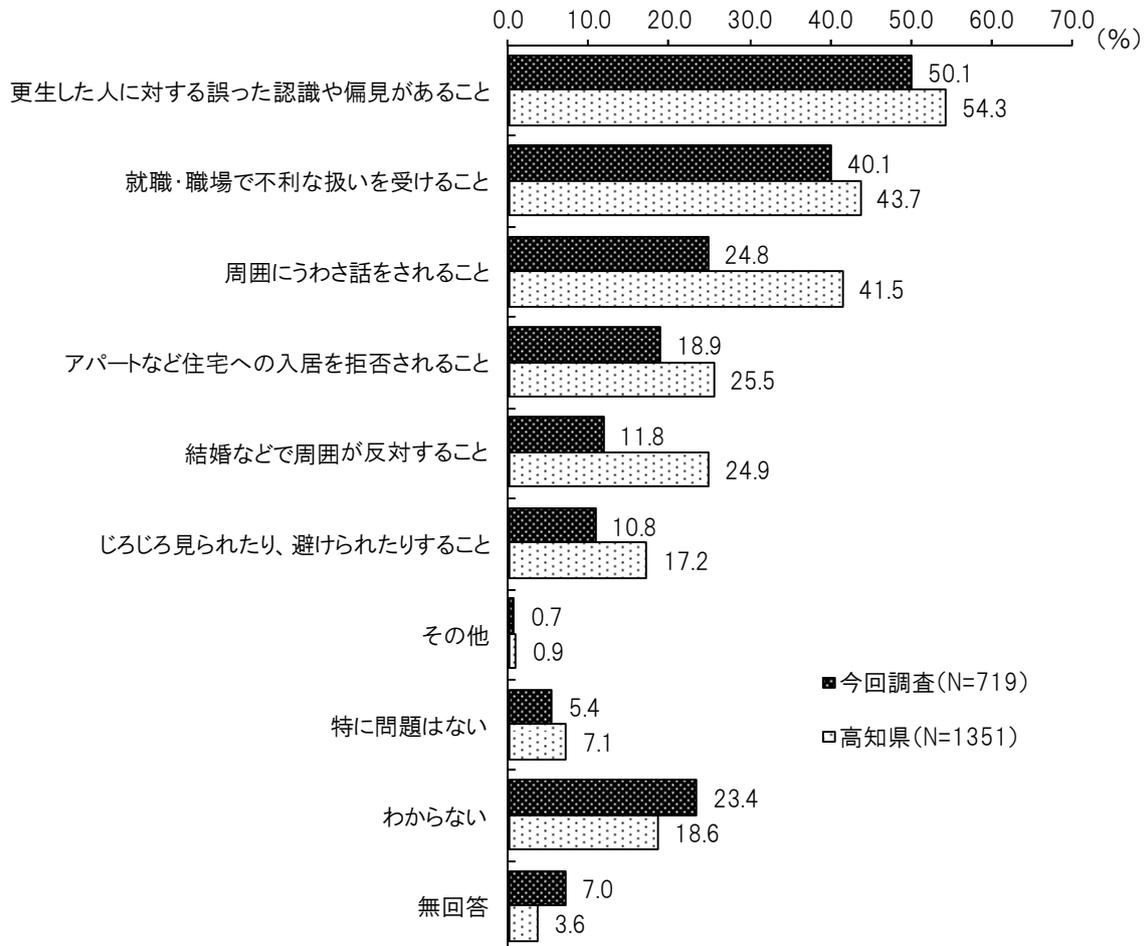
性別では、女性よりも男性で「就職・職場で不利な扱いを受けること」の割合が高く、女性で「わからない」の割合が高くなっています。



年齢別では、50歳代で「更生した人に対する誤った認識や偏見があること」「就職・職場で不利な扱いを受けること」、40歳代で「アパートなど住宅への入居を拒否されること」の割合が、他の年齢層に比べて高くなっています。また、30歳代の3割以上が「わからない」と回答しています。

単位(%)		た更生した人に対する誤った認識や偏見があること	を就職・職場で不利な扱いを受けること	こと周囲にうわさ話をされる	居アパートなど住宅への入居を拒否されること	る結婚などで周囲が反対すること	けろじろ見られたり、避けられたりすること	その他	特に問題はない	わからない
全体(N=719)		50.1	40.1	24.8	18.9	11.8	10.8	0.7	5.4	23.4
年齢別	20歳代(n=25)	52.0	44.0	20.0	20.0	16.0	4.0	4.0	16.0	4.0
	30歳代(n=67)	49.3	28.4	17.9	14.9	4.5	4.5	1.5	4.5	35.8
	40歳代(n=91)	49.5	42.9	26.4	28.6	8.8	9.9	1.1	11.0	19.8
	50歳代(n=125)	56.0	47.2	22.4	24.8	9.6	9.6	0.0	3.2	20.8
	60歳代(n=156)	51.3	46.2	25.0	18.6	12.8	10.3	0.0	4.5	24.4
70歳以上(n=245)		47.8	35.1	28.6	13.1	15.1	13.9	0.8	4.1	24.5

高知県の調査と比較すると、今回調査では「周囲にうわさ話をされること」「アパートなど住宅への入居を拒否されること」「結婚などで周囲が反対すること」「じろじろ見られたり、避けられたりすること」の割合は低くなっています。



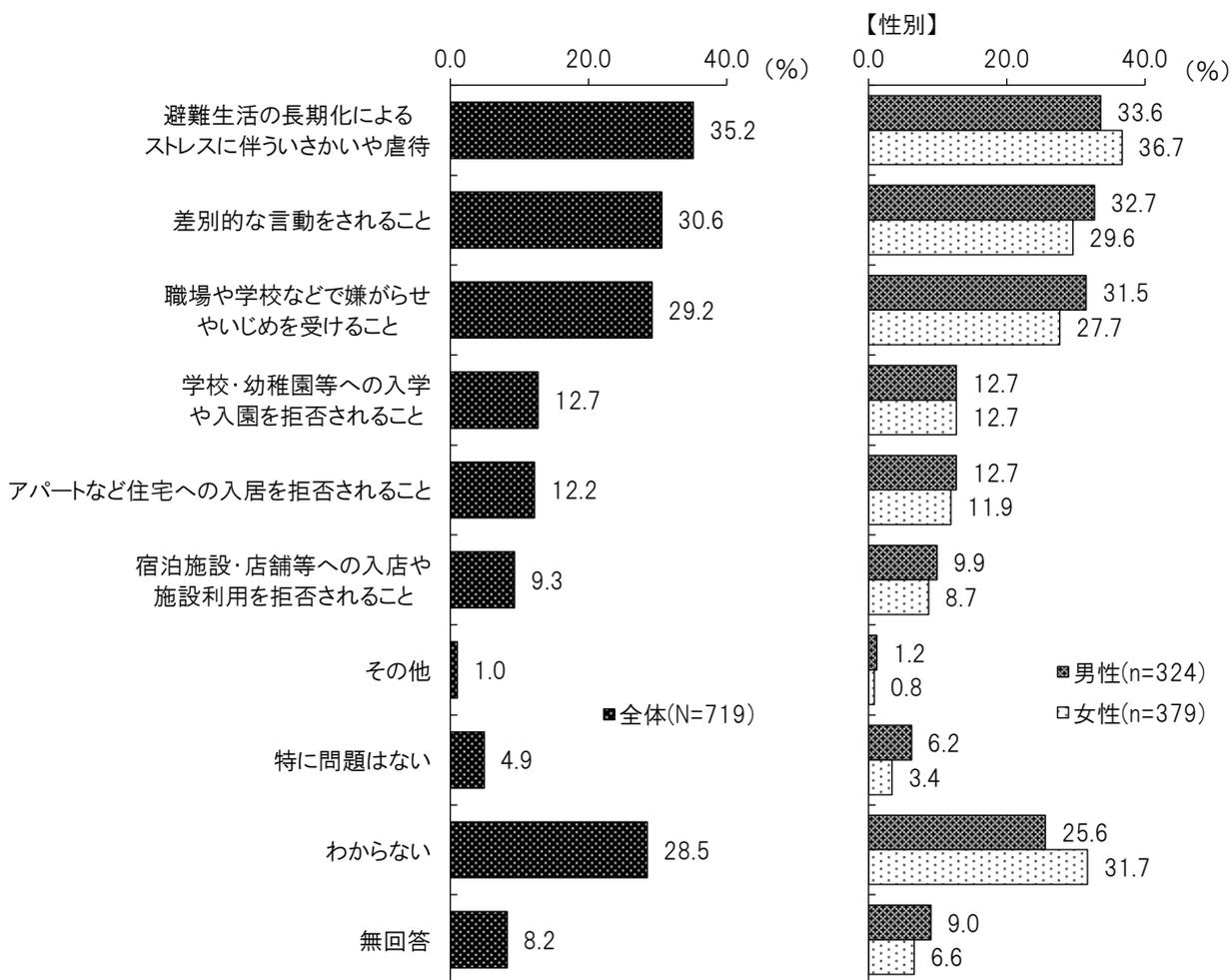
【12】被災者の人権について

1. 被災者の人権で問題と感ずること

問 46. 東日本大震災や、福島第一原子力発電所の事故の発生に伴う被災者の人権に関するこ
とで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

被災者の人権で問題と感ずることについては、「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」が 35.2%と最も高く、次いで「差別的な言動をされること」(30.6%)、「職場や学校などで嫌がらせやいじめを受けること」(29.2%)の順となっています。

性別では、男性よりも女性で「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」、女性よりも男性で「差別的な言動をされること」「職場や学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合がそれぞれやや高くなっています。



年齢別では、50歳代、40歳代で「差別的な言動をされること」の割合が高く、また50歳では「避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかいや虐待」「職場や学校などで嫌がらせやいじめを受けること」の割合も他の年齢層に比べて高くなっています。

単位(%)		や虐待	ストレスに 伴う長期化 による	避難生活の 長期化による	差別的な言動 をされること	職場や学校 などで嫌が らせやいじめ を受けること	学校・幼稚園 等への入学	や入園を拒 否されること	アパートなど 住宅への入 居を拒否され ること	宿泊施設・利 用店舗等への 入	その他	特に問題 はない	わから ない
全体(N=719)		35.2	30.6	29.2	12.7	12.2	9.3	1.0	4.9	28.5			
年齢別	20歳代(n=25)	36.0	28.0	32.0	16.0	8.0	4.0	0.0	4.0	24.0			
	30歳代(n=67)	38.8	35.8	28.4	17.9	14.9	10.4	3.0	7.5	22.4			
	40歳代(n=91)	40.7	37.4	35.2	15.4	12.1	15.4	1.1	5.5	22.0			
	50歳代(n=125)	43.2	37.6	38.4	11.2	16.0	8.0	0.8	1.6	27.2			
	60歳代(n=156)	40.4	33.3	24.4	10.3	13.5	7.1	1.3	4.5	31.4			
	70歳以上(n=245)	24.9	22.9	26.1	12.7	9.4	9.4	0.4	5.3	32.7			

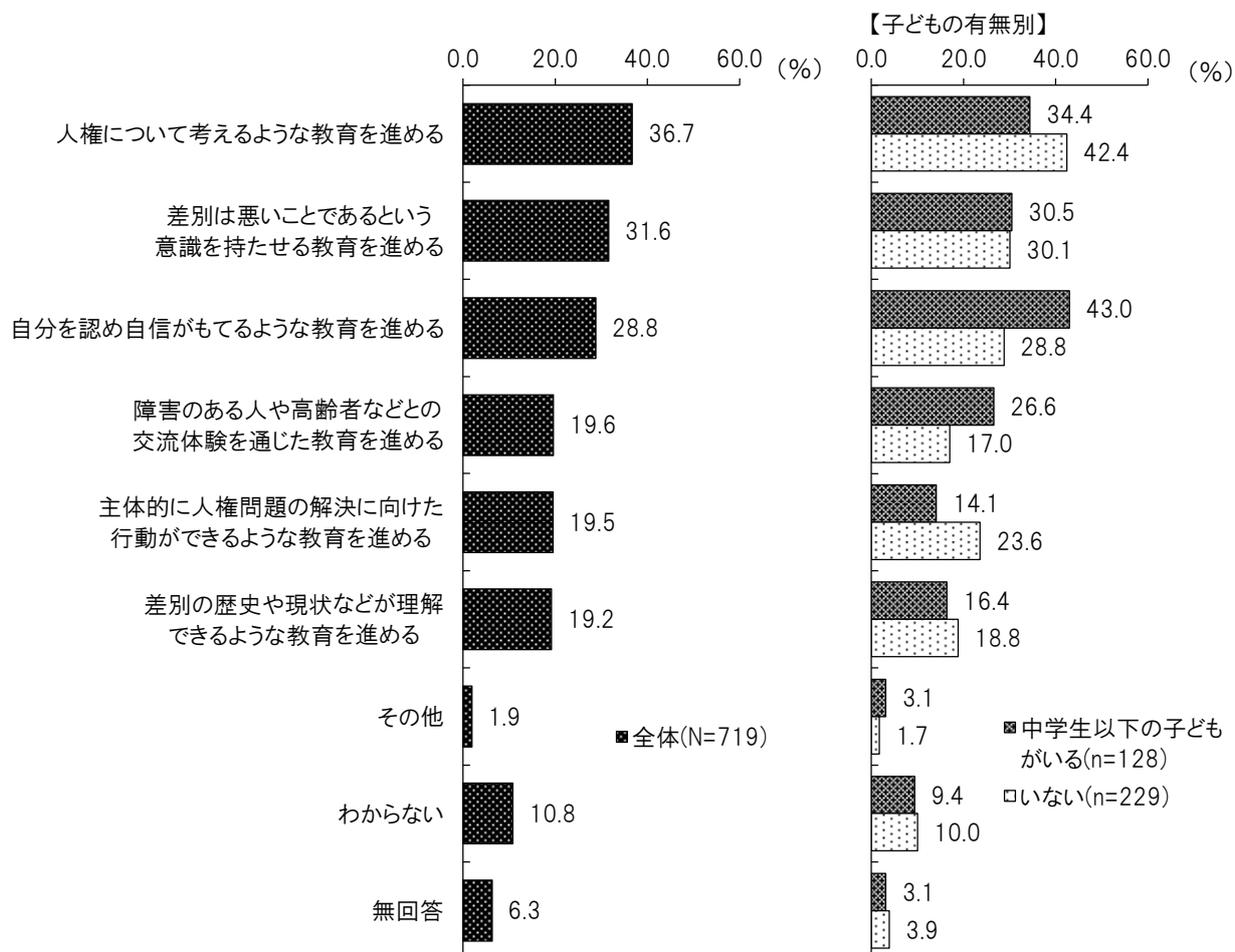
【13】人権尊重社会の実現について

1. 人権教育について

問 47. あなたは、人権を尊重する心や態度を育むためには、学校においてどのような教育を行ったらよいと思いますか。(○印2つまで)

人権尊重社会の実現については、「人権について考えるような教育を進める」が 36.7%と最も高く、次いで「差別は悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」(31.6%)、「自分を認め自信がもてるような教育を進める」(28.8%)の順となっています。

子どもの有無別では、中学生以下の子どもがいる層で「自分を認め自信がもてるような教育を進める」「障害のある人や高齢者などとの交流体験を通じた教育を進める」、子どもがいない層で「人権について考えるような教育を進める」「主体的に人権問題の解決に向けた行動ができるような教育を進める」の割合がそれぞれ高くなっています。

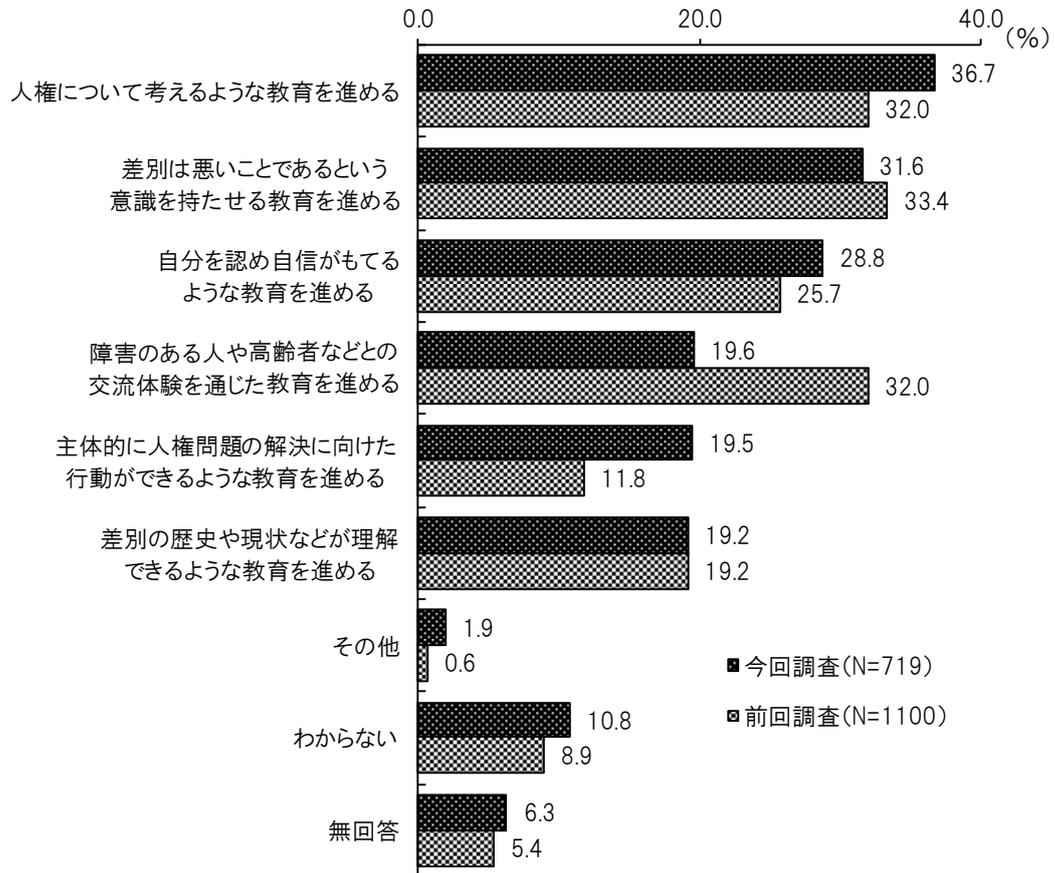


性別では、女性よりも男性で「人権について考えるような教育を進める」「主体的に人権問題の解決に向けた行動ができるような教育を進める」「差別の歴史や現状などが理解できるような教育を進める」、男性よりも女性で「自分を認め自信がもてるような教育を進める」「障害のある人や高齢者などとの交流体験を通じた教育を進める」の割合が、それぞれ高くなっています。

年齢別では、70歳以上で「差別は悪いことであるという意識を持たせる教育を進める」、30～40歳代で「自分を認め自信がもてるような教育を進める」、20歳代で「差別の歴史や現状などが理解できるような教育を進める」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。

単位(%)		人権教育を進める	差別は悪いことである教育を進める	自分を認め自信がもてる	障害のある人や高齢者などとの交流体験を通じた教育を進める	主体的に人権問題の解決に向けた行動ができる	差別の歴史や現状など理解できる	その他	わからない
全体(N=719)		36.7	31.6	28.8	19.6	19.5	19.2	1.9	10.8
性別	男性(n=324)	41.0	30.6	23.5	15.1	23.1	22.8	2.2	9.9
	女性(n=379)	32.7	33.5	33.8	23.5	16.4	16.4	1.8	12.1
年齢別	20歳代(n=25)	32.0	12.0	28.0	20.0	16.0	32.0	8.0	16.0
	30歳代(n=67)	32.8	20.9	40.3	20.9	11.9	19.4	7.5	11.9
	40歳代(n=91)	33.0	35.2	40.7	28.6	18.7	12.1	0.0	7.7
	50歳代(n=125)	40.0	29.6	35.2	23.2	25.6	15.2	3.2	6.4
	60歳代(n=156)	35.9	30.8	27.6	18.6	19.9	24.4	1.9	14.1
	70歳以上(n=245)	38.4	38.0	19.6	15.1	18.4	19.6	0.0	11.4

前回調査と比較すると、今回調査では「障害のある人や高齢者などとの交流体験を通じた教育を進める」の割合は低い一方で、「主体的に人権問題の解決に向けた行動ができるような教育を進める」の割合は高くなっています。

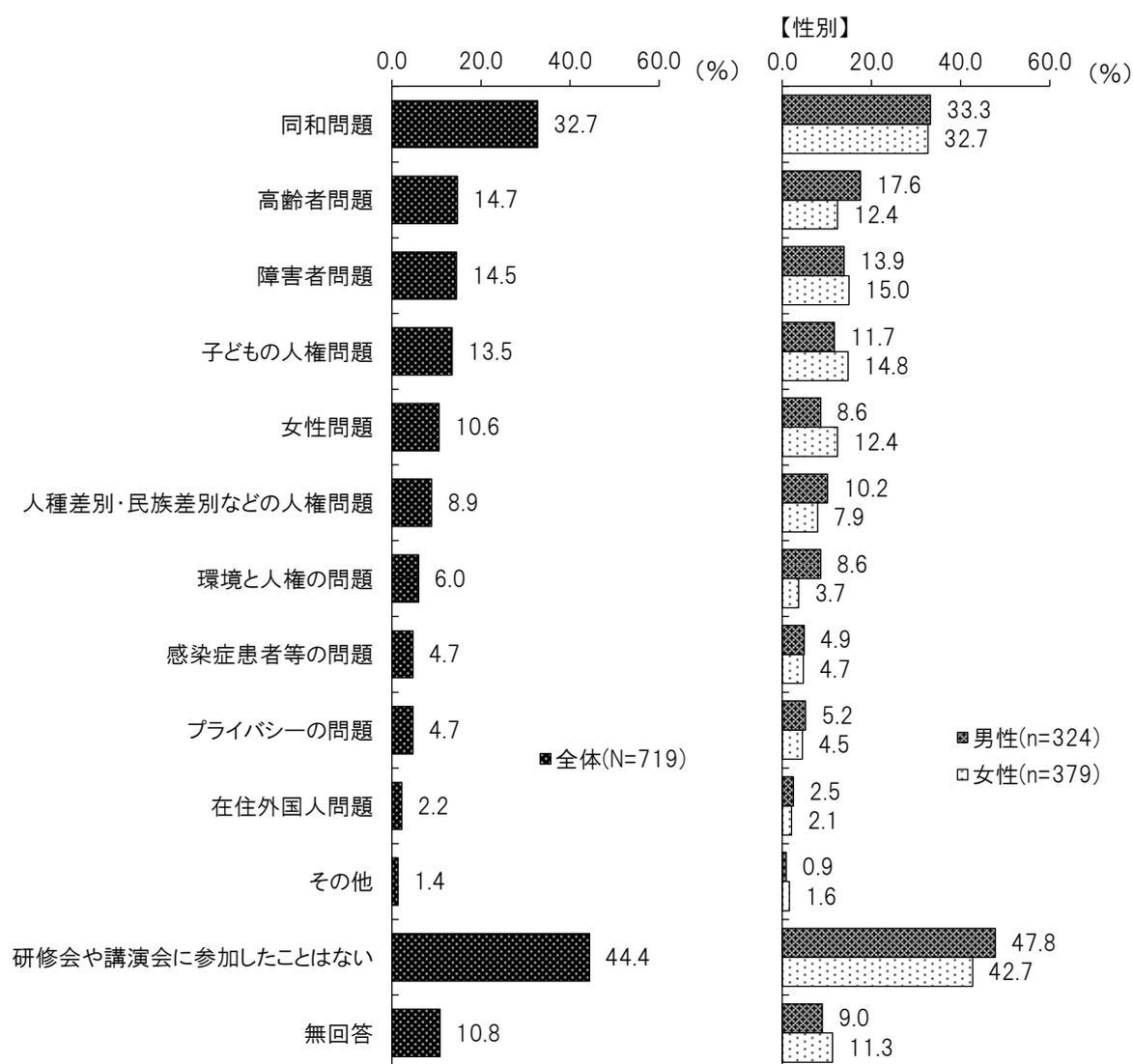


2. 研修会・講演会参加状況

問 48. あなたは、これまでに人権をテーマとした研修会や講演会に参加したことがありますか。
(○印いくつでも)

研修会・講演会参加状況については、「研修会や講演会に参加したことはない」が44.4%を占めていることから、参加したことがある割合は「無回答」を除き全体で4割程度とみられます。参加した研修会等としては、「同和問題」が32.7%と最も高く、次いで「高齢者問題」(14.7%)、「障害者問題」(14.5%)、「子どもの人権問題」(13.5%)、「女性問題」(10.6%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「高齢者問題」「環境と人権の問題」、男性よりも女性で「子どもの人権問題」「女性問題」の割合がそれぞれやや高くなっています。



年齢別では、50歳代で「同和問題」「障害者問題」「子どもの人権問題」「女性問題」、70歳以上で「高齢者問題」の割合が、他の年齢層に比べてそれぞれやや高くなっています。一方、20歳代の過半数が「研修会や講演会に参加したことはない」と回答しています。

単位(%)		同和問題	高齢者問題	障害者問題	子どもの人権問題	女性問題	の人種差別・民族差別などの人権問題	環境と人権の問題	感染症患者等の問題	プライバシーの問題	在住外国人問題
全体(N=719)		32.7	14.7	14.5	13.5	10.6	8.9	6.0	4.7	4.7	2.2
年齢別	20歳代(n=25)	16.0	12.0	24.0	4.0	4.0	8.0	0.0	12.0	0.0	0.0
	30歳代(n=67)	32.8	4.5	14.9	13.4	9.0	9.0	6.0	7.5	7.5	6.0
	40歳代(n=91)	29.7	15.4	16.5	14.3	11.0	13.2	6.6	7.7	7.7	4.4
	50歳代(n=125)	39.2	16.0	25.6	19.2	16.8	11.2	8.0	9.6	5.6	5.6
	60歳代(n=156)	35.3	12.2	10.9	12.2	10.9	5.8	5.1	1.3	3.2	0.0
	70歳以上(n=245)	31.4	18.4	9.0	11.8	8.6	7.8	5.7	2.0	4.1	0.4

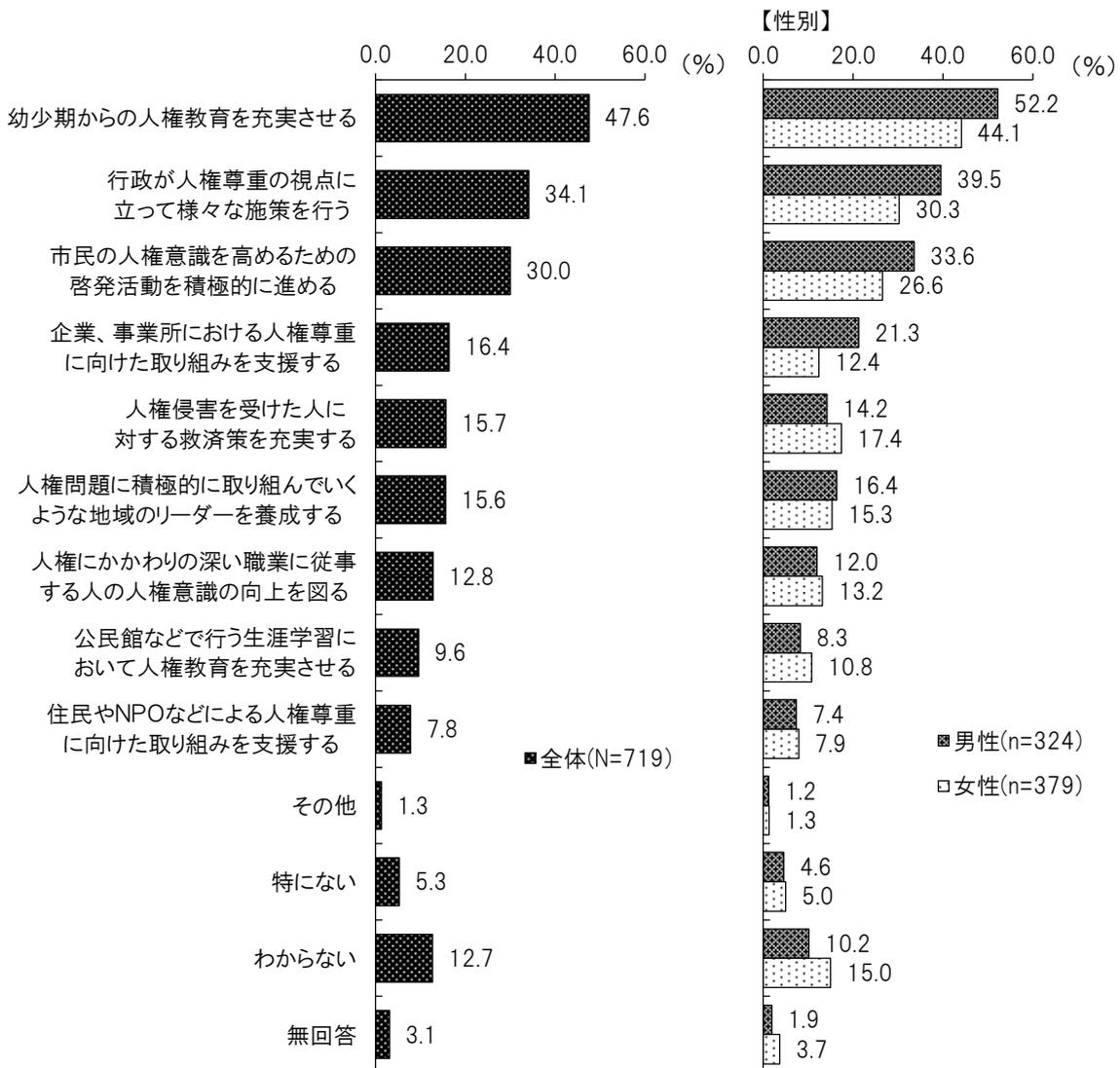
単位(%)		その他	た研修会や講演会に参加し
全体(N=719)		1.4	44.4
年齢別	20歳代(n=25)	0.0	52.0
	30歳代(n=67)	1.5	41.8
	40歳代(n=91)	2.2	42.9
	50歳代(n=125)	0.8	40.8
	60歳代(n=156)	1.3	46.8
	70歳以上(n=245)	1.2	46.5

3. 今後必要と思う取り組み

問 49. あなたは、四万十市が目指す「互いに人権を尊重しあい、ともに生きる社会」を実現するためには、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

今後必要と思う取り組みについては、「幼少期からの人権教育を充実させる」が 47.6%と最も高く、次いで「行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う」(34.1%)、「市民の人権意識を高めるための啓発活動を積極的に進める」(30.0%)の順となっています。

性別では、女性よりも男性で「幼少期からの人権教育を充実させる」「行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う」「市民の人権意識を高めるための啓発活動を積極的に進める」「企業、事業所における人権尊重に向けた取り組みを支援する」の割合が高く、男性よりも女性で「人権侵害を受けた人に対する救済策を充実する」の割合がやや高くなっています。

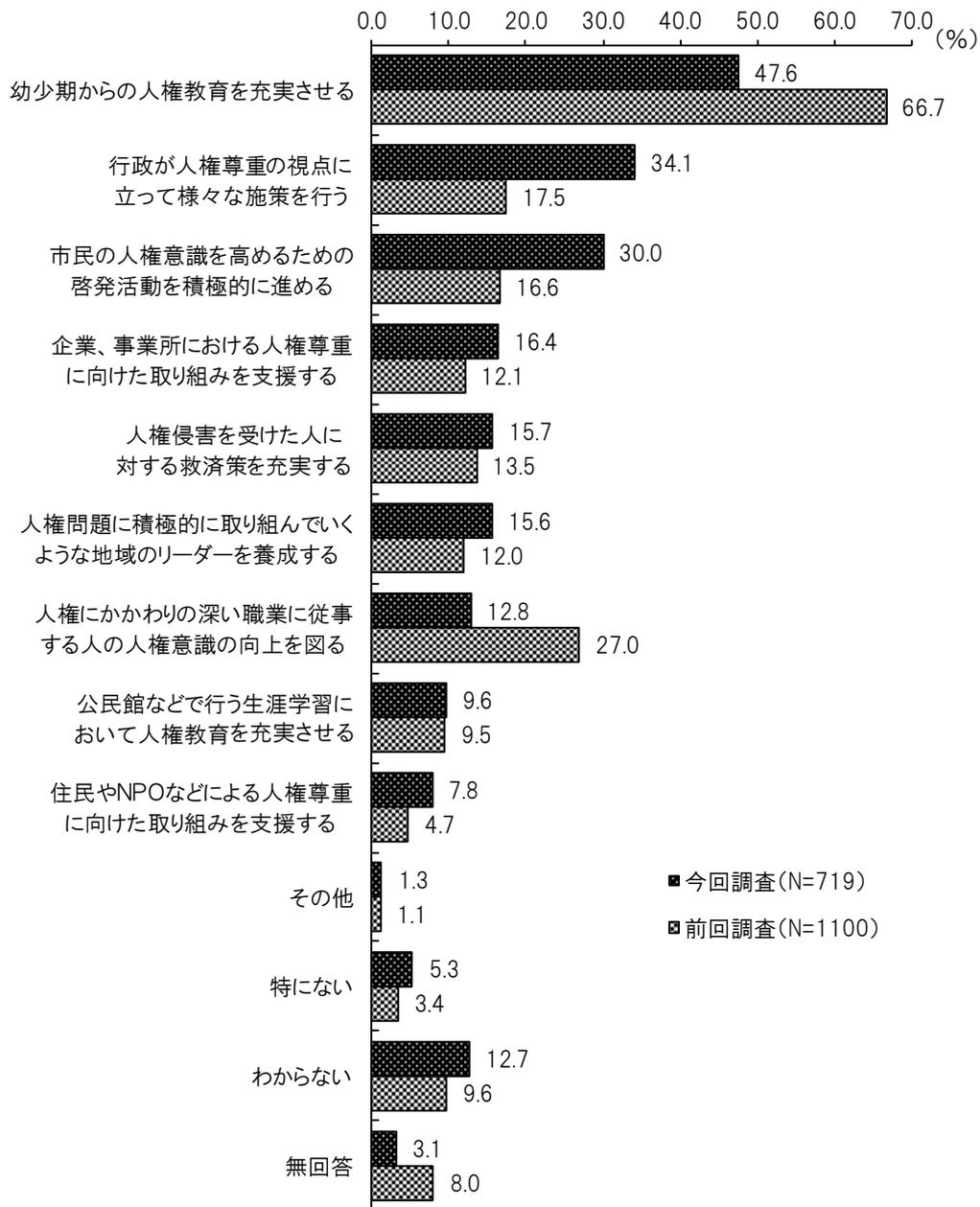


年齢別では、20歳代で「幼少期からの人権教育を充実させる」、60歳代で「行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う」の割合が他の年齢層に比べてそれぞれ高くなっています。また、若い年齢層ほど「人権侵害を受けた人に対する救済策を充実する」の割合が高くなる傾向にあります。

単位(%)		幼少期からの人権教育を充実させる	行政が様々な施策を行う	市民の啓発活動を進める	企業、事業所における人権尊重の取り組み	人権侵害を受けた人に対する救済策を充実する	組んでいく養育の取組	人権問題に積極的に取り組む	職業に就く人への人権意識向上を図る	実習など人権教育を充実させる	公民館などで行う生涯学習	住民やNPOなどに向けた取り組み	その他
全体(N=719)		47.6	34.1	30.0	16.4	15.7	15.6	12.8	9.6	7.8	1.3		
年齢別	20歳代(n=25)	60.0	20.0	28.0	12.0	24.0	24.0	20.0	8.0	0.0	0.0		
	30歳代(n=67)	53.7	16.4	22.4	11.9	22.4	4.5	13.4	4.5	7.5	7.5		
	40歳代(n=91)	48.4	29.7	28.6	11.0	20.9	11.0	14.3	5.5	11.0	2.2		
	50歳代(n=125)	51.2	36.8	31.2	20.0	18.4	16.8	12.0	7.2	4.8	1.6		
	60歳代(n=156)	44.9	44.2	28.8	16.7	18.6	9.6	10.9	10.9	12.8	0.0		
	70歳以上(n=245)	44.5	35.1	33.9	18.0	8.6	22.4	12.7	13.1	6.1	0.0		

単位(%)		特になし	わからない
全体(N=719)		5.3	12.7
年齢別	20歳代(n=25)	4.0	16.0
	30歳代(n=67)	3.0	13.4
	40歳代(n=91)	8.8	9.9
	50歳代(n=125)	2.4	10.4
	60歳代(n=156)	7.7	13.5
	70歳以上(n=245)	3.7	14.3

前回調査と比較すると、今回調査では「幼少期からの人権教育を充実させる」「人権にかかわりの深い職業に従事する人の人権意識の向上を図る」の割合は低くなった一方で、「行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う」「市民の人権意識を高めるための啓発活動を積極的に進める」の割合は高くなっています。



四万十市 人権に関する市民意識調査

～ご協力のお願～

市民の皆様には、日頃から市政にご理解とご協力をたまわり厚くお礼申し上げます。
本市では、誰もが命の大切さの理解を深め、自由で平等な立場で社会に参画し、喜びや生きがいを感じながら、お互いを認め合い支え合う地域の実現を目指して、様々な人権問題に対する取り組みを推進しています。

このアンケートは、市民の皆様の人権に対する意識やご意見などをおうかがいし、今後、事業を推進していく上での基礎的な資料とさせていただくことを目的として実施するものです。

調査の実施にあたっては、市内に居住する20歳以上の市民の方を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いするものです。

ご回答につきましては、統計的にのみ集計・利用し、無記名であり個人が特定されることはありません。また、本調査の目的以外に使用することはありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、調査の目的、趣旨をご理解いただきましてご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

平成26年7月

四万十市長 中平 正宏

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、封筒のあて名のご本人がお答えください。
2. 黒の鉛筆又はボールペンでご記入ください。
3. 回答は、あてはまる番号を○で囲んでください。回答数は、各設問文に(○印1つ)(○印3つまで)などと指定してありますので、それに従ってご回答ください。
4. (○印3つまで)などと回答数を指定してある場合は、あなたの気持ちに最も近いものから順に選んでください。(○印いくつでも)の場合は、あてはまるものを全てお答えください。
5. 設問によっては、該当する番号に○印をつけた方だけに答えていただくものなどがありますので、その説明に従いご記入ください。
6. ご不明な点、調査に関するお問い合わせなどは、下記までお願いいたします。

◆調査のお問い合わせ先◆

四万十市 人権啓発課

〒787-8501 高知県四万十市中村大橋通4丁目10(電話:0880-35-1035)

記入していただいた調査票は、**平成26年7月31日(木)**までに、同封の返信用封筒に入れて(切手を貼らずに)投函してください。

【人権意識全般についておたずねします】

日本国憲法では、すべての国民は法の下に平等であり、生命、自由及び幸福追求に対する権利について保障しています。このような「基本的人権」に関する次の設問について、あなたの考えや感じていることをお答えください。

問7. あなたは、今の日本は基本的人権が尊重されている社会だと思いますか。(○印1つ)

- | | |
|--------------|-----------|
| 1. そう思う | 3. そう思わない |
| 2. どちらとも言えない | 4. わからない |

問8. あなたは、人権について、どのようにお考えですか。(○印1つ)

1. 一人ひとりの人権は、何よりも尊重されなければならない
2. 人権は尊重されるべきだが、社会生活においては、ある程度の制約もやむを得ない
3. 人権という名のもとに、権利の濫用^注がみられるので、むしろ制限すべきである
4. わからない

注【濫用】やたらと使うこと

問9. 日本社会における人権侵害や差別は、4～5年前に比べて減ってきていると思いますか。それとも増えていると思いますか。(○印1つ)

- | | |
|----------------|---------------|
| 1. 減ってきていると思う | 3. 増えてきていると思う |
| 2. あまり変わらないと思う | 4. わからない |

問10. 次にあげる人権に関する事柄について、あなたが関心のあるものはどれですか。(○印いくつでも)

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| 1. 子どもの人権 | 11. 刑を終えて出所した人の人権 |
| 2. 女性の人権 | 12. 東日本大震災に伴う人権問題 |
| 3. 高齢者の人権 | 13. 同性愛などの性的指向を持つ人の人権 |
| 4. 障害者の人権 | 14. 性同一性障害者 ^{注3} の人権 |
| 5. ハンセン病元患者等 ^{注1} の人権 | 15. 拉致被害者等の人権 |
| 6. HIV感染症患者等 ^{注2} の人権 | 16. ホームレスの人の人権 |
| 7. 同和問題 | 17. アイヌの人々の人権 |
| 8. 外国人の人権 | 18. 人身取引 ^{注4} |
| 9. インターネットによる人権侵害 | 19. その他 () |
| 10. 犯罪被害者やその家族の人権 | 20. 特にない |

注1【ハンセン病】らい菌による感染症で、その感染力は非常に弱く、日常生活で感染することはほとんど無い。仮に発病しても、現在では治療法の発達により、後遺症を残さず治る病気。過去に、確実な治療法が無かった時代でも、死亡例はほとんど無かった。

注2【HIV (Human Immunodeficiency Virus)】エイズ(後天性免疫不全症候群)の原因となるウイルスで、非常に弱いウイルス。通常の社会生活で感染者と暮らしても、まず感染することはない。このウイルスが身体の中で増えると、抵抗力(免疫)が徐々に無くなり、健康な時にはかかりにくい感染症や悪性腫瘍が引き起こされることがある。

注3【性同一性障害】一般には「心と身体の性が一致しない状態」と説明される。

注4【人身取引】人間を誘拐などの強制的な手段等で誘い出し、移送し、売買するような行為で、主に女性や子どもがその対象となっている。その目的は、強制労働や養子、性的搾取、臓器移植などがある。

問 11. あなたはこれまでに、ご自身の人権が侵害されたと思ったことがありますか。

(○印1つ)

1. ある → 問 12 へお進み下さい

2. ない → 問 13 へお進み下さい

問 12 (問 11 で1と回答した方に) ご自身の人権が侵害されたと思ったのは、どのような内容ですか。(○印3つまで)

1. あらぬ噂・他人からの悪口・かげ口
2. 名誉・信用のき損^{注1}・侮辱
3. 暴力・脅迫・強要^{注2}
4. 犯罪・不法行為のぬれぎぬ
5. 悪臭・騒音等の公害
6. 差別的な待遇^{注3}
7. 地域社会での嫌がらせや仲間はずれ
8. 公的な機関による不当な扱い
9. 使用者による時間外労働の強制等の不当な待遇
10. プライバシーの侵害
11. セクシュアル・ハラスメント^{注4}
12. パワー・ハラスメント^{注5}
13. ストーカー行為
14. 学校でのいじめ
15. 社会福祉施設等の職員等による不当な扱い
16. ドメスティック・バイオレンス (DV)^{注6}
17. その他 ()
18. 何となくそう感じた

注1【き損】傷つけること

注2【強要】社会的地位、慣習、脅迫などにより、本来義務のないことをやらされることや、権利の行使を妨害されること

注3【差別的な待遇】人種・信条・性別・社会的身分等により、就職や結婚等社会生活上の不平等または不利益な扱いを受けること

注4【セクシュアル・ハラスメント】性的な嫌がらせ

注5【パワー・ハラスメント】同じ職場で働く者に対して、職務上の地位や人間関係などの職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させる行為

注6【DV】配偶者や恋人などのパートナーからの暴力

問 13. あなたは、人権が侵害されたとき、どこに相談しますか (相談しましたか)。

(○印いくつでも)

1. 友人・知人
2. 学校や職場
3. 弁護士
4. 警察
5. 法務局
6. 人権擁護委員
7. 民生委員・児童委員
8. 市役所
9. 専門機関 (婦人相談所や児童相談所)
10. NPO など民間団体
11. 相手に抗議した
12. その他 ()
13. 何もしない

【子どもの人権についておたずねします】

問 14. 子どもに関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。
(○印3つまで)

1. いじめ^注を行うこと
2. いじめを見て見ぬふりをする事
3. 親などが子どもを虐待すること
4. 大人が子どもの意見を無視したり考えをおしつけたりすること
5. 先生が児童・生徒へ体罰を加えること
6. 学校の部活動で先輩や教師などからしごきをうけること
7. 子どもだからという理由で子どものプライバシーを尊重しないこと
8. 児童買春、援助交際、児童ポルノ雑誌などの性の商品化
9. その他 ()
10. 特に問題はない
11. わからない

注【いじめ】仲間はずれや無視、暴力や相手が嫌がることをしたりさせたりすること

問 15. 4～5年前に比べて、国内では子どもの人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

1. 以前に比べて子どもの人権は尊重されてきていると感じる
2. どちらかといえば尊重されてきていると感じる
3. あまり尊重されているとは言えない
4. 以前に比べて問題が目立ってきている
5. わからない

問 16. 子どもの人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 子どもの人権を守るための教育・啓発活動を推進する
2. 体罰禁止を徹底させる
3. 教師の資質・能力を高める
4. 地域社会全体で子どもに他人を思いやる心を育てる
5. 地域社会全体でいじめや非行、虐待の早期発見や予防策の充実に努める
6. 子どものための人権相談や電話相談、カウンセリングを充実する
7. 子どもが健やかに育つよう、愛情豊かな家庭をつくる
8. 子どもの個性を尊重する
9. 子どもに豊かな体験をさせ、たくましく生きるための力を身につけさせる
10. 大人に対して、子どもが独立した人格であることを啓発する
11. 子どもが被害者となる児童虐待や性犯罪などの取り締まりや罰則を強化する
12. その他 ()
13. 特に必要はない
14. わからない

問 20. 女性の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 女性の人権を守るための啓発や広報活動等を進める
2. 男女平等に関する教育を充実する
3. 新聞、テレビ、インターネットなどのマスメディアを通して男女平等を働きかける
4. 男女ともに、働きながら家事や育児・介護などを両立できる環境を整備する
5. 働く場での男女格差をなくすよう企業や事業主などに働きかける
6. 様々な意思決定や方針決定の場への女性の参画を促進する
7. 女性に対する犯罪の取り締まりを強化する
8. 女性のための相談・支援体制を充実する
9. その他()
10. 特に必要はない
11. わからない

【高齢者の人権についておたずねします】

問 21. 高齢者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. 階段や道路の段差など、高齢者に配慮した施設が少なく不便が多いこと
2. 高齢者を邪魔者扱いすること
3. 高齢者の意見や行動を尊重しないこと
4. 働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと
5. 高齢者を狙った詐欺や悪徳商法などの犯罪が多いこと
6. 家庭内での看護や介護において劣悪な処遇や虐待をすること
7. 病院での看護や高齢者の施設において劣悪な処遇や虐待をすること
8. 経済的に自立が困難なこと
9. その他()
10. 特に問題はない
11. わからない

問 22. 4～5年前に比べて、国内では高齢者の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。(○印1つ)

1. 以前に比べて高齢者の人権は尊重されてきていると感じる
2. どちらかといえば尊重されてきていると感じる
3. あまり尊重されているとは言えない
4. 以前に比べて問題が目立ってきている
5. わからない

問 23. 高齢者の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇印3つまで)

1. 高齢者の人権を守るための教育・啓発活動を推進する
2. バリアフリー化^注を進めるなど、生活環境の整備を進める
3. 高齢者の就業や生涯学習、ボランティア活動など活躍の機会を増やす
4. 高齢者介護などの支援を社会全体で支える気運を高める
5. 高齢者を狙った犯罪の防止など、権利や生活を守る制度を充実させる
6. 高齢者に対する虐待などの防止策を徹底する
7. 高齢者と他の世代との交流を促進する
8. 高齢者のための人権相談体制を充実させる
9. その他 ()
10. 特に必要はない
11. わからない

注【バリアフリー化】建物の階段や道路の段差の解消など

【障害者の人権についておたずねします】

問 24. 障害のある人が地域で生活するとき、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇印3つまで)

1. 就職・職場で不利な扱いを受けること
2. 結婚に周囲が反対する
3. 障害のある人を、じろじろ見たり、避けたりすること
4. 学齢期の子どもを中心に「いじめ」がある
5. 差別的な発言や行動をすること
6. 障害のある人の意見や行動を尊重しないこと
7. 近隣や地域の人とのふれあいや理解を深めるような機会が少ないこと
8. 外出時に道路、店舗、公園等の利用が不便なこと
9. 外出時に交通機関の利用が不便なこと
10. 道路の段差解消やエレベーター設置等の暮らしやすいまちづくりが図られていないこと
11. アパートや住宅へ入居するための契約等が困難なこと
12. 障害のある人を狙った詐欺や悪徳商法などの犯罪が多い
13. スポーツ・文化活動・地域活動に気軽に参加できないこと
14. 能力を発揮する場所や機会が少ないこと
15. その他 ()
16. 特に問題はない
17. わからない

問 25. 4～5年前に比べて、国内では障害者の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

1. 以前に比べて障害者の人権は尊重されてきていると感じる
2. どちらかといえば尊重されてきていると感じる
3. あまり尊重されているとは言えない
4. 以前に比べて問題が目立ってきている
5. わからない

問 26. 障害のある人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(○印3つまで)

1. 障害のある人の人権を守るための教育・啓発活動を推進する
2. バリアフリー化を進めるなど、生活環境の整備を進める
3. 障害のある人を狙った犯罪の防止など、権利や生活を守る制度を充実させる
4. 障害のある人に就業場所や機会をつくるとともに、日常生活への支援を充実させる
5. 障害のある人とない人の交流を促進する
6. 医療やリハビリテーションなどの支援体制を充実させる
7. 障害のある人のための相談・支援体制を充実させる
8. 人権侵害があった場合に救済するための体制を強化する
9. その他 ()
10. 特に必要はない
11. わからない

【ハンセン病元患者等・HIV感染症患者等の人権についておたずねします】

問 27. ハンセン病元患者等・HIV感染症患者等に関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. マスコミによりプライバシーが侵害されること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. 学校などにおけるいじめや入園が拒否されること
4. 施設において入所の拒否や、入所者が退所させられること
5. 悪い噂や病気に関する情報が他人に伝えられるなどプライバシーが守られないこと
6. 感染症などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でないこと
7. 結婚を断ったり、周囲が結婚を反対すること
8. 差別的な発言や行動をすること
9. その他 ()
10. 特に問題はない
11. わからない

問 28. 4～5年前に比べて、国内ではハンセン病元患者等・HIV感染症患者等の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。(○印1つ)

1. 以前に比べて患者等の人権は尊重されてきていると感じる
2. どちらかといえば尊重されてきていると感じる
3. あまり尊重されているとは言えない
4. 以前に比べて問題が目立ってきている
5. わからない

問 29. ハンセン病元患者等・HIV感染症患者等の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 病気に関する正しい情報の提供や理解を深める啓発活動を推進する
2. 病気に関する正しい知識を義務教育の中でも教育する
3. 感染症患者等のプライバシーを保護する
4. 感染症患者等を支援するため、行政、医療機関、NGO等のネットワーク化を進める
5. プライバシーに配慮した医療体制やカウンセリング体制を充実させる
6. エイズ患者・HIV感染者等のための人権相談や電話相談を充実させる
7. その他()
8. 特に必要はない
9. わからない

【同和問題についておたずねします】

問 30. あなたは、同和問題^注や同和地区があることをご存じでしたか。(○印1つ)

1. 知っている → [問 31 へお進み下さい](#) 2. 知らない → [問 34 へお進み下さい](#)

注【同和問題】日本の社会に「同和地区」「被差別部落」などとよばれ、差別を受けている地区があること、あるいは「同和問題」「部落問題」「部落差別」などといわれる人権問題があること。

問 31 (問 30 で1と回答した方に) あなたが、同和問題や同和地区について、はじめて知ったのはいつですか。(○印1つ)

1. 6歳未満(小学校に入る前)
2. 6歳～12歳未満(小学生のころ)
3. 12歳～15歳未満(中学生のころ)
4. 15歳～18歳未満(高校生のころ)
5. 18歳以上

問 32 (問 30 で1と回答した方に) あなたが、同和問題や同和地区について、初めて知ったきっかけは何ですか。(○印1つ)

1. 家族から聞いた
2. 親せきの人から聞いた
3. 近所の人から聞いた
4. 職場の人から聞いた
5. 学校の授業で教わった
6. 学校で友だちから聞いた
7. インターネット・テレビ・ラジオ
・新聞・本などで知った
8. 人権問題の講演会や研修会などで知った
9. 県や市町村の広報や冊子などで知った
10. その他()
11. 覚えていない

問 33 (問 30 で 1 と回答した方に) あなたは、同和地区や同和地区の人ということを気にしたり、意識したりすることがありますか。(○印いくつでも)

1. 気にしたり意識したりすることはない
2. 結婚するとき
3. 人を雇うとき
4. 同じ職場で働くとき
5. 自分の子どもが同じ学校に通学するとき
6. 隣近所で生活するとき
7. 同じ団体^注のメンバーとして活動するとき
8. 飲食したり付き合ったりするとき
9. 家や土地などの不動産を買ったり借りたりするとき
10. 店で買い物をするとき
11. 仕事上でかかわりを持つとき
12. その他 ()

注【団体】例えば町内会、自治会、PTA、サークルなど。

問 34. あなたが、同和問題で特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. 結婚などで周囲が反対すること
2. 身元調査をするなど不当な扱いをすること
3. 就職・職場で不利な扱いをすること
4. 差別的な発言や行動をすること
5. 差別的な落書きをすること
6. インターネットを利用して差別的な情報を掲載すること
7. その他 ()
8. 特に問題はない
9. わからない

問 35. 4～5年前に比べて、同和地区の人の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。(○印1つ)

1. 以前に比べて同和地区の人の人権は尊重されてきていると感じる
2. どちらかといえば尊重されてきていると感じる
3. あまり尊重されているとは言えない
4. 以前に比べて問題が目立ってきている
5. わからない

問 36. 同和問題を解決するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 行政が、差別意識をなくし人権を大切に教育・啓発活動を積極的に行う
2. 学校や地域における人権教育を推進する
3. 広報誌や人権講演会の開催などを通じて、人権啓発を推進する
4. 市民一人ひとりが、同和問題について、正しい理解を深めるように努力する
5. 同和地区の人が差別に負けないように努力し、積極的に社会に働きかけていく
6. 同和地区の人が一定の地区に生活しないで、分散して住むようにする
7. 同和問題についての差別は自然になくなる
8. 同和問題について自由に意見交換ができる社会環境をつくる
9. 同和問題についての人権相談や生活相談などを充実する
10. えせ同和行為^注を防止する取り組みを充実させる
11. インターネットの利用等にかかわる規制をする
12. その他 ()
13. 特に必要はない
14. わからない

注【えせ同和行為】「同和問題はこわい問題であり、できれば避けたい」との誤った意識を悪用して、何らかの利権を得るため、同和問題を口実にして企業・行政機関等に「ゆすり」「たかり」等をする行為。

【外国人の人権についておたずねします】

問 37. 外国人が地域で生活するうえで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. アパートなど住宅への入居が困難である
2. 生活習慣や文化などへの理解不足から、地域社会の受け入れが十分でない
3. 就職の困難さや、賃金など労働条件で不利に扱われる
4. 国籍を理由に周囲が結婚に反対する
5. 外国人をじろじろ見たり、避けたりすること
6. 差別的な発言や行動をすること
7. 福祉サービスなどの対象外となる
8. 外国語で対応できる行政相談窓口や病院・施設が少ないこと
9. 近隣や地域の人とのふれあいや理解を深める機会が少ないこと
10. 道路や施設の看板の外国語表記などが不十分なこと
11. その他 ()
12. 特に問題はない
13. わからない

問 38. 4～5年前に比べて、外国人の人権は尊重されてきているとお感じになりますか。
(○印1つ)

1. 以前に比べて外国人の人権は尊重されてきていると感じる
2. どちらかといえば尊重されてきていると感じる
3. あまり尊重されているとは言えない
4. 以前に比べて問題が目立ってきている
5. わからない

問 39. 外国人の人権を守るためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 外国の文化に対する理解や尊重に向けた教育を充実する
2. 人権教育や在日外国人教育、国際理解教育を充実する
3. 外国人と日本人との交流を進める
4. 外国人のための日本語教室を設ける
5. 外国人の就職の機会均等を確保する
6. 不法な就労や雇用などに対する取り締まりや罰則を強化する
7. 外国人のための福祉・医療等の制度を設ける
8. 外国人のための人権相談体制を充実させる
9. とともに暮らす市民であることの理解を深める啓発を進める
10. 外国語による情報提供を充実させる
11. その他 ()
12. 特に必要はない
13. わからない

【インターネットに関する人権問題についておたずねします】

問 40. あなたはふだん、インターネットを利用していますか。(○印1つ)

1. 主にパソコンで利用している
2. 主にスマートフォンやタブレット端末・携帯電話で利用している
3. 両方利用している
4. インターネットは利用していない

問 41. 4～5年前に比べて、インターネットやSNS^注などの普及に伴う人権への悪影響や、人権に配慮が必要となるケースが増えていると思いますか。(○印1つ)

1. そう思う
2. どちらかといえばそう思う
3. あまりそう思わない
4. そう思わない

注【SNS】ソーシャル・ネットワーキング・サービス (social networking service) インターネット上の交流を通して、自分の趣味、好み、友人、社会生活などのことを公開しながら、幅広いコミュニケーションを取り合うことを目的としたコミュニティ型のWeb サイトのこと (Facebook や GREE、mixi などが有名)。

問 42. インターネットに関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印いくつでも)

1. 他人を誹謗中傷する悪口や差別的な表現などを掲載すること
2. 犯罪を誘発する出会い系サイトなどがあること
3. 子どもや未成年者が犯罪に巻き込まれること
4. 捜査対象の未成年者の実名や顔写真を掲載すること
5. わいせつ画像や残虐な画像など有害なホームページがあること
6. 個人情報流出すること
7. プライバシーに関する情報が掲載されること
8. 悪質商法によるインターネット取引での被害があること
9. 第三者が無断で他人の電子メールを閲覧すること
10. いったん流れた情報の訂正や回収が難しいこと
11. その他 ()
12. 特にない
13. わからない

問 43. インターネットによる人権侵害を防ぐためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 人権侵害を受けた人のための相談体制を充実する
2. インターネット利用の際のルールやマナーの啓発・教育を推進する
3. プロバイダ^注等に対し情報の停止や削除を求める
4. 違法な情報発信者に対する監視や取り締まりを強化する
5. その他 ()
6. 特にない
7. わからない

注【プロバイダ】インターネット接続事業者

【犯罪被害者やその家族の人権についておたずねします】

問 44. 犯罪被害者やその家族の人権に関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. 犯罪行為によって精神的なショックを受けること
2. 犯罪行為によって経済的負担を受けること
3. 事件のことに関して周囲にうわさ話をされること
4. 警察に相談しても期待どおりの対応が得られないこと
5. 捜査や刑事裁判において精神的負担を受けること
6. 刑事手続きに必ずしも被害者の声が十分反映されるわけではないこと
7. 報道によるプライバシーの公表や、取材による私生活への影響があること
8. その他 ()
9. 特に問題はない
10. わからない

【刑を終えて出所した人の人権についておたずねします】

問 45. 刑を終えて出所した人の人権に関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. 更生した人に対する誤った認識や偏見があること
2. 就職・職場で不利な扱いを受けること
3. アパートなど住宅への入居を拒否されること
4. 結婚などで周囲が反対すること
5. じろじろ見られたり、避けられたりすること
6. 周囲にうわさ話をされること
7. その他 ()
8. 特に問題はない
9. わからない

【被災者の人権についておたずねします】

問 46. 東日本大震災や、福島第一原子力発電所の事故の発生に伴う被災者の人権に関することで、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(○印3つまで)

1. 職場や学校などで嫌がらせやいじめを受けること
2. 差別的な言動をされること
3. アパートなど住宅への入居を拒否されること
4. 宿泊施設・店舗等への入店や施設利用を拒否されること
5. 学校・幼稚園等への入学や入園を拒否されること
6. 避難生活の長期化によるストレスに伴ういさかみや虐待
7. その他 ()
8. 特に問題はない
9. わからない

【人権尊重社会の実現についておたずねします】

問 47. あなたは、人権を尊重する心や態度を育むためには、学校においてどのような教育を行ったらよいと思いますか。(○印2つまで)

1. 人権について考えるような教育を進める
2. 自分を認め自信がもてるような教育を進める
3. 差別は悪いことであるという意識を持たせる教育を進める
4. 差別の歴史や現状などが理解できるような教育を進める
5. 障害のある人や高齢者などとの交流体験を通じた教育を進める
6. 主体的に人権問題の解決に向けた行動ができるような教育を進める
7. その他 ()
8. わからない

↓裏面に続きます

問 48. あなたは、これまでに人権をテーマとした研修会や講演会に参加したことがありますか。(○印いくつでも)

1. 女性問題	7. 感染症患者等の問題
2. 子どもの人権問題	8. 環境と人権の問題
3. 高齢者問題	9. プライバシーの問題
4. 障害者問題	10. 人種差別・民族差別などの人権問題
5. 同和問題	11. その他 ()
6. 在住外国人問題	12. 研修会や講演会に参加したことはない

問 49. あなたは、四万十市が目指す「互いに人権を尊重しあい、ともに生きる社会」を実現するためには、今後どのような取り組みが必要だと思いますか。(○印3つまで)

1. 幼少期からの人権教育を充実させる
2. 市民の人権意識を高めるための啓発活動を積極的に進める
3. 行政が人権尊重の視点に立って様々な施策を行う
4. 企業、事業所における人権尊重に向けた取り組みを支援する
5. 公民館などで行う生涯学習において人権教育を充実させる
6. 人権問題に積極的に取り組んでいくような地域のリーダーを養成する
7. 住民やNPOなどによる人権尊重に向けた取り組みを支援する
8. 人権にかかわりの深い職業に従事する人 ^注 の人権意識の向上を図る
9. 人権侵害を受けた人に対する救済策を充実する
10. その他 ()
11. 特にない
12. わからない

注【人権にかかわりの深い職業に従事する人】教職員、保健・医療・福祉関係従事者、公務員など

問 50. 人権問題について、ご意見やご要望などがございましたら、自由にお書きください。

～ご協力ありがとうございました～